

# 羽津ポンプ場耐震補強工事 設計図面

## 図面リスト

| 表紙・図面リスト |                  | < 構造図 >         |                             | < 電気設備図 > |                        | < ●●● > |  |
|----------|------------------|-----------------|-----------------------------|-----------|------------------------|---------|--|
| A-01     | 特記仕様書(1)         | NON             | S-01 耐震改修工事仕様書(1)           | NON       | E-01 特記仕様書 建築電気設備1     | NON     |  |
| A-02     | 特記仕様書(2)         | NON             | S-02 耐震改修工事仕様書(2)           | NON       | E-02 特記仕様書 建築電気設備2     | NON     |  |
| A-03     | 特記仕様書(3)         | NON             | S-03 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)     | NON       | E-03 建築電気設備 電灯設備 1階平面図 | 1/100   |  |
| A-04     | 特記仕様書(4)         | NON             | S-04 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)     | NON       |                        |         |  |
| A-05     | 特記仕様書(5)         | NON             | S-05 補強位置図 1階柱2階床梁伏図        | 1/100     |                        |         |  |
| A-06     | 特記仕様書(6)         | NON             | S-06 補強位置図 2階柱3階床梁伏図        | 1/100     |                        |         |  |
| A-07     | 附近見取図 配置図        | 1/2500<br>1/300 | S-07 補強位置図 3階柱クレーンゲーター階床梁伏図 | 1/100     |                        |         |  |
| A-08     | 全体断面図 仕上表        | 1/100           | S-08 補強位置図 3階柱R階床梁伏図        | 1/100     |                        |         |  |
| A-09     | 1・2階平面図 現況撤去     | 1/100           | S-09 柱補強位置図 C通軸組図           | 1/100     |                        |         |  |
| A-10     | 3・R階平面図 現況撤去     | 1/100           | S-10 補強詳細図 柱増打補強詳細図         | 1/30      |                        |         |  |
| A-11     | 1・2階平面図 改修後      | 1/100           |                             |           |                        |         |  |
| A-12     | 3・R階平面図 改修後      | 1/100           |                             |           |                        |         |  |
| A-13     | 立面図 現況撤去         | 1/100           |                             |           |                        |         |  |
| A-14     | 立面図 改修後          | 1/100           |                             |           |                        |         |  |
| A-15     | 断面図 現況撤去         | 1/100           |                             |           |                        |         |  |
| A-16     | 断面図 改修後          | 1/100           |                             |           |                        |         |  |
| A-17     | 矩計図 現況撤去・改修後     | 1/100           |                             |           |                        |         |  |
| A-18     | 1階平面詳細図 現況撤去・改修後 | 1/30            |                             |           |                        |         |  |
| A-19     | 2階平面詳細図 現況撤去・改修後 | 1/30            |                             |           |                        |         |  |
| A-20     | 3階平面詳細図 現況撤去・改修後 | 1/30            |                             |           |                        |         |  |
|          | 1階天井伏図 現況撤去・改修後  |                 |                             |           |                        |         |  |
| A-21     | 展開図(1) 現況撤去・改修後  | 1/50            |                             |           |                        |         |  |
| A-22     | 展開図(2) 現況撤去・改修後  | 1/50            |                             |           |                        |         |  |
| A-23     | 仮設計画平面図          | 1/100           |                             |           |                        |         |  |
| A-24     | 仮設計画立面図          | 1/100           |                             |           |                        |         |  |

令和 5年 7月

四日市市 上下水道局 技術部 施設課  
株式会社エフウォーターマネジメント

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                   |      |   |
|--------------------|-------------------|------|---|
| 年度                 | 令和 年度             |      |   |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事      |      |   |
| 図面名称               |                   |      |   |
| 縮尺                 | A1<br>A3          | 図面番号 | / |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント |      |   |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                   |      |   |

| 工事特記仕様書   |             |  |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
|---|-------------|--|--|-----|---|--|---|--|---|--|----|-----|------------|------|-----|-----|-------|-------------|-------|-----|-----|------|------------------|-----|-----|-------|--------|--|--|-----|------|---------|--|-----|--|------|------------|--|-----|-----------|---------|----------|--|--|--|--|--|---|--|----|-----|----|------|--------|------------|---|------|
| <p>総 則</p> <p>工 事 概 要</p> <p>1. 工事場所 四日市市 大字羽津 地内</p> <p>2. 工事種目 耐震補強工事</p> <p>1. 共通仕様</p> <p>(1) 図面及び特記仕様に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(令和4年版)」(以下「改修標仕」という。)による。ただし、改修標仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(令和4年版)」(以下「標仕」という。)による。</p> <p>2. 特記仕様</p> <p>(1) 項目は、○印の付いたものを適用する。</p> <p>(2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。</p> <p>◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。</p> <p>◎印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。</p> <p>(3) 特記事項に記載の[ ] 内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p> <p>(4) 特記事項に記載の(標 . . . ) 内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p> <p>部分完成 ○無 ・有( )</p> <p>部分引渡し ○無 ・有( )</p> <p>1) 保険及び保証 ○建設工事保険 (保険証の写しを提出)</p> <p>○請負業者賠償責任保険 (保険証の写しを提出)</p> <p>( ・管理財物担保特約に加入のこと)</p> <p>・任意にて加入</p> <p>下記の制度について加入すること。</p> <p>○法定外労災補償制度 (加入証明書の写しを提出)</p> <p>○建設業退職金共済制度 当初の請負金額が500万円以上の場合は、掛金収納書を提出すること。また、増額の契約変更があった場合についても、その分を提出すること。 共済証紙購入額 請負金額の 1/1000以上</p> <p>なお、他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は、理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする</p> <p>・任意にて加入</p> <p>※資材の購入及び下請け業者の選定に際しての留意事項</p> <p>資材の購入及び工事の一部を下請け業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、出来る限り市内業者を優先させること。</p> |             |  | <p>⑥ 発生材の処理</p> <p>7 交通安全管理</p> <p>⑧ 建築材料等</p> <p>⑨ 化学物質を発散する建築材料等</p> |     | <p>○振動、騒音、ほこりのでる作業やその他について、事前に施設管理者及び近隣施設等と調整を行うこと。</p> <p>○音の発生する工事は昼間の作業とし、早朝、夕方以降は作業を行わないこと。また、低騒音の建設重機を使用し周辺への影響に配慮すること。</p> <p>○同一敷地内での別途工事について、協議に応じること。</p> <p>・2023/ / ~ / は工事を行わないこと。</p> <p>・工事期間は、 / ~ / とする。尚、 / ~ 工事担当確認後事前使用を行うこととする。</p> <p>○高さ5mを超える箇所での作業を有する場合の墜落制止用器具はフルハーネス型を使用すること。</p> <p>・引渡しを要するもの( ) [1.3.12]</p> <p>○特別管理産業廃棄物 ※無 ○有( ) 処理方法( )</p> <p>○特定建設資材の搬出</p> <p>再資源化等を行う(再資源化が困難な場合には縮減)</p> <p>○特定建設資材以外の搬出 ○構外搬出適正処理</p> <p>※廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びB票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)により確認を行う場合は、この限りではない。</p> <p>※建設発生土を搬出する場合は、事前に書面にて処分地の報告(位置図等)を行い、処分地での処理状況が分かる写真を提出すること。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。</p> <p>交通誘導員 ※配置する 名以上(大型車の出入は必ず) ・配置しない [1.3.9]</p> <p>※本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又は同等のものとする。</p> <p>ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。</p> <p>・品質及び性能を試験により証明を求める材料は以下の物とする。 [1.4.5]</p> <p>( )</p> <p>本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の 1) から 5) を満たすものとする。</p> <p>1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、パーティクルボード、MDF、その他木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗料は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びステレンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>3) 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンキシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>5) 1)及び 4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。</p> <p>規制対象外</p> <p>① J I S 及び J A S の F ☆☆☆ 規格品</p> <p>② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品</p> <p>③ 下記表示のある J A S 規格品</p> <p>a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用</p> <p>b. 接着剤等不使用</p> <p>c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用</p> <p>d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用</p> <p>e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用</p> <p>f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用</p> <p>第三種</p> <p>① J I S 及び J A S の F ☆☆☆ 規格品</p> <p>② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品</p> <p>③ 旧 J I S の E o 規格品</p> <p>④ 旧 J A S の F c o 規格品</p> <p>改修標仕、標仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。</p> <p>※適用する ○適用しない</p> <p>・鉄筋施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・塗装 ・左官</p> <p>※防水施工 ・建築大工 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工</p> <p>施行完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、パラジクロロベンゼン、ステレンの濃度を測定し報告すること。</p> <p>測定は、パッシブ型採集機器により行う。</p> <p>着工前測定 ・行う ・行わない</p> <p>測定対象室 ・図示 ・</p> <p>測定箇所数 ・図示 ・</p> <p>採取方法 ・文部科学省の定めるところによる。 ・</p> <p>報告書の様式 濃度測定記録表の記載事項は、次のとおり</p> <p>1. 工事名 2. 測定年月日 3. 天候 4. 測定前の換気及び閉鎖時間</p> <p>5. 測定時間 6. 室名と測定時間 7. 測定器具</p> <p>8. 化学物質採取方法 9. 分析装置</p> |  | <p>③ 完成図</p> <p>○提出する ※提出しない [1.8.1~3]</p> <p>種類 ※改修標仕 表1.8.1による ・</p> <p>○配置図及び案内図 ○各階平面図</p> <p>○各立面図 ○断面図</p> <p>○仕上表 ○施工図</p> <p>・施工計画書 ・</p> <p>※C A Dデータの提出 ※提出する ・提出しない</p> <p>○保全に関する資料 提出部数 ※1部 ・</p> <p>○製本図面 提出部数 ※1部 ○2部 ・3部</p> <p>④ 記 録</p> <p>工事記録については以下による。(A4版)</p> <p>※工事着手前写真 1 部</p> <p>※工程写真 各工程毎 1 部</p> <p>※竣工写真 ※内部、外部 2 部</p> <p>※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うよう努めること。</p> <p>※工事日報・納品伝票等の写しは、監督職員が提出を求めた場合は提出すること。</p> <p>⑤ 設備工事との取合い</p> <p>施工範囲 ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強</p> <p>※図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強</p> <p>⑥ 設計 G L</p> <p>※図示のベンチマーク ( B . M ) mm (現状地盤は B . M mm)</p> <p>⑦ 完成引渡し後の点検</p> <p>かし期間は、別に定めた特約(責任施工による保証期間など)を除き、四日市市工事請負契約書に準拠する。</p> <p>・工事完成引渡し後、必要に応じて一年又は二年を超えない範囲の適当な時期に、双方立ち会いて工事目的物のかし点検を実施する。</p> <p>⑧ 随時検査</p> <p>予定価格(税込)3000万円以上の工事は、四日市市検査規程第8条第6項の規定により、発注者が随時検査を求めた場合、監督職員の指示に従い受検すること</p> <p>⑨ 施工体制台帳の提出</p> <p>公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。なお、営繕事業者についても記載すべき下請負の範囲に含むものとする。</p> <p>⑩ 資源有効利用促進</p> <p>※本工事が資源の有効な利用の促進に関する法律(平成三年法律第四十八号)の規定により再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合(下記内容該当工事)は、受注者は、工事の完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならない。</p> <p>・建設副産物を搬出する際の計画</p> <p>1. 土砂500m3以上</p> <p>2. コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材の合計が200t以上</p> <p>・再生資材を利用する際の計画</p> <p>1. 土砂500m3以上 3. 加熱アスファルト200t以上</p> <p>2. 碎石500t以上</p> |  | <p>① 足場その他</p> <p>内部足場 種別 ※きやつ、足場板等 ○枠組本足場 [2.2.1]</p> <p>外部足場 種別 ※くさび緊結式(手すり先行工法) ○枠組本足場 [2.2.1]</p> <p>防護シートによる養生 ・行わない ○行う</p> <p>騒音・粉じん等の対策 ・行わない ○行う( ・防音パネル ・防音シート) [2.1.3]</p> <p>材料、撤去材等の運搬 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 [2.2.1][表2.2.1]</p> <p>既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ・ [2.3.1]</p> <p>固定家具等の移動 ※行わない ・ 行う(図示)</p> <p>(a) 設置箇所 ※図示 ・ [2.3.2][表2.3.1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>下 地</th> <th>仕上材(厚さ mm)</th> <th>充てん材</th> <th>塗 装</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td>※軽量鉄骨</td> <td>・合板(※9.0 ・)</td> <td rowspan="2">厚さ mm</td> <td>※無し</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>・木下地</td> <td>※せっこうボード(※9.5 ・)</td> <td>・片面</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>・単管下地</td> <td>・防炎シート</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設扉</td> <td>※木製扉</td> <td>・合板張り程度</td> <td></td> <td>※無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・鋼製扉</td> <td>・片面フラッシュ程度</td> <td></td> <td>・有り</td> </tr> </tbody> </table> <p>・設ける 規模等は以下による ・既存施設の一部を使用する ※設けけない [2.4.1]</p> <p>( ・規模 m程度 ・仕上げ:床 、壁 、天井 程度)</p> <p>⑤ 工事用水</p> <p>⑥ 工事用電力</p> <p>1 既存下地の補修及び処置 ※図示による [3.2.6]</p> <p>2 アスファルト防水 既存露出防水層表面の仕上塗装の除去 ・する ・しない [3.3.2~3][表3.1.1][表3.3.3~10]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防水改修工法の種類</th> <th>施 工 箇 所</th> <th>新規防水層の種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>アスファルトの種類 ※3種 ・ 押え金物 ※アルミニウム製(L-30x15x2.0程度)</p> <p>脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量( )箇所</p> <p>改修用ドレン ※設ける( 箇所) ※鋼製 ・鉛製 ・設けけない [3.2.5]</p> <p>屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材</p> <p>材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スチン層付き)</p> <p>厚さ(mm) ※35</p> <p>屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材</p> <p>材質 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材</p> <p>・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号</p> <p>厚さ(mm) ※35</p> |  | 種別 | 下 地 | 仕上材(厚さ mm) | 充てん材 | 塗 装 | ・A種 | ※軽量鉄骨 | ・合板(※9.0 ・) | 厚さ mm | ※無し | ・B種 | ・木下地 | ※せっこうボード(※9.5 ・) | ・片面 | ・C種 | ・単管下地 | ・防炎シート |  |  | 仮設扉 | ※木製扉 | ・合板張り程度 |  | ※無し |  | ・鋼製扉 | ・片面フラッシュ程度 |  | ・有り | 防水改修工法の種類 | 施 工 箇 所 | 新規防水層の種別 |  |  |  | <p>2 章</p> <p>仮 設 工 事</p> <p>3 仮設間仕切り</p> <p>4 監督職員事務所</p> <p>5 工事用水</p> <p>6 工事用電力</p> <p>3 章</p> <p>防 水 改 修 工 事</p> <p>1 既存下地の補修及び処置</p> <p>2 アスファルト防水</p> |  | <p>※産業廃棄物税</p> <p>本工事は産業廃棄物税相当分が計上されていないため、請負者が本工事により生じた産業廃棄物が、課税対象となつた場合には、翌年度に産業廃棄物税納税証明書等を添付して、本工事により生じた産業廃棄物税相当分を請求することができる。</p> <p>株式会社エフウオーターマネジメント</p> <p>一級建築士事務所</p> <p>滋賀県知事登録(又)第354号</p> <p>一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己</p> <p>工事名</p> <p>羽津ポンプ場耐震補強工事</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>図面名</th> <th>縮尺</th> <th>図面番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年7月</td> <td>特記仕様書(改修1)</td> <td>—</td> <td>A-01</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和5年版 1/24</p> |  | 日付 | 図面名 | 縮尺 | 図面番号 | 令和5年7月 | 特記仕様書(改修1) | — | A-01 |
| 種別  | 下 地         | 仕上材(厚さ mm)                             | 充てん材   | 塗 装 |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| ・A種   | ※軽量鉄骨       | ・合板(※9.0 ・)                            | 厚さ mm  | ※無し |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| ・B種   | ・木下地        | ※せっこうボード(※9.5 ・)                       |  | ・片面 |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| ・C種   | ・単管下地       | ・防炎シート                                 |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| 仮設扉   | ※木製扉        | ・合板張り程度                                |  | ※無し |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
|   | ・鋼製扉        | ・片面フラッシュ程度                             |  | ・有り |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| 防水改修工法の種類   | 施 工 箇 所     | 新規防水層の種別                               |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
|   |             |  |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| 日付  | 図面名         | 縮尺                                     | 図面番号   |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| 令和5年7月  | 特記仕様書(改修1)  | —                                      | A-01   |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| 章   | 項 目         | 特 記 事 項                                |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| 1 章   | ① 適用基準等     | ○建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成 28 年版) |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
|   | ② 工事実績情報の登録 | ※請負金額が 500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4]      |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| 一般 共通 事項  | 3 品質計画      | ※建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事                |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
|   | 4 電気保安技術者   | ※風速 (Vo)=34 m毎秒                        |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| ⑤ 条件明示項目  | ① 条件明示項目    | ○週休2日制工事 試行工事 [1.3.5]                  |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
|   |             | ○対象工事(※受注者希望型)                         |  |     |   |  |   |  |   |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |
| <p>【令和4年10月を適用(四日市市HP 入札情報参照)】</p> <p>尚、発注者の指示又は承諾により週休2日制に係る休日に施工する場合は、休工日を振り替えることができる。</p> <p>・対象外工事</p> <p>○工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・</p> <p>○工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。</p> <p>○現場工事は月～金とし、土、日、祝日に作業を行う場合は、監督職員の承諾を得ること。</p> <p>○施工作业時間は原則8:30~17:00とすること。清掃片付け等含む。</p> <p>○施工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。</p> <p>○工事に関わる法令手続きは受注者にて行うこと。手続きに係る手数料は受注者の負担(道路占用許可申請における占用料は除く)とする。</p> <p>○仮囲い等について周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。</p> <p>○工程計画については、関係者等と十分に調整を行った上で進めること。</p> <p>○資機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。</p> <p>○大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること。</p> <p>○高さ10mを超える足場を60日以上設置する場合は、着手の30日前までに、設置届を所管官庁へ提出すること。</p> <p>○道路の汚損がないように努めると共に、汚損した場合は直ちに清掃を行うこと。</p> <p>○既設構造物を汚損した場合は、受注者負担にて補修等を行うこと。</p> <p>○工事により発生する残土や廃材、汚泥等は適切処理を行うこと。また、必要に応じて釜場を設け、敷地外への泥水の流出を防止すること。</p> <p>○工事期間中は、近隣住民の安全確保に努めること。</p>   |             |  | <p>⑩ 特別な材料の工法</p> <p>① 技能士</p> <p>12 化学物質の濃度測定</p>                     |     | <p>① 技能士</p> <p>12 化学物質の濃度測定</p>  |  | <p>① 技能士</p> <p>12 化学物質の濃度測定</p>  |  | <p>① 技能士</p> <p>12 化学物質の濃度測定</p>  |  |    |     |            |      |     |     |       |             |       |     |     |      |                  |     |     |       |        |  |  |     |      |         |  |     |  |      |            |  |     |           |         |          |  |  |  |  |  |   |  |    |     |    |      |        |            |   |      |

|              |                     |   |
|--------------|---------------------|---|
| 3章<br>防水改修工事 | 3 改質アスファルトシート防水     | 乾式保護材 製造所の仕様による・<br>防水保護のれんがの種類 ※市販品のレンガ又は市販品のレンガ形コンクリートブロック<br>保護コンクリート仕上り平たんき種別 ・a種 ・b種 ・c種 [3.3.5][8.1.4][表8.1.5]<br>仕上塗装 (P2A,M3D,POD,PODI,M3DI,M4DI,工法) ※種類および使用量は製造所の仕様による<br>施工標識 ※設ける ・設けない<br>[表3.1.1][3.4.2~3][表3.4.1~3]<br>防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類(厚さmm) 仕上げ塗料等  |
|              | 4 合成高分子系ルーフィングシート防水 | 仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による・<br>脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量 ( )箇所<br>屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 ・製造所の指定する製品<br>※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材<br>・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号<br>施工標識 ※設ける ・設けない<br>[表3.1.1][3.5.2~3][表3.5.1~2]<br>防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類(厚さmm) 仕上げ塗料等   |
|              | 5 塗膜防水              | 仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による・<br>絶縁用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート [3.5.2]<br>可塑性移行防止用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート [3.5.2]<br>脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量 ( )箇所<br>機械固定工法に用いる断熱材 ※次のいずれかによる・<br>※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材<br>・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号<br>・押出法ポリスチレンフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b<br>接着工法に用いる断熱材<br>※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材<br>・ポリエチレンフォーム断熱材<br>改修用ドレン ※設ける ( )箇所 ・設けない<br>※製造所の指定する製品 ・銅製 ・鉛製<br>施工標識 ※設ける ・設けない<br>[表3.1.1][3.6.2~3][表3.6.1]<br>防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類 仕上げ塗料等 |
|              | 6 保証期間              | 防水の保証期間は原則、表面仕上材塗替なしで10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。<br>・シーリング充填工法 ◎シーリング再充填工法 [3.1.4][表3.1.2]<br>・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法<br>シーリング材の種類、施工箇所 [3.7.2][表3.7.1]<br>※下表以外は、改修標仕表 3.7.1を標準とする<br>施工箇所 シーリング材の種類(記号)   |

|                  |   |
|------------------|---|
| 3 ひび割れ部改修工法      | ・樹脂注入工法 (・モルタル面 ・躯体コンクリート面) [4.1.4][4.2.5]<br>注入工法の種類 ひび割れ幅(mm) 注入口間隔(mm) 注入量(cc/m) 備考<br>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上~1.0未満 ※200~300 ※<br>・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上~0.3未満 ※50~100 ※40<br>・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上~0.5未満 ※100~200 ※70<br>0.5以上~1.0未満 ※150~250 ※130<br>注入材料 ※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A 6024低粘度形又は中粘度形)<br>検査(コア抜き) ・行わない ※行う(抜き部の補修方法: )<br>・Uカットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.6]<br>充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系シーリング材<br>・可とう性エポキシ樹脂<br>ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない<br>・シール工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.7]<br>シール材料 ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂<br>※充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.8]<br>充填材料 ・ポリマーセメントモルタル (・モルタル面 ・コンクリート面 ・CB面)<br>・エポキシ樹脂モルタル ( )<br>・モルタル塗替え工法 (改修標仕4.3.5(5)による)<br>[4.1.4][4.3.10~16][表4.4.3~4]<br>改修工法の種類 アンカーピンの本数(本/m <sup>2</sup> ) 注入口の箇所数(箇所/m <sup>2</sup> ) 充てん量(モルタルを撤去しない場合) 一般部 指定部 一般部 指定部 注入量<br>・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※16 ※25 ※25ml<br>・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25ml<br>・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25ml<br>・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※25ml<br>・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25ml<br>・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※50ml<br>※狭幅部におけるアンカーピン本数は、幅中央に5本/mとする<br>アンカーピン [4.2.4]<br>材質 ※ステンレス SUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの<br>注入口付アンカーピン [4.2.4]<br>材質 ※ステンレス SUS304、呼び径外径6mm |
| 4 欠損部改修工法        | 既存塗膜等の除去及び下地処理 [4.5.4][表4.5.4~7]<br>工法 処理範囲 下地面の補修<br>・サンダー工法 ※既存仕上面全体 ・ひび割れ部改修工法<br>・高圧水洗工法 ※既存仕上面全体 ・浮き部改修工法<br>・塗膜はく離剤工法 ※既存仕上面全体 ・欠損部改修工法<br>・水洗工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上面全体  |
| 5 浮き部改修工法        | 下地調整材 [4.2.4][4.6.3]<br>※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材を使用<br>種類、仕上げの形状、工法 [4.5.1][4.5.2][表4.5.1~2]<br>種類 呼び名 仕上の形状<br>◎薄付け仕上塗材 ◎外装薄塗材E ◎砂壁状・着色骨材砂壁状<br>・可とう形外装薄塗材E ・砂壁状・ゆず肌状<br>・防水形外装薄塗材E ・ゆず肌状・凹凸状<br>・複層仕上塗材 ・複層塗材CE ・ゆず肌状・凸部処理・凹凸状<br>・可とう形複層塗材CE 上塗材 ・水系アクリル<br>・複層塗材E ・水系アクリルシリコン<br>・複層塗材RE 外観 ※つやあり・つやなし<br>・防水形複層塗材CE ・メタリック<br>・防水形複層塗材E 防水形の増塗材 ・行う<br>・可とう形改修用仕上塗材 ※可とう形改修塗材E ・平たん状 ・さざ波状 ※ゆず肌状<br>・可とう形改修塗材RE 上塗材 ・アクリル・ウレタン<br>※シリコン・ふっ素<br>外観 ・吹付 ※ローラー<br>仕上 ※薄付け ・厚付け   |
| 6 既存塗膜等の除去及び下地処理 | ◎仕上塗材仕上げ  |

|              |  |
|--------------|--|
| 8 設計数量       | 外壁部位 種類 工法 数量 備考<br>・コンクリート打直し面 ・ひび割れ ※Uカットシール材充填工法 m<br>・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法 箇所<br>・モルタル塗り仕上げ面 ・ひび割れ ※Uカットシール材充填工法 m<br>・自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 m<br>・欠損部 ※充填工法 m<br>・浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 m <sup>2</sup><br>※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。<br>尚、数量の10%を超える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。  |
| 5章<br>建具改修工事 | 1 改修工法 ・かぶせ工法 ・撤去工法 (・引き抜き工法 ・はつり工法) [5.1.3]<br>2 見本の製作等 ・建具見本の製作 ・特殊な建具の仮組 [5.1.5]<br>3 アルミニウム製建具 外部に面する建具(フロントサッシは除く) [5.2.2][表5.2.1]<br>種類別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所<br>・A種 S-4 A-3 W-4 ※70 ※図示<br>・B種 S-5 A-3 W-4 ※100<br>・C種 S-6 A-4 W-5 ※70・100<br>表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種(※「ロン」系 ・「ラック」 ・「シンカー」) [5.2.4][表5.2.2]<br>内部建具 表面処理 ※AC-1又はBB-1種 ・AC-2又はBB-2種(※「ロン」系 ・「ラック」 ・「シンカー」) [5.2.4][表5.2.2]<br>4 網戸 防虫網 [5.2.3]<br>網の種類 ※ステンレス(SUS316)製 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製<br>形式 ※可動式 ・固定式<br>5 樹脂製建具 外部に面する建具(フロントサッシは製造所の仕様による) [5.3.2][表5.3.1]<br>種類別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所<br>・A種 S-4 A-4 W-4 ※70 ※図示<br>・B種 S-5 A-4 W-5 ※100<br>・C種 S-6 A-4 W-5 ※<br>・防音ドアセット及び防音サッシの適用 種類 ・T-A種 ・T-B種 [5.3.2][表5.3.2]<br>・断熱ドアセット及び断熱サッシの適用 種類 ・H-A種 ・H-B種 ・H-C種 [5.3.2][表5.3.3]<br>6 鋼製建具 簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない [5.4.2]<br>7 鋼製軽量建具 品質規格 ※改修標仕表5.5.1による [5.5.2][5.5.4]<br>・製造所標準仕様による<br>8 ステンレス製建具 簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない [5.6.2][5.6.4]<br>表面仕上げ ※H仕上げ ・鏡面仕上げ<br>曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ<br>簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない<br>9 木製建具 材料の含水率 [5.7.2]表[5.7.1]<br>種類 加工及び組み立て時の含水率<br>※A種 15%以下<br>・B種 18%以下<br>10 建具用金物 マスターキー ・製作する ・製作しない(既存マスターキーに合わせる) [5.8.4]<br>モロック ゴール( ) 美和ロック( )<br>シリンドー箱錠 ゴール( ) 美和ロック( )<br>シリンドー本締り錠 ゴール( ) 美和ロック( )<br>ドアクローザー ダイハツディーゼル機器(大島機工、ニッカナ)<br>日本ドアチェック製造、美和ロック、リヨービ<br>フロアヒンジ 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リヨービ<br>大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造<br>リヨービ、デンセイオートテック<br>押板、取手 樹建工業、ユニオン<br>11 自動ドア開閉装置 開閉方法 ※引き戸 ・多機能トイレ引き戸 [5.9.2~3][表5.9.1~6]<br>センサーの種類 ・光線センサー ・熱線センサー<br>12 自閉式上吊り引戸装置 品質規格 ※改修標仕5.10.3による [5.10.3][表5.10.1]<br>・製造所標準仕様による |
| 4章<br>外壁改修工事 | 1 施工数量調査 調査範囲 ・既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 [1.5.2]<br>調査内容 ひび割れ(0.2mm以上)の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。<br>モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。<br>コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。<br>調査報告書の部数 ※1部<br>外壁の種類 種類 改修工法<br>・コンクリート ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法<br>打直し仕上げ ・欠損部 ・充填工法<br>・モルタル塗り仕上げ ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法<br>・欠損部 ・充填工法 ・モルタル塗替え工法<br>・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法<br>・タイル張り仕上げ ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法<br>・欠損部 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法<br>・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法<br>・目地 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法<br>・塗り仕上げ ・薄付け仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り<br>・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り<br>・複層仕上塗材塗り ・マステック塗料塗り  |

株式会社エフウォーターマネジメント

一級建築士事務所

滋賀県知事登録(ヌ)第354号

一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

工事名

羽津ポンプ場耐震補強工事

日付

令和5年7月

図面名

特記仕様書(改修2)

縮尺

—

図面番号

A-02

2/24

令和5年版

|                  |   |  |   |
|------------------|---|--|---|
| 5章<br>建具<br>改修工事 | 13 重量シャッター                              | 種類<br>・管理用シャッター<br>・外壁用防火シャッター<br>・屋内用防火シャッター<br>・屋内用防煙シャッター<br>開閉機能<br>※上部電動式(手動併用)<br>・上部手動式<br>スラット<br>材質 ※塗装溶融垂鉛めつき鋼板<br>形状 ※インターロッキング形<br>シャッターケース(防火・防煙以外のもの)<br>危険防止機構<br>耐風圧性能 | [5.11.2][表5.11.1]<br>[5.11.2]<br>[5.11.3]<br>[5.11.2]<br>・設ける<br>・設けない<br>・障害物感知装置(自動閉鎖型)<br>・「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」に適合するもの<br>(一般重量・外壁用防火のもの) |
|                  | 14 軽量シャッター                              | 開閉形式<br>スラット<br>材質<br>形状<br>耐風圧性能  | [5.12.2][表5.12.1]<br>[5.12.3]<br>[5.12.4]<br>(N/m <sup>2</sup> )  |
|                  | 15 その他のシャッター                            | ・オーバーヘッドドア<br>・リングリルシャッター  |   |
|                  | 16 ガラス                                  | 種類・厚さ ※ 建具表による   | [5.14.2]  |
|                  | 17 ガラスの留め材                              | 種別(区分は図示による)<br>※シーリング材(SR-1, シリコン系, 9030G)<br>※ガラス飛散防止フィルム<br>性能値   | [5.14.2]<br>・ガスケット<br>(第2種)<br>(B法)   |
| 18 ガラス用フィルム      | 品質は、JIS A5759による<br>※ガラス飛散防止フィルム<br>性能値 |  |   |

|                  |                    |   |  |
|------------------|--------------------|---|--|
| 6章<br>内装<br>改修工事 | ①改修範囲              | 既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲<br>※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う<br>天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲<br>※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う<br>天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修範囲<br>※既存のまま | [6.1.3]<br>○図示による範囲<br>・図示による範囲  |
|                  | ②既存床の撤去並びに<br>下地補修 | ビニル床シート等の撤去<br>改修後の床の清掃範囲<br>合成樹脂塗リ床の除去   | [6.2.2]<br>・除去範囲全て<br>・図示<br>・目荒工法   |
|                  | ③既存壁の撤去<br>並びに下地補修 | 間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修<br>※図示   | [4.3.10][6.3.2]<br>・行う<br>・行わない  |
|                  | 4 木下地等             | 表面の仕上げ<br>木材の含水率<br>木材の品質<br>樹種<br>造作材<br>防腐防蟻処理<br>木材保存(木材の防腐・防蟻処理)剤は、監督職員の承諾するものとする。<br>※9.0mm未満の合板上張り留め付けはタッカー留めとする。                                     | [6.5.1][表6.5.1]<br>[6.5.1][表6.5.2]<br>[6.5.2][表6.5.3]<br>[6.5.2][表6.5.4]   |
|                  | 5 集成材等             | 集成材又は単板積層材の材質<br>ホルムアルデヒド放散量<br>品名<br>規格・品質<br>芯材の種類<br>施工箇所<br>・造作用集成材<br>・化粧ばり造作用集成材<br>・化粧ばり構造用集成材<br>・造作用単板積層材<br>・直交集成材                                | [6.5.2]<br>※規制対象外<br>・第三種<br>[6.5.2][表6.5.3]<br>[6.5.2][表6.5.4]  |
|                  | 6 接着剤              | ※木工事に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量<br>※壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅木に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量  | [6.5.3]<br>[6.8.2][6.14.2]<br>※規制対象外<br>・第三種   |
|                  | 7 床板張り             | フローリング及び縁甲板張り床<br>下張り用床板<br>床板  | [表6.5.10]<br>※無し<br>・有り ※合板張り<br>ホルムアルデヒドの放散量<br>※規制対象外<br>・第三種<br>※単層フローリング(標仕19.5.2による)<br>ホルムアルデヒドの放散量<br>※規制対象外<br>・第三種<br>・縁甲板 ※ひのき |

|                     |  |   |  |
|---------------------|--|---|--|
| 8 軽量鉄骨天井下地          | 野縁等の種類<br>既存の埋込みインサート<br>あと施工アンカーの引抜き試験<br>耐震補強<br>屋外軒天井及びピロティ天井補強   | 屋内(※19形・25形)<br>屋外(※25形・19形)<br>・使用する<br>・使用しない<br>・行う<br>・行わない<br>※図示  | [6.6.2][表6.6.1]<br>[6.6.4]   |
| 9 軽量鉄骨壁下地           | スタッドの高さが5mを超える場合   | ※図示   |  |
| 10 ビニル床シート          | 工法<br>種類<br>※発泡層のないもの<br>・発泡層のあるもの<br>・<br>接着材   | ※熱溶接工法<br>・突付け(施工箇所)<br>・無地 ※マーブル柄<br>※柄物<br>・無地<br>・エポキシ樹脂系  | [6.8.2~3]<br>[6.8.2]   |
| 11 ビニル床タイル          | 種類<br>※単層ビニル床タイル<br>・複層ビニル床タイル<br>・コンポジションビニル床タイル<br>接着材   | JISの記号<br>T T<br>F T<br>K T<br>・エポキシ樹脂系   | [6.8.2]  |
| 12 帯電防止ビニル床タイル      | 種類<br>※単層ビニル床タイル<br>・複層ビニル床タイル<br>・コンポジションビニル床タイル  | 厚さ(mm)<br>※2.0<br>・<br>性能<br>体積抵抗値 1.0x10 <sup>9</sup> Ω以下又は<br>漏えい抵抗値 1.0x10 <sup>10</sup> Ω以下   | [6.8.2]  |
| 13 誘導用及び<br>注意喚起用床材 | 視覚障害者用床タイル<br>種類<br>・塩化ビニル製<br>・レジンコンクリート製<br>・磁器又はせっ器質タイル   | 寸法(mm)<br>※300×300<br>・<br>施工箇所   | [6.8.2]  |
| 14 ビニル幅木            | 高さ(mm)<br>・織じゅうたん  | ※60<br>・75<br>・100  | [6.9.2~3][表6.9.1~2]  |
| 15 カーペット敷き          | 種類<br>・A種<br>・B種<br>・C種<br>耐電性<br>・タフテッドカーペット<br>バイル形状<br>・カットパイル<br>・ループパイル<br>・カット、ループパイル併用<br>耐電性<br>・タイルカーペット<br>バイル形状<br>・ループパイル<br>・カットパイル<br>・カット、ループ併用<br>下敷き材<br>種類<br>・弾性ウレタン塗床材<br>・エポキシ樹脂塗床材<br>ホルムアルデヒドの放散量 | パイル形状<br>色柄等<br>備考<br>※無地<br>・柄物(標準品)<br>・<br>※人体帯電圧3kV以下<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.10.3][表6.10.4~8]<br>[6.11.2~7][表6.11.1~4] | [6.9.2~3][表6.9.1~2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.9.2~3][表6.9.2]<br>[6.10.3][表6.10.4~8]<br>[6.11.2~7][表6.11.1~4] |
| 16 合成樹脂塗床           | 種類<br>・ループパイル<br>・カットパイル<br>・カット、ループ併用<br>下敷き材<br>種類<br>・弾性ウレタン塗床材<br>・エポキシ樹脂塗床材<br>ホルムアルデヒドの放散量   | 種類<br>寸法(mm)<br>総厚さ(mm)<br>施工箇所<br>※第一種<br>・第二種<br>・<br>[6.10.3][表6.10.4~8]<br>※平滑仕上げ<br>・防滑仕上げ<br>・つや消し仕上げ<br>※薄膜流しのべ仕上げ(※平滑・防滑)<br>・厚膜流しのべ仕上げ(※平滑・防滑)<br>・樹脂モルタル仕上げ(※平滑・防滑)<br>※規制対象外<br>・第三種   | [6.10.3][表6.10.4~8]<br>[6.11.2~7][表6.11.1~4]   |
| 17 フローリング張り         | 種類<br>※天然木化粧複合フローリング<br>・単層フローリング<br>・モザイクパーケット張り<br>ホルムアルデヒドの放散量  | 樹種<br>工法<br>塗装<br>※なら<br>※釘止め工法<br>(・A種・B種・C種)<br>・<br>・接着剤併用釘留め<br>・無塗装品<br>※規制対象外<br>・第三種   | [6.11.2~7][表6.11.1~4]  |

|                        |  |   |   |
|------------------------|--|---|---|
| 18 畳敷き                 | 種別<br>・A種<br>・B種<br>・C種<br>※D種(K T-III)  | [6.12.2][表6.12.1]   |   |
| 19 せっこうボード<br>その他ボード張り | 種別<br>・A種<br>・B種<br>・C種<br>※D種(K T-III)  | [6.13.2][表6.13.1]   |   |
| 20 せっこうボードの<br>目地処理    | 種別<br>・硬質木毛セメント板<br>・普通木毛セメント板<br>・けい酸カルシウム板<br>・ロックウール化粧吸音板<br>・せっこうボード<br>・不燃積層せっこうボード<br>・強化せっこうボード<br>・シージング石こうボード<br>・化粧せっこうボード<br>・せっこうラスボード<br>・メラミン樹脂化粧板<br>・パーティクルボード<br>・化粧けい酸カルシウム板 | JISの記号<br>HW<br>NW<br>0.8FK<br>DR<br>GB-R<br>GB-NC<br>GB-F<br>GB-S<br>GB-D<br>GB-L<br>JIS K 6903による<br>0.8FK<br>※6                            | 厚さ(mm)、規格等<br>・15<br>・20<br>・25<br>・<br>無石綿 ※6<br>・8<br>※フタクトイ(※9(不燃)<br>・12<br>・)<br>※凹凸タイプ(※12(不燃)<br>・15<br>・19<br>・)<br>※12.5(不燃)<br>・9.5(準不燃)<br>9.5(不燃) 化粧無(下地張り用)<br>化粧有(トラン-チ模様)<br>・12.5(不燃)<br>・15.0(不燃)<br>・12.5(不燃)<br>・9.5(準不燃)<br>・9.5<br>JIS K 6903による 厚さ1.2<br>※6 |
| 21 壁紙張り                | 施工箇所<br>壁紙の種類<br>防火性能<br>備考<br>※量産加工<br>・<br>・不燃<br>・準不燃<br>・難燃<br>・不燃<br>・準不燃<br>・難燃  | [6.14.3]  |   |
| 22 レジックタイル張り           | モルタル及びプラスター面の下地調整<br>石こうボード及びその他ボード面の下地調整<br>ホルムアルデヒドの放散量  | ・RA種<br>※RB種<br>・RC種<br>[表7.3.4]<br>・RA種<br>※RB種<br>・RC種<br>[表7.3.7]<br>※規制対象外<br>・第三種  | [6.16.3]  |
| 23 セルフレベリング            | セルフレベリング材の種類<br>・せっこう系<br>※セメント系<br>※厚み(mm程度)  | [6.17.2][表6.17.1]   |   |
| 24 断熱材                 | 種類<br>施工箇所<br>厚さ(mm)<br>品質等<br>・押出法<br>ポリスチレン<br>フォーム<br>保温板<br>・現場発泡断熱材<br>ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材のホルムアルデヒドの放散量   | ※2種b<br>※1一般部<br>※25<br>※3種b<br>・接地部分<br>※25<br>※断熱材補修部分<br>・一般部<br>※15<br>ノンフロンタイプ<br>・HFCタイプ<br>難燃性・3級<br>・2級<br>・難燃材料相当品<br>※規制対象外<br>・第三種 | [6.16.3]<br>[6.16.3][表6.16.4]<br>[6.16.4][表6.16.6]<br>[6.17.2][表6.17.1]<br>(標19.9.2~3)  |

|                          |        |              |                      |
|--------------------------|--------|--------------|----------------------|
| 株式会社エフウォーターマネジメント        |        | 工事名          |                      |
| 一級建築士事務所                 |        | 羽津ポンプ場耐震補強工事 |                      |
| 滋賀県知事登録(ヌ)第354号          | 日付     | 図面名          | 縮尺                   |
| 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己 | 令和5年7月 | 特記仕様書(改修3)   | —                    |
|                          |        |              | 図面番号<br>A-03<br>3/24 |
|                          |        |              | 令和5年版                |

|                      |   |   |                               |                       |                        |                        |
|----------------------|---|---|-------------------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|
| 6章<br>内装<br>改修<br>工事 | 25 フリーアクセスフロア   | (標20.2.2)   |                               |                       |                        |                        |
|                      |   | 施工箇所  | 仕上り高                          | 耐震性能                  | 耐荷重性能                  | 表面仕上げ材                 |
|                      |   |   |                               |                       | ・3000N<br>・5000N       | ・帯電防止床タイル<br>・タイルカーベット |
|                      |   | スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様 図示   |                               |                       |                        |                        |
|                      | 26 可動間仕切  | (標20.2.3)   |                               |                       |                        |                        |
|                      |   | 構造形式  | h' 柱部の総厚さ(mm)                 | 表面材種 厚さ(mm)           | 表面仕上げ                  |                        |
|                      |   | ※パネル式<br>・スタッ式<br>・スタッパネル式  |                               | ※鋼板<br>(※0.6<br>・0.8) | ※メラミン樹脂又は<br>アクリル樹脂焼付け |                        |
|                      |   | 遮音性 ・あり ( ) ・なし   |                               |                       |                        |                        |
|                      | 27 移動間仕切り   | (標20.2.4)   |                               |                       |                        |                        |
|                      |   | 操作方法 ・手動式 ・電動式 ・部分電動式<br>パネル表面材 ( ) 遮音性 ( )<br>パネル及び圧着装置の操作方法 ( ) |                               |                       |                        |                        |
| 28 トイレブース            | (標20.2.5)   |   |                               |                       |                        |                        |
|                      | パネル表面材 ※高圧メラミン樹脂系化粧板 (アルミ製コーナーエッジ付き)<br>・ポリエステル樹脂系化粧板 (アルミ製コーナーエッジ付き)<br>脚部 (スチール製) ※幅木タイプ ・脚金物タイプ  |   |                               |                       |                        |                        |
| 29 階段滑り止め            | (標20.2.6)   |   |                               |                       |                        |                        |
|                      | 材種 ※ステンレス製ビニルタイヤ入り<br>寸法 ※幅 35mm 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法   |   |                               |                       |                        |                        |
| 30 黒板及び<br>ホワイトボード   | (標20.2.8)   |   |                               |                       |                        |                        |
|                      | 種類  | 寸法(mm)  | 色彩                            | 備考                    |                        |                        |
|                      | ・黒板<br>※ホーロー<br>※焼付け  |   | ※緑・黒                          | ※平面・曲面                |                        |                        |
|                      | ・ホワイト<br>ボード  |   | ※白                            |                       |                        |                        |
| 31 ブラインド             | [2.3.1][5.1.6]<br>・既存再使用する (養生方法)<br>・新設する (標20.2.12)   |   |                               |                       |                        |                        |
|                      | 形式  | 種類  | スラットの材種・幅(mm)                 | 施工箇所                  |                        |                        |
|                      | ※横型   | ※ギヤ式・コード式<br>・操作棒式  | ※アルミニウム合金 ※25                 |                       |                        |                        |
|                      | ・縦型   | ・1本操作コード<br>※2本操作コード  | ・アルミスラット ・80<br>・クロススラット ・100 |                       |                        |                        |
| 32 ロールスクリーン          | (標20.2.13)  |   |                               |                       |                        |                        |
|                      | 材種・品質 ( )<br>操作方法 ( )   |   |                               |                       |                        |                        |
| 33 カーテン              | [2.3.1][5.1.6]<br>・既存再使用する (養生方法)<br>・新設する (標20.2.14)   |   |                               |                       |                        |                        |
|                      | 施工箇所  | 名称・品質   | ひだの種類                         | 形式                    |                        |                        |
|                      |   |   | ・箱ひだ等・片ひだ                     | ・片引・引分                |                        |                        |
|                      |   |   | ・箱ひだ等・片ひだ                     | ・片引・引分                |                        |                        |
|                      | 防災加工 消防庁認定の㊦とする<br>カーテンレール ・アルミニウム製 ※ステンレス製 ※C型又はD型<br>カーテンきれ地のはぎれ ※半幅未満は使用しない ・一横幅未満は使用しない<br>暗幕用カーテンの重なりは300mm以上とする。なお、重ねか所は下記による。<br>・両端 ・上部 ※召合わせ |   |                               |                       |                        |                        |
| 34 点検口               | ( )   |   |                               |                       |                        |                        |
|                      | 天井点検口   | ※アルミニウム製 (※額縁タイプ ・目地タイプ)  |                               |                       |                        |                        |
|                      | 床点検口  | ※アルミニウム製 ・ステンレス製 受け枠 ( )  |                               |                       |                        |                        |
| 35 流し台ユニット           | 種類  | 寸法  | 適用内容                          | 規格・品質等                |                        |                        |
|                      | 流し台   | ※1200・1500  | トラップ付                         | ※優良住宅部品               |                        |                        |
|                      | コンロ台  | ※600・700  | バックガード付                       |                       |                        |                        |

|                                     |  |   |   |
|-------------------------------------|--|---|---|
| 3 素地ごしらえ                            | 素地ごしらえ [7.3.1~7] [表7.3.1~7]                                  |   |   |
|                                     | 素地面の種類   | 種別  | 備考  |
|                                     | 木部   | ・A種・B種  | 不透明塗料塗りの場合はA種<br>透明塗料塗りの場合はB種                 |
|                                     | 鉄鋼面  | ・A種・B種 ※C種  | 8節[耐候性塗料塗り(DP)]の場合は、<br>B種とする                 |
|                                     | 亜鉛めっき面   | ・A種・B種  |   |
|                                     | モルタル、せっこうプラスター面  | ・A種 ※B種   |   |
|                                     | コンクリート及びALCパネル面  | ・A種 ※B種   | 8節[耐候性塗料塗り(DP)]の場合は、<br>コンクリート及び押出成形セメント版面による |
|                                     | コンクリート及び押出成形セメント版面   | ・A種・B種  |   |
|                                     | せっこうボード、その他ボード面  | ・A種・B種  | せっこうボードの目地工法が継目処理工法<br>の場合はA種、その他の場合はB種とする    |
| 4 錆止め塗料塗り                           | 塗料種別 [7.4.2]   |   |   |
|                                     | 鉄鋼面 ※A種 ( )  | ・B種 ・C種 ・D種 ・E種   | [表7.4.1]                                      |
|                                     | 仕上げEP-Gの場合   | ・A種 ( ) ※B種   |   |
|                                     | 亜鉛めっき鋼面 ※A種  | ・B種   | [表7.4.2]                                      |
|                                     | 仕上げEP-Gの場合   | ・A種 ( ) ※C種   |   |
|                                     | 錆止め塗料塗り [表7.4.3~4]   |   |   |
|                                     | 鉄鋼面塗り替えの場合の種別  | ・A種 ・B種 ※C種   |   |
|                                     | 亜鉛めっき面の塗りの種別   | ・A種 ・B種 ※C種   |   |
|                                     | 亜鉛めっき面EP-G塗り替えの場合の種別   | ・A種 ・B種 ※C種   |   |
|                                     | 新規鉄鋼面、亜鉛めっき面の塗りの種別   | ※標準仕18.3.3による   |   |
| 5 合成樹脂調合<br>ペイント塗り(SOP)             | 塗り工法 [7.5.1~4][表7.5.1~3]                                     |   |   |
|                                     | 下地の種類  | 塗料種類  | 塗り工法  |
|                                     | 木部   | ※1種・2種  | 新規(屋外 ※A種・B種 屋内 A種 ※B種)<br>塗替え(※B種・ )         |
|                                     | 鉄鋼面  | ※1種・2種  | ・A種 ※B種 ・C種                                   |
|                                     | 亜鉛めっき面   | ※1種・2種  | ※改修標準仕7.4.5による                                |
| 6 アクリル樹脂系非水<br>分散形塗料(NAD)           | 塗替えの場合の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [7.2.5~6]                         |   |   |
|                                     | 塗り工法の種別  | ・A種 ※B種   | [7.7.2][表7.7.1]                               |
| 7 耐候性塗料塗り(DP)                       | 塗替えの場合の下地調整 ・RA種 ※RB種 ・RC種 [7.2.2][表7.2.1] ~ [7.2.7][表7.2.7] |   |   |
|                                     | ・鉄鋼面 工法は、表7.8.1  | [7.8.2][表7.8.1]   |   |
|                                     | ・亜鉛めっき面 工法は、表7.8.2   | [7.8.3][表7.8.2]   |   |
|                                     | 上塗種別   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JISK5659 (1級) ふっ素系樹脂塗料</li> <li>・ JISK5659 (2級) シリコン系樹脂塗料</li> <li>・ JISK5659 (3級) ポリウレタン系樹脂塗料</li> </ul>    |   |
|                                     | ・コンクリート面、押出成型セメント版面 [7.8.4][表7.8.3]                          |   |   |
|                                     | 工法は、表7.8.3 種別は(・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2 ・C-1種 ・C-2種)           |   |   |
|                                     | 上塗種別   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JISK5658 主要原料 ふっ素樹脂(1級)</li> <li>・ JISK5658 主要原料 シリコン樹脂(2級)</li> <li>・ JISK5658 主要原料 ポリウレタン樹脂(3級)</li> </ul> |   |
| 8 つや有合成樹脂<br>エマルジョン<br>ペイント塗り(EP-G) | [7.9.2~5][表7.9.1~4]  |   |   |
|                                     | 下地の種類  | 塗り工法  |   |
|                                     | コンクリート、モルタル、せっこうプラスター、<br>その他ボード面                            | 新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種・ )  |   |
|                                     | 木部   | 新規(※A種・ ) 塗替え(※B種・ )  |   |
|                                     | 鉄鋼面  | 新規(・A種 ・B種) 塗替え(※B種・ )  |   |
|                                     | 亜鉛めっき鋼面  | 新規(※A種・ ) 塗替え(※B種・ )  |   |
|                                     | 塗替えの場合のシーラー  | ※改修標準仕 7.9.2による ・行わない   |   |
| 9 合成樹脂エマルジョン<br>ペイント塗り(EP)          | 塗り工法の種別  | ・A種 ※B種 ・C種   | [7.10.2][表7.10.1]                             |
| 10 ウレタン樹脂<br>ワニス塗り(UC)              | 塗り工法の種別  | ・A種 ※B種   | [7.11.2][表7.11.1]                             |
|                                     | 塗料の種類  | ※1液形 ・2液形   |   |
|                                     | 着色剤の種類   | ・油性顔料着色剤 ・溶剤形顔料着色剤  |   |
| 11 オイルステイン塗り<br>(OS)                | 木部 工法は改修標準仕7.12.1による   | [7.12.2][表7.12.1]   |   |
| 12 木材保護塗料塗り<br>(WP)                 | 工法   | ・A種 ※B種   | [7.13.2][表7.13.1]                             |

|                      |   |  |         |                 |      |
|----------------------|---|--|---------|-----------------|------|
| 8章<br>耐震<br>改修<br>工事 | ① 鉄筋の種類   | [8.2.1][表8.2.1]  |         |                 |      |
|                      |   | 種類の記号  | 径       |                 |      |
|                      |   | ・SD295A  | ※ D16以下 |                 |      |
|                      |   | ・SD345   | ※ D19以上 |                 |      |
|                      | 2 溶接金網  | 網目の形状 (※ 150x150 ・ 100x100 ・ 50x50 )                     | [8.2.2] |                 |      |
|                      |   | 鉄線の径 (mm) (※ 6.0 ・ 3.2 )                                 |         |                 |      |
|                      | ③ 鉄筋の材料試験                                       | ※JIS規格品については径の異なるごとに1t未満の場合は規格証明書の提出を省略することができる。 [8.2.3] |         |                 |      |
|                      | ④ 継手及び定着  | 鉄筋の継手方法 [8.3.4][表8.3.3]                                  |         |                 |      |
|                      |   | ○径D19mm以上の柱、梁の主筋はガス圧接、その他は重ね継手<br>・重ね継手                  |         |                 |      |
|                      |   | 継手位置 ※標準各部配筋参考図による 図示 [8.3.4]                            |         |                 |      |
|                      | 定着長さ ※改修標準仕[表8.3.4]による 図示 [8.3.4][表8.3.4]       |  |         |                 |      |
| ⑤ 帯筋組立の形             | ※各部配筋参考図1.1による 図示 [8.3.4]                       |  |         |                 |      |
| ⑥ 壁の配筋及び補強           | ※標準各部配筋参考図4節による 図示 [8.3.7]                      |  |         |                 |      |
| ⑦ ガス圧接               | 圧接部の確認試験 [8.3.8]                                |  |         |                 |      |
|                      | ※超音波探傷試験 ・引張試験                                  |  |         |                 |      |
| ⑧ コンクリートの<br>種類及び強度  | コンクリートの種類                                       | ※普通コンクリート ・軽量コンクリート                                      |         | [8.1.3]         |      |
|                      | 普通コンクリートの種類                                     | ※I類 ・II類   |         | [8.1.3][表8.1.1] |      |
|                      | 仕上りの平たんさ種別                                      | ・a種 ・b種 ・c種  |         | [8.1.4][表8.1.5] |      |
|                      | 普通コンクリートの設計基準強度 [8.1.4]                         |  |         |                 |      |
|                      | 設計基準強度F <sub>o</sub>                            | 施工箇所   |         |                 |      |
|                      | ※21 (N/mm <sup>2</sup> )                        |  |         |                 |      |
|                      | ・   |  |         |                 |      |
|                      | 軽量コンクリートの設計基準強度 [8.1.3~4][8.9.1~2][表8.9.1]      |  |         |                 |      |
|                      | 設計基準強度F <sub>o</sub>                            | 気乾単位容積質量   | 種別      | 施工箇所            |      |
|                      | (N/mm <sup>2</sup> )                            | (t/m <sup>3</sup> )                                      |         |                 |      |
|                      | ※21 (N/mm)                                      | ※1.9程度   | ※1種     |                 |      |
|                      | ・   |  |         |                 |      |
| ⑨ コンクリートの材料          | ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 [8.2.5][表8.2.3]        |  |         |                 |      |
|                      | ・高炉セメントB種 適用箇所 ( )                              |  |         |                 |      |
|                      | ・フライアッシュセメントB種 適用箇所 ( )                         |  |         |                 |      |
|                      | ・アルカリシリカ反応による区分 ※A                              |  |         |                 |      |
|                      | ・フェロニッケルスラグ細骨材は使用しない                            |  |         |                 |      |
| 10 モルタル及び<br>グラウト材   | [8.2.6][8.2.12]                                 |  |         |                 |      |
|                      | グラウト材 ※無収縮グラウト材 (圧縮強度 45N/mm <sup>2</sup> 以上)   |  |         |                 |      |
|                      | 太平洋プレユーロックス(太平洋マテリアル) マスターフロー-540グラウト(BASFポゾリス) |  |         |                 |      |
|                      | ノンシュリンクライトグラウト(ABC商会) デンカ プレタスコン TYPE-1(電気化学工業) |  |         |                 |      |
|                      | 社団法人 公共建築協会の評価を受けているもの                          |  |         |                 |      |
|                      | 柱底等の均しモルタル ※無収縮モルタル ・モルタル                       |  |         |                 |      |
|                      | 太平洋プレユーロックス(太平洋マテリアル) マスターフロー-870グラウト(BASFポゾリス) |  |         |                 |      |
|                      | ノンシュリンクライトグラウト(ABC商会) デンカ プレタスコン TYPE-1(電気化学工業) |  |         |                 |      |
|                      | 社団法人 公共建築協会の評価を受けているもの                          |  |         |                 |      |
| 11 無筋コンクリート          | [8.11.1~3]                                      |  |         |                 |      |
|                      | 種類  | 設計基準強度F <sub>o</sub>                                     | スランブ    | 粗骨材の最大寸法        | 適用箇所 |
|                      |   | (N/mm <sup>2</sup> )                                     | (cm)    |                 |      |
|                      | ※普通コンクリート                                       | ※18  | ※15又は18 | ※25             |      |

|                      |        |   |                |  |  |
|----------------------|--------|---|----------------|--|--|
| 7章<br>塗装<br>改修<br>工事 | 1 材料一般 | [7.1.3]<br>・屋内の壁及び天井の塗装仕上げは、防火材料とする。<br>・次の箇所を除き防火材料とする。( )<br>建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 |                |  |  |
|                      | 2 下地調整 | [7.2.1]<br>RB種の場合の既存塗膜の除去範囲 [表7.2.1~7]  |                |  |  |
|                      |        | 下地面の種類  | 下地調整の種別        |  |  |
|                      |        | 木部  | ・RA種 ※RB種 ・RC種 |  |  |
|                      |        | 鉄鋼面   | ・RA種 ※RB種 ・RC種 |  |  |
|                      |        | 亜鉛めっき面  | ・RA種 ※RB種 ・RC種 |  |  |
|                      |        | モルタル、せっこうプラスター面   | ・RA種 ※RB種 ・RC種 |  |  |
|                      |        | コンクリート及びALCパネル面   | ・RA種 ※RB種 ・RC種 |  |  |
|                      |        | せっこうボード、その他ボード面   | ・RA種 ※RB種 ・RC種 |  |  |
|                      |        | 既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 [表7.2.4~6]<br>・行わない ・行う(補修範囲及び補修方法は図示)  |                |  |  |

|                          |        |              |    |              |
|--------------------------|--------|--------------|----|--------------|
| 株式会社エフウオーターマネジメント        |        | 工事名          |    |              |
| 一級建築士事務所                 |        | 羽津ポンプ場耐震補強工事 |    |              |
| 滋賀県知事登録(ヌ)第354号          | 日付     | 図面名          | 縮尺 | 図面番号         |
| 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己 | 令和5年7月 | 特記仕様書(改修4)   | —  | A-04<br>4/24 |
|                          |        | 令和5年版        |    |              |

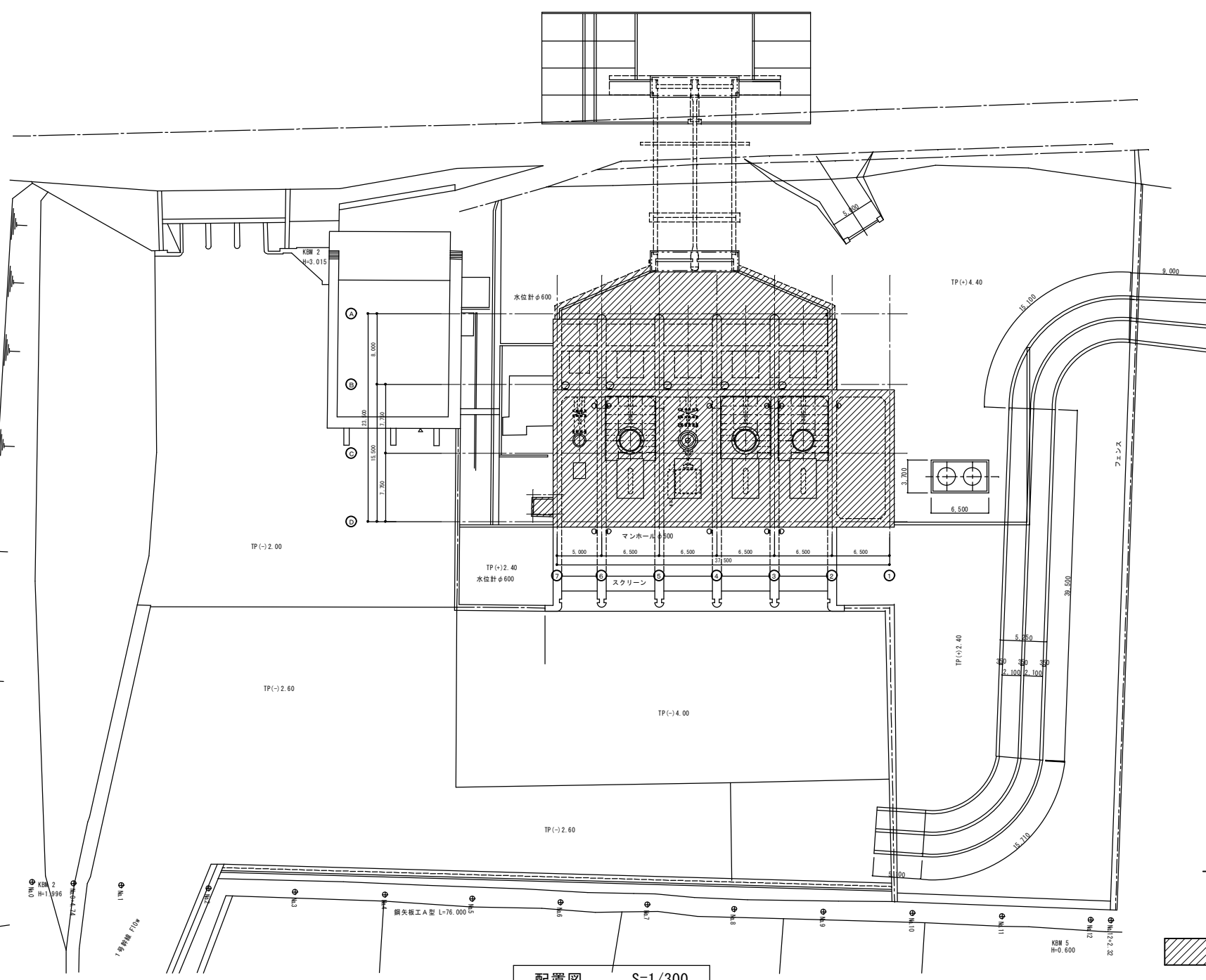
|                  |  |  |  |   |  |  |  |
|------------------|--|--|--|---|--|--|--|
| 8章<br>耐震改修工事     | ⑫ 調査管理強度   | 構造体強度補正值（S）<br>[8.2.5][表8.2.4]<br>(普通ポルトランドセメント)<br>打設期間 補正值(N/mm <sup>2</sup> ) 備考<br>2/25~7/7 9/7~11/22 3.0<br>11/23~2/24 6.0<br>7/8~9/6 6.0 暑中コンクリート  | ⑳ あと施工アンカーの材料<br>・金属拡張アンカー [8.2.4]<br>※接着系アンカー<br>接着剤の材質及びカプセルの種類（ガラス管タイプ）<br>日本デコラックス（株） ケミカルアンカーR、RSタイプ<br>旭化成ジオテック（株） ARケミカルセッターSUPER L L A P<br>日本ヒルティ（株） H V U - G / E A もしくは同等品以上<br>接合筋の種類 ※鉄筋コンクリート用棒鋼（D16以上SD345）<br>・全ねじボルト  |   |  |  | 表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法<br>計数機器 位相差顕微鏡<br>メンブレンフィルタの直径 25mm 47mm<br>試料の吸引流量 1l/min 5l/min 10l/min<br>試料の吸引時間 5min 120min 210min<br>試料の透明化 アセトントリアセテン法又は、シュウ酸ジエテル法<br>計数条件 総アスベスト繊維数 200本又は視野数50視野<br>計数アスベスト 直径3μm未満、長さ5μm以上、長さと直径比3:1以上<br>定量限界 50 f/l 0.5 f/l 0.3 f/l<br>作業場の負圧隔離養生 ※行う<br>除去工法 ※除去工法については、工法に関する資料を監督職員に提出し、承諾を得ること。  |
|                  | ⑬ コンクリートの試験  | ※コンクリートの強度試験の試験回数は、下記による。 [8.8.2~3]<br>20m <sup>3</sup> 以下の場合の試験については、監督職員の指示による。<br>20~50m <sup>3</sup> の場合は任意の一車より試料を採取し、各3個供試体を作成する。<br>50m <sup>3</sup> 以上は 改修標仕8.8.3による。  | ㉑ あと施工アンカーの施工 [8.12.2]<br>㉒ あと施工アンカーの穿孔 [8.12.4]<br>穿孔前の埋込み配管等の探査<br>範囲 ○あと施工アンカー施工部分全て ○図示<br>方法 ○探査機により探査し、配管等の位置の墨出しを行う。<br>○はつり出しによる<br>穿孔方法 ○低騒音、低振動工法とする（工法については、監督員の承諾を得ること）  |   |  |  | 処分方法<br>○埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。<br>○中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う。  |
|                  | ⑭ 型枠   | 打ち放し仕上げの種類 [8.1.4]<br>種別 施工箇所<br>・A種<br>※B種<br>・C種<br>外部に面するコンクリート打ち放し仕上げの打増し 20 ※図示 [8.7.8]   | ㉓ あと施工アンカーの確認試験 [8.12.5][8.12.7]<br>施工確認試験 [8.12.5][8.12.7]<br>※全数打音試験を行う。<br>○引張試験は増設壁又は鉄骨プレス1箇所あたり1本とし、引張荷重は設計強度の2/3以上とする。場所については監督職員の指示による。   |   |  |  | 5 アスベスト含有仕上塗材の除去<br>アスベスト含有仕上塗材の除去（除去工法、養生、粉じん飛散防止措置、呼吸用保護具・保護衣等）については、「建築物の改修、解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」による。<br>アスベスト含有仕上塗材の有無 ・有 ・無<br>除去仕上塗材（ ）含有場所（ ）<br>撤去の範囲 ・全面撤去 ・図示による<br>除去工法（原則潤滑化し、下記工法とする）<br>・水洗い工法 ・手工具ケレン工法<br>・集じん装置付高圧水洗工法 ・集じん装置付高圧水洗工法 ・超音波ケレン工法<br>・剥離材併用高圧水洗工法 ・剥離材併用超高压水洗工法 ・剥離材併用手工具ケレン工法<br>・剥離材併用超音波ケレン工法 ・集塵装置付ディスクグラインダーケレン工法<br>上記工法によらない場合は監督職員と協議の上、承諾を得ること。<br>除去工法の試験施工 ・行う ※行わない<br>作業場の隔離及び養生<br>「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」による。<br>・隔離養生不要 ・隔離養生必要（負担不要） ・その他（ ）<br>処分方法<br>・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。<br>・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う |
|                  | 15 鉄骨製作工場  | ・監督職員の承諾する工場 [8.1.5]<br>・（社）全国鉄構工業協会、（株）日本鉄骨評価センター認定工場（下記認定グレード以上）<br>（・S ・H ・M ・R ・J）   | 30 既存構造体との取り合い [8.21.9][8.22.7]<br>グラウト材の品質管理 [8.21.9][8.22.7]<br>※圧縮強度試験を行う（3日、28日、封かん養生）<br>※コンシステンシー試験を行う。  |   |  |  |  |
|                  | 16 鉄骨工作図   | 施工管理技術者 ・配置する ・配置しない [8.1.6]<br>※高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等は、国土交通省大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。 [8.13.2]   | ㉔ 一般事項<br>労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針（建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にはく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針）を遵守すること。<br>○アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。<br><br>石綿障害予防規則及び大気汚染防止法の各規定に基づく官公署等への届出等を行うこと。<br>・石綿含有事前調査結果の都道府県知事及び労働基準監督署への報告を行うこと。<br>・事前調査結果及び特定粉塵排出等作業の掲示を行うこと。<br>・アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。<br>・アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を画面にて行うこと。  |   |  |  |  |
|                  | 17 溶接管理技術者   | ・配置する ・配置しない [8.15.2]  | 2 アスベスト含有建材の処理工事 [9.1.1]<br>アスベスト含有吹付け材の封じ込み処理 ・行う ・行わない<br>アスベスト含有吹付け材の囲い込み処理 ・行う ・行わない<br>アスベスト含有建材除去後の仕上げ ・行う ・行わない<br>施工箇所及び工法 ※図示   |   |  |  |  |
|                  | 18 鋼材  | 鋼材の材質、規格は下表による。 [8.2.8]<br>材質 品名又は使用箇所 規格<br>※JISの規格品<br>※JISの規格品<br>※JISの規格品  | 3 アスベストの含有調査<br>分析による確認 ・行う（下表による） ・行わない<br>材料名 調査方法 1材料あたりの試料数<br>※定性分析(3 ・ ) ※定量分析(※3 ・ )<br>※定性分析(3 ・ ) ※定量分析(※3 ・ )<br>※定性分析(3 ・ ) ※定量分析(※3 ・ )  |   |  |  |  |
|                  | 19 高力ボルト   | ※トルシア形高力ボルト ・ JIS形高力ボルト ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト径（ ） [8.2.9]<br>すべり係数試験 ・実施する ※実施しない [8.14.2]<br>試験方法（ ）、試験片の摩擦面の状態（ ）   | 4 アスベスト含有吹付け材の除去 [9.1.3]<br>アスベスト含有吹付け材の有無 ・有 ・無 [9.1.3]<br>除去吹付け材（ ）含有場所（ ）<br>吹付けアスベストの施工数量調査 ※行う<br>アスベスト粉じん濃度測定 ※行う<br>表9.1.1 アスベスト粉じん濃度測定<br>測定時期 測定名称 測定場所 測定点（各施工箇所ごと） 備考<br>処理作業前 測定1 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1<br>測定2 施行区画周辺又は、敷地境界 計2点 大気<br>処理作業中 測定3 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1<br>測定4 集じん・排気装置の排出口 1点 空気の流れを確認<br>測定5 (処理作業室外の場合) 1点 (注)2<br>測定6 施行区画周辺又は、敷地境界 4方向各1点 -<br>処理作業後(隔離シート撤去前) 測定7 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1<br>測定8 施行区画周辺又は、敷地境界 4方向各1点 大気<br>(注)1. 各施工箇所ごとの室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。<br>300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。<br>(注)2. 集じん・排気装置の性能確認 |   |  |  |  |
|                  | 20 鋼材の材料試験   | ※JIS規格品については種類の異なるごとに1t未満の場合は規格証明書の提出を省略することができる。 [8.2.13]   |  |   |  |  |  |
|                  | 21 溶接施工  | エンドタブの種類 ※鋼製タブ [8.15.7]<br>代替タブを使用する場合は、セラミックスタブとし、以下の書類を提出し、監督職員の承諾を得ること。<br>・セラミックスタブの使用実績<br>・AW検定協議会の代替エンドタブ技量認定資格者または日本エンドタブ協会によるエンドタブ施工講習（溶接技能者・固形タブ・A級）修了者の資格証<br>・鉄骨製作工場における施工実績<br>エンドタブの切断 ・行う（ ） ・行わない<br>スカラップ ※改良型スカラップ |  |   |  |  |  |
| 22 溶接部の試験        | 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※行う(9mm以上) ・行わない [8.15.12]<br>試験箇所数 耐震ブレース ※改修標仕8.15.12による ・<br>その他 ※標仕7.6.12(4)による ・   |  |  |   |  |  |  |
| 23 錆止め塗料         | ・鉄骨造の鉄部錆止め塗料の種類は、下記とする。 [8.17.3]<br>・JIS K 5625 ・ JIS K 5674<br>・DP塗装の場合 JIS K 5552 + JIS K 5551(2回)<br>耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う ※行わない   |  |  |   |  |  |  |
| 24 耐火被覆材         | 耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う ※行わない [8.18.2~7]<br>種別 所要性能及び適用構造部位<br>・耐火材 ・乾式吹付けロックウール<br>吹付け ・半乾式吹付けロックウール<br>・湿式ロックウール<br>・耐火板張り<br>・ラス張りモルタル塗り<br>・耐火塗料  |  |  |   |  |  |  |
| 25 既存コンクリート面の目荒し | 適用範囲 [8.21.3][8.22.3]<br>※既存コンクリートとの打継ぎ面<br>※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材充填部の接合面<br>・<br>目荒らしの範囲<br>※柱、梁面 打継ぎ面又は接合面全体の3/4以上<br>※壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度<br>・<br>目荒らしの程度<br>※平均深さ5~10mmで最大深さ15mm程度の凹部を施す |  |  |   |  |  |  |
|                  |  |  | 株式会社エフウォーターマネジメント<br>一級建築士事務所<br>滋賀県知事登録(ヌ)第354号<br>一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己   | 工事名<br>羽津ポンプ場耐震補強工事<br>日付 図面名 縮尺 図面番号<br>令和5年7月 特記仕様書(改修5) ー A-05<br>令和5年版 5/24 |  |  |  |

|            |  |   |                     |              |                   |         |
|------------|--|---|---------------------|--------------|-------------------|---------|
| 個人情報取扱注意事項 | <p>個人情報の取り扱いに関する事項</p> <p>(基本事項)</p> <p>第1 この契約による工事の施工者（以下「乙」という。）は、この契約による工事を施工するに当たり、個人情報を取り扱う際には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。<br/>(施工者の義務)</p> <p>第2 乙及びこの契約による工事に従事している者又は従事していた者（以下「乙の従事者」という。）は、当該工事を施工するに当たり、個人情報を取り扱うときは、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号。以下「法」という。）67条に規定する義務を負う。</p> <p>2 乙は、この契約による工事において個人情報が適正に取り扱われるよう乙の従事者を指揮監督しなければならない。<br/>(秘密の保持)</p> <p>第3 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するに当たって知り得た個人情報を当該工事を施工するために必要な範囲を超えて使用し、又は他人に知らせてはならない。</p> <p>2 乙は、乙の従事者が在職中及び退職後においても、前項の規定を遵守するように必要な措置を講じなければならない。</p> <p>3 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。<br/>(適正な管理)</p> <p>第4 乙は、この契約による工事に係る個人情報の漏えい、滅失又は改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。</p> <p>2 乙は、個人情報の適正な管理のため、管理責任者を置くものとする。</p> <p>3 管理責任者は、個人情報を取り扱う工事の従事者を必要な者に限定し、これらの従事者に対して、個人情報の管理方法等について適正な指導管理を行わなければならない。</p> <p>4 四日市市（以下「甲」という。）は、必要があると認めるときは、個人情報の管理状況等に関し、乙に対して報告を求め、又は乙の作業場所を実地に調査することができるものとする。この場合において、甲は乙に必要な改善を指示することができるものとし、乙は、その指示に従わなければならない。<br/>(収集の制限)</p> <p>第5 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するために、個人情報を収集するときは、当該工事を施工するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。<br/>(再提供の禁止)</p> <p>第6 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供してはならない。</p> <p>2 乙は、前項の承諾により再提供する場合は、再提供先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じなければならない。</p> <p>3 前項の場合において、乙は、再提供先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。<br/>(複写、複製の禁止)</p> <p>第7 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等（以下「資料等」という）を複写し、又は複製してはならない。<br/>(持ち出しの禁止)</p> <p>第8 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等（複写又は複製したものを含む。第9において同じ。）を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。</p> <p>2 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書面により確認するものとする。</p> <p>3 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等を施して関係者以外の者がアクセスできないようにするとともに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びき損の防止その他適切な管理を行わなければならない。<br/>(資料等の返還)</p> <p>第9 乙は、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等を、当該工事の終了後速やかに甲に返還、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄、又は消去する場合を除く。</p> <p>2 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。</p> <p>(1) 紙媒体 シュレッターによる裁断</p> <p>(2) 電子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破砕</p> <p>3 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供したときは、当該工事の終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。</p> <p>4 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合には、乙は、当該資料等が廃棄、又は消去されたことを直接確認しなければならない。<br/>(研修・教育の実施)</p> <p>第10 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約による工事における個人情報の適正な取り扱いに資するための研修・教育を行うものとする。<br/>(苦情の処理)</p> <p>第11 乙は、この契約による工事の施工に当たって、個人情報の取り扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処理に努めるものとする。<br/>(定期報告及び事故発生時における報告)</p> <p>第12 乙は、甲から個人情報の取扱の状況について報告を求められた場合は、直ちに報告しなければならない。</p> <p>2 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従うものとする。<br/>(監査及び検査)</p> <p>第13 甲は、この契約による業務に係る個人情報の取り扱いについて、この契約の規定に基づき必要な措置が講じられていることを検証および確認するため、乙及び第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による業務を受託し、又は請け負った第三者に対して、監査又は検査を行うことができる。</p> <p>2 甲は、前項の目的を達するため、乙に対して必要な情報を求め、又はこの契約による業務の処理に関して必要な指示をすることができる。<br/>(契約解除及び損害賠償)</p> <p>第14 甲は、乙又は乙の従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認めるときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。</p> | <p>暴力団等不当介入に関する事項</p> <p>1. 契約の解除<br/>四日市市の締結する契約等からの暴力団等排除措置要綱（平成20年四日市市告示第28号）第3条又は第4条の規定により、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止措置を受けたときは、契約を解除することがある。</p> <p>2. 暴力団等による不当介入を受けたときの義務</p> <p>(1) 不当介入には、断固拒否するとともに、速やかに警察へ通報並びに業務発注所属へ報告し、警察への捜査協力を行うこと。</p> <p>(2) 契約の履行において、不当介入を受けたことにより、業務遂行に支障が生じたり、納期等に遅れが生じるおそれがあるときには、業務発注所属と協議を行うこと。</p> <p>(3) (1)(2)の義務を怠ったときは、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止等の措置を講ずる。</p> |                     |              |                   |         |
|            |  | 株式会社エフウォーターマネジメント   | 工事名<br>羽津ポンプ場耐震補強工事 | 日付<br>令和5年7月 | 図面名<br>特記仕様書（改修6） | 縮尺<br>— |

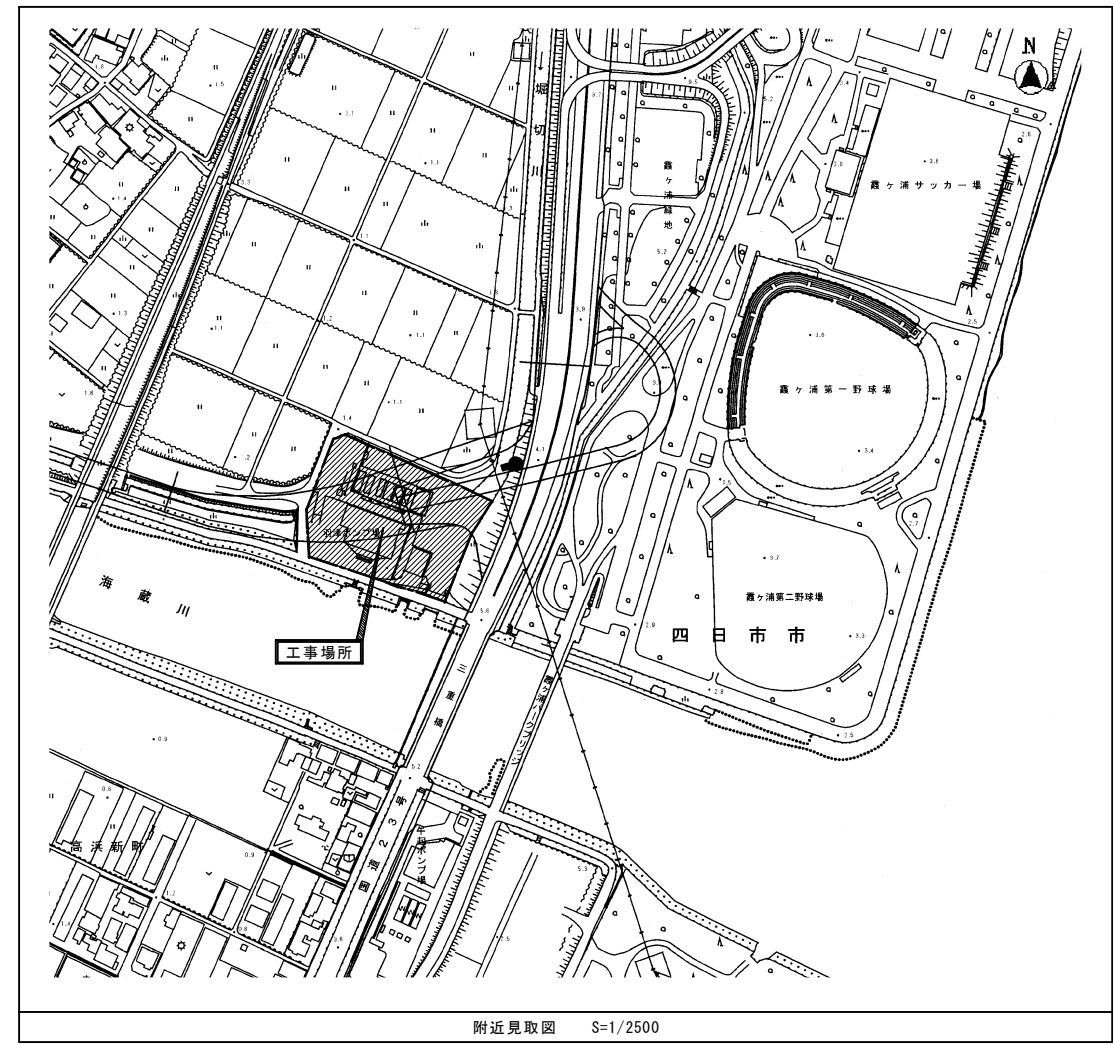
一級建築士事務所

滋賀県知事登録（ヌ）第354号

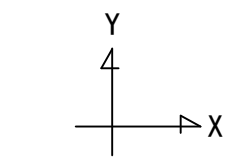
一級建築士（大臣）登録第183114号 小幡直己



配置図 S=1/300



附近見取図 S=1/2500

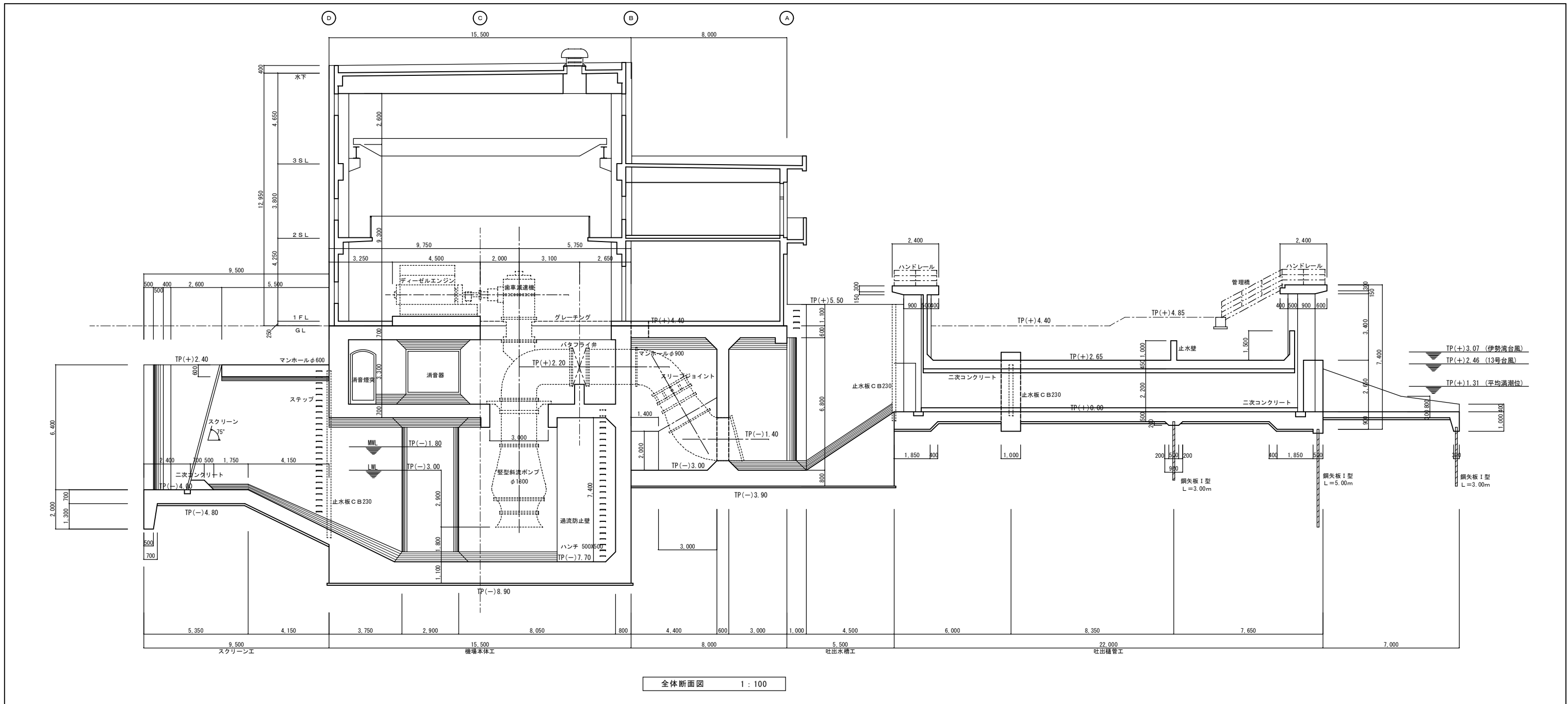


耐震診断対象建物を示す  
(今回工事建物)

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                          |                |
|--------------------|--------------------------|----------------|
| 年度                 | 令和 年度                    |                |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事             |                |
| 図面名称               | 附近見取図・配置図                |                |
| 縮尺                 | A1 S=1:300<br>A3 S=1:600 | 図面番号 A-07 / 24 |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント        |                |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                          |                |
| 令和 3年 3月 調製        |                          |                |



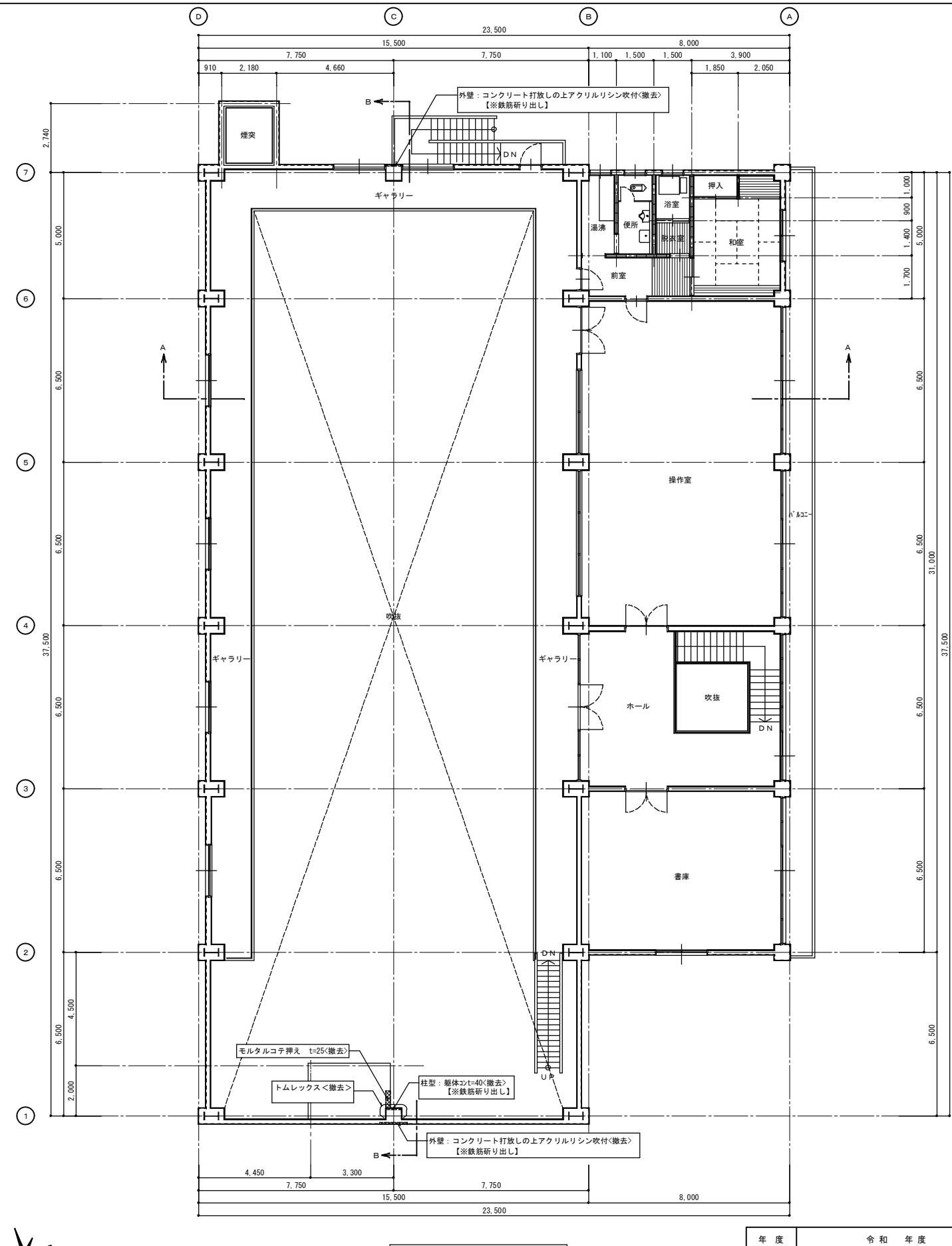
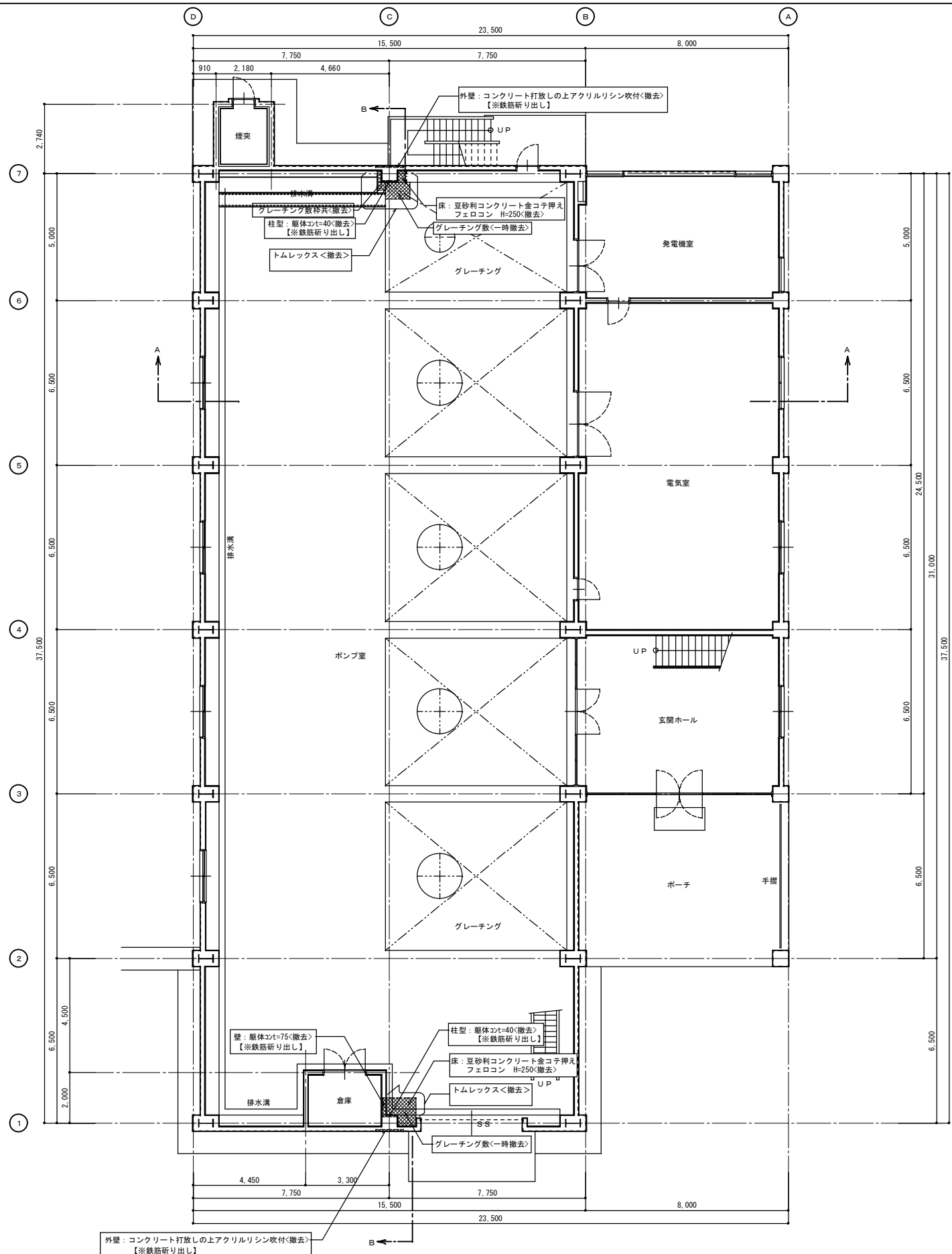


| 外部仕上表  |   |
|--|---|
| <p>屋上 均しモルタルの上シート防水t=1.0 シルバー仕上 : 既設のまま</p> <p>パラベット コンクリート打放しの上アクリルリシン吹付 : 既設のまま</p> <p>軒天 コンクリート打放しの上アクリルリシン吹付 : 既設のまま</p> <p>外壁 コンクリート打放しの上アクリルリシン吹付 : 既設のまま<br/>今回柱増打部 : コンクリート打放しの上アクリルリシン吹付 &lt;新設&gt;</p> | <p>外壁(管理棟) モルタル下地の上小口タイル貼 : 既設のまま</p> <p>巾木 コンクリート打放し H=350 : 既設のまま</p> <p>スロープ コンクリート木コテ押え : 既設のまま</p> <p>バルコニー 床: 防水モルタル金コテ押え : 既設のまま</p> |

| 内部仕上表 |      |     |     |        |    |   |    |    |         |   |        |   |     |                                |       |    |
|-------|------|-----|-----|--------|----|---|----|----|---------|---|--------|---|-----|--------------------------------|-------|----|
| 階     | 室名   | 居室  | 床高さ | 天井高さ   | 床  |   | 巾木 |    | 腰壁(柱型共) |   | 壁(柱型共) |   | 天井  |                                | 廻縁    | 備考 |
|       |      |     |     |        | 下地 | 仕上  | 下地 | 仕上 | 下地      | 仕上  | 下地     | 仕上  | 下地  | 仕上                             |       |    |
| 1階    | ポンプ室 | 現況  | ±0  | 11.650 |    | 豆砂利コンクリート金コテ押え フェロン t=250<br>[耐震補強部]<撤去>        |    |    | CON     | モルタル下地の上100角色タイル貼 H=1,500まで<br>[耐震補強部]<撤去>(下地モルタル共)<br>【※一部躯体コンクリート撤去 鉄筋折り出し】 | CON    | トムレックス吹付 t=15<br>A・B・C面: モルタルコテ押え VP<br>[耐震補強部]<トムレックス撤去><br>【※一部躯体コンクリート撤去 鉄筋折り出し】 | LGS | 石膏ボードt=9.0捨強の上<br>岩綿吸音板貼 t=9.0 | 塩ビ製   |    |
|       |      | 改修後 | ±0  | 11.650 |    | 既設のまま<br>[耐震補強部]コンクリート直コテ押え<br>フェロン仕上 t=250<新設> |    |    | CON     | 既設のまま<br>[耐震補強部]100角色タイル貼 H=1,500まで<新設><br>(下地モルタル共)                          | CON    | 既設のまま<br>[耐震補強部]結露防止塗材t=1.0<新設>   | LGS | 既設のまま                          | 既設のまま |    |

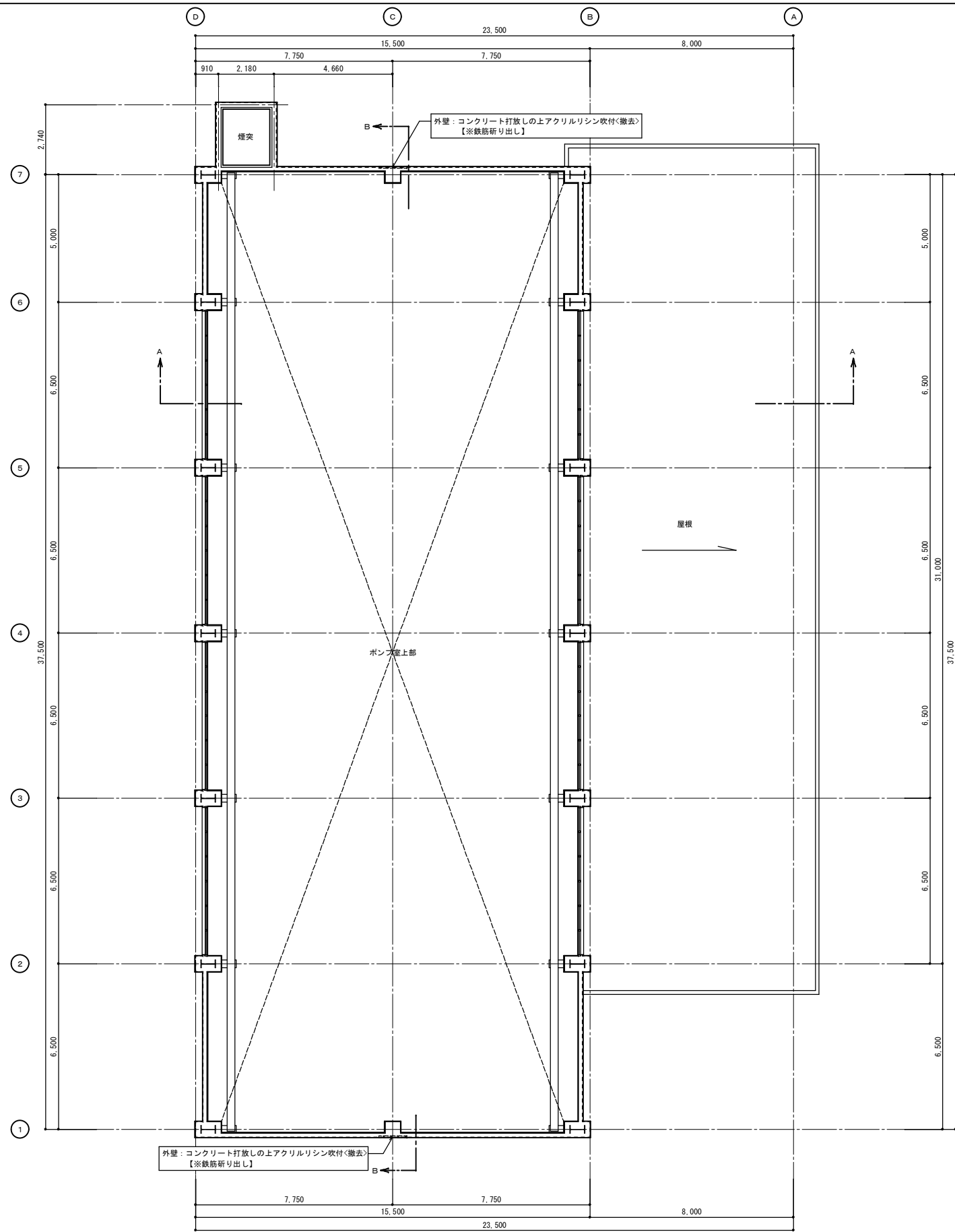
株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                                     |
|--------------------|-------------------------------------|
| 年度                 | 令和 年度                               |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事                        |
| 図面名称               | 全体断面図<br>仕上表                        |
| 縮尺                 | A1 1:100<br>A3 1:200 図面番号 A-08 / 24 |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント                   |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                                     |
| 令和 3年 3月 調製        |                                     |



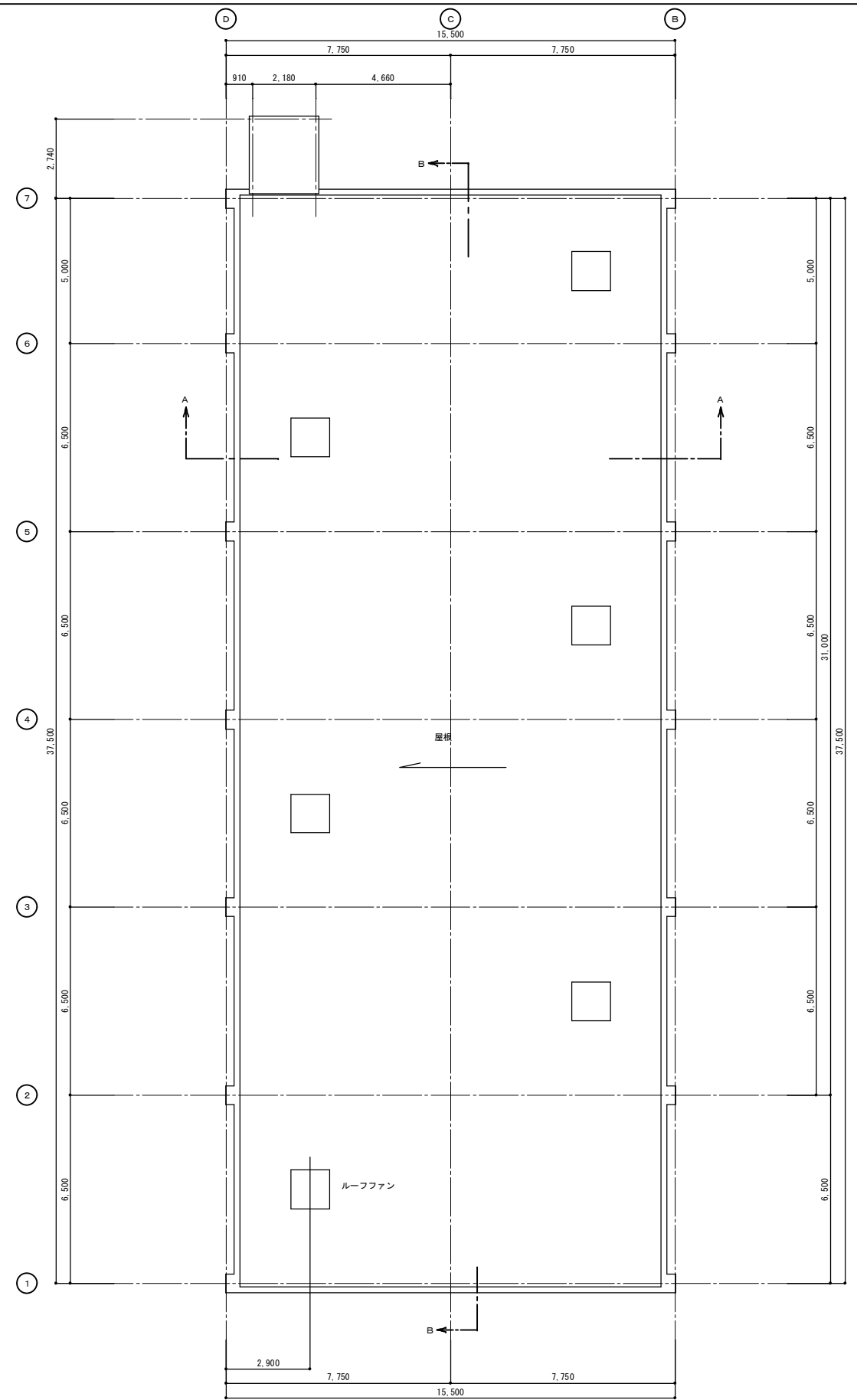
|                    |                         |                |
|--------------------|-------------------------|----------------|
| 年度                 | 令和 年度                   |                |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事            |                |
| 図面名称               | 現況撤去 1・2階平面図            |                |
| 縮尺                 | A1 S=1:50<br>A3 S=1:100 | 図面番号 A-09 / 24 |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント       |                |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                         |                |
| 令和 3年 3月 調製        |                         |                |

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己



現況・撤去 3階平面図 1/100

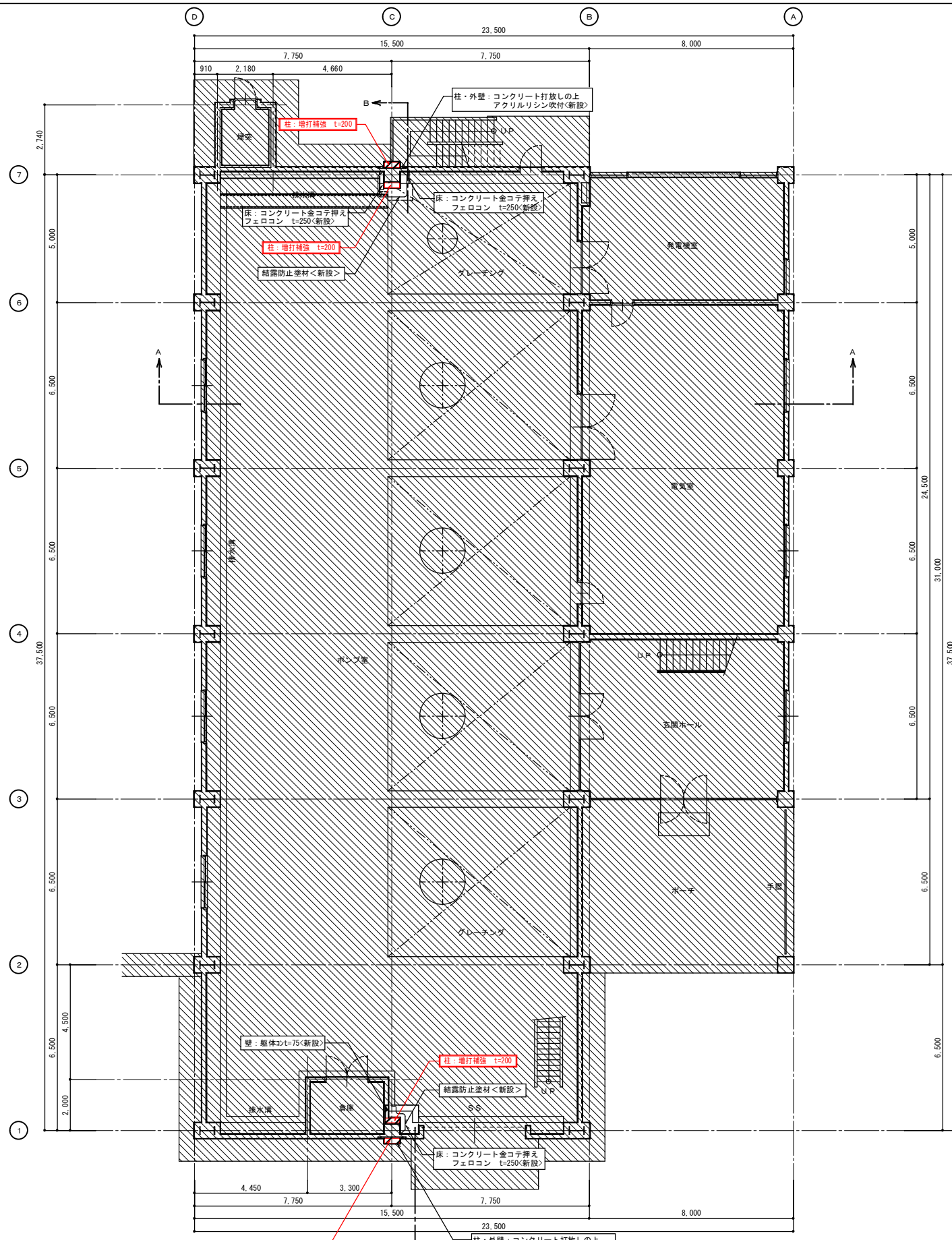
—— 解体撤去部分を示す



現況 R階平面図 1/100

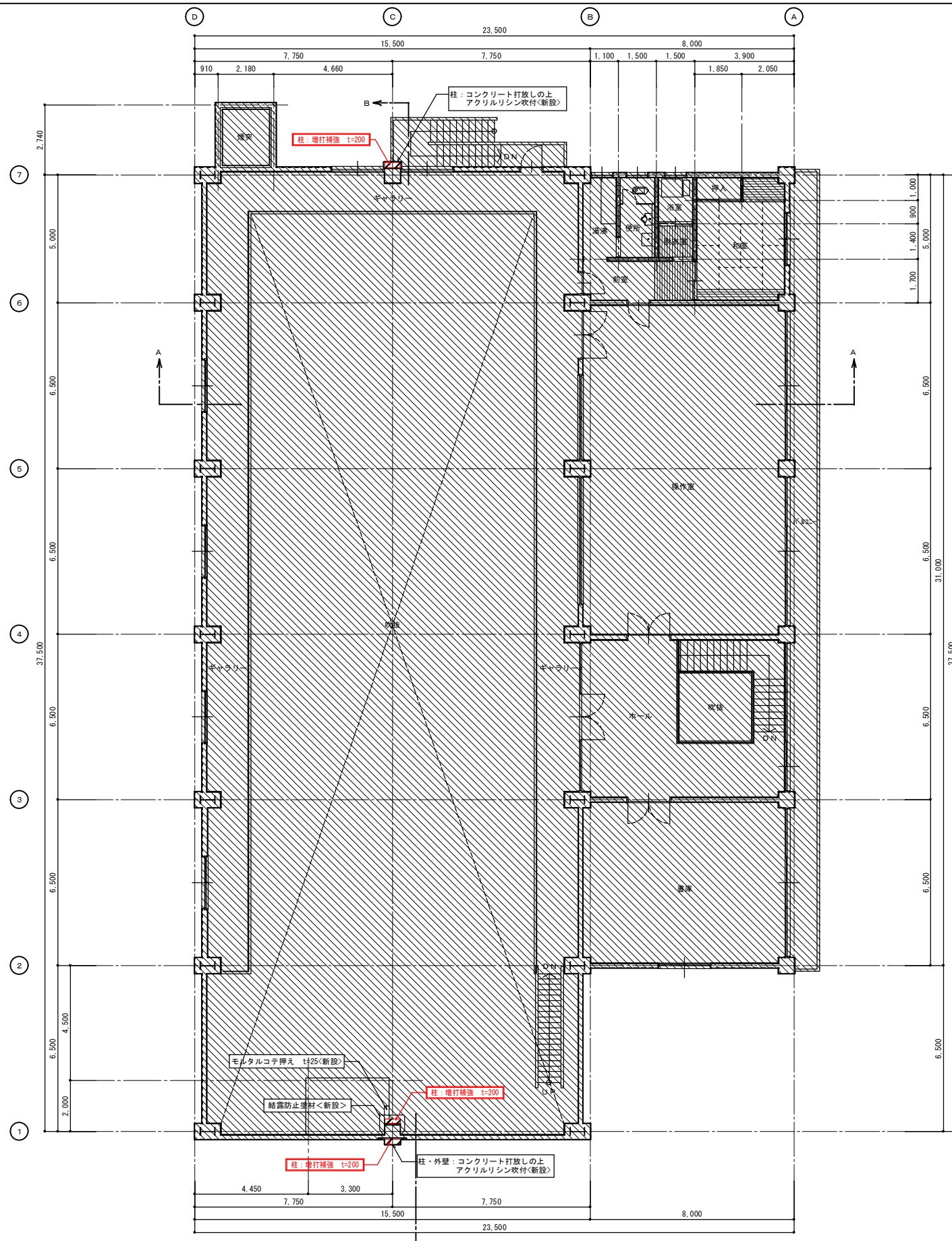
株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                   |                |
|--------------------|-------------------|----------------|
| 年度                 | 令和 年度             |                |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事      |                |
| 図面名称               | 現況撤去 3・R階平面図      |                |
| 縮尺                 | A1 S=1:100        | 図面番号 A-10 / 24 |
|                    | A3 S=1:200        |                |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント |                |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                   |                |
| 令和 3年 3月 調製        |                   |                |



改修後 1階平面図 1/100

既設のまま部分を示す



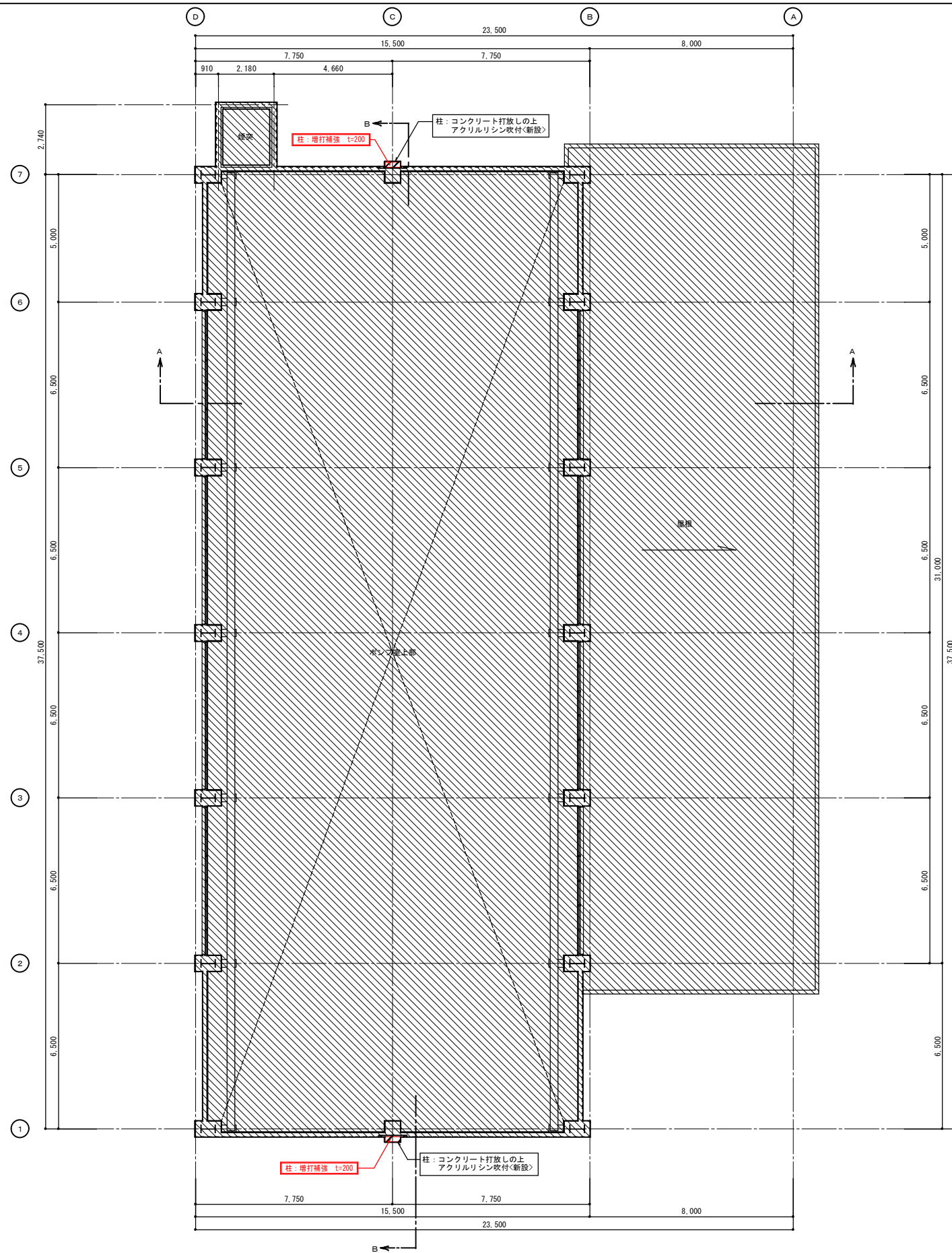
改修後 2階平面図 1/100

既設のまま部分を示す

株式会社エフオーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

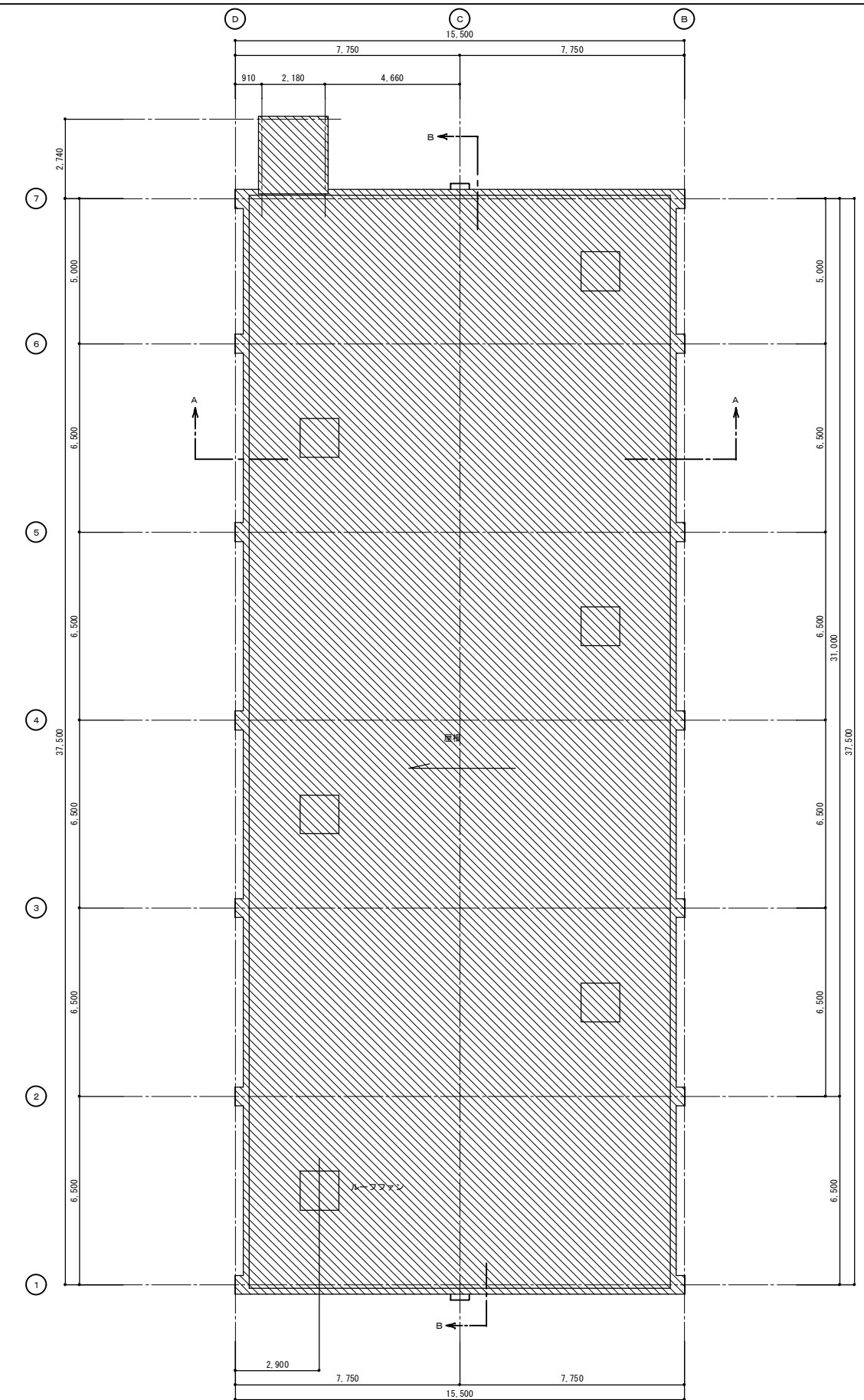
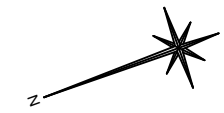
|                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 年度                 | 令和 年度                    |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事             |
| 図面名称               | 改修後 1・2階平面図              |
| 縮尺                 | A1 S=1:100<br>A3 S=1:200 |
| 設計者                | 株式会社エフオーターマネジメント         |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                          |
| 令和 3年 3月 調製        |                          |

図面番号 A-11 / 24



改修後 3階平面図 1/100

既設のまま部分を示す

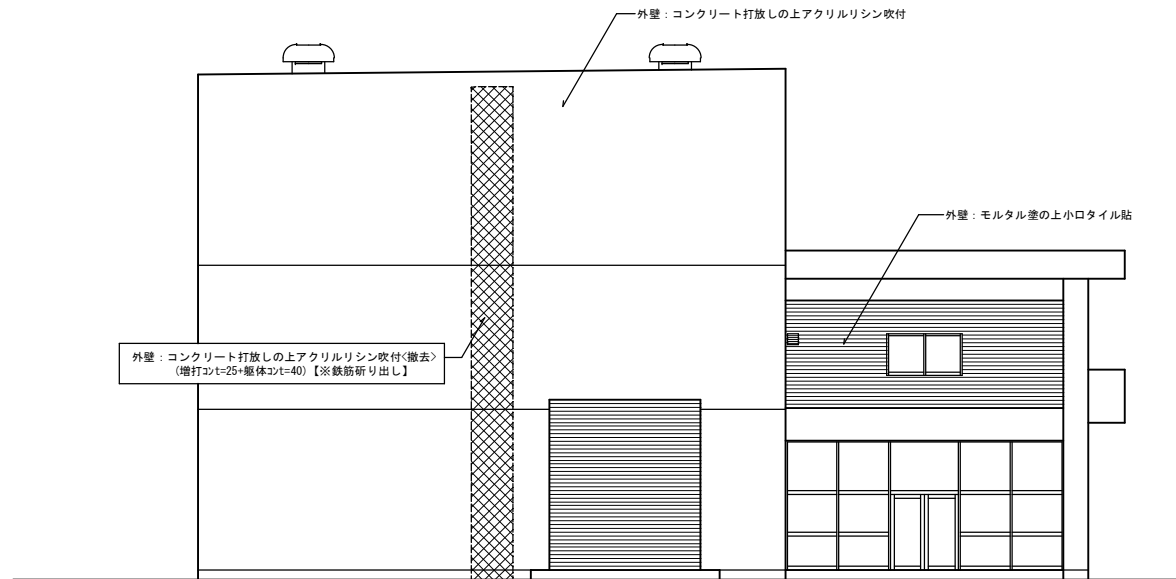


現況 R階平面図 1/100

既設のまま部分を示す

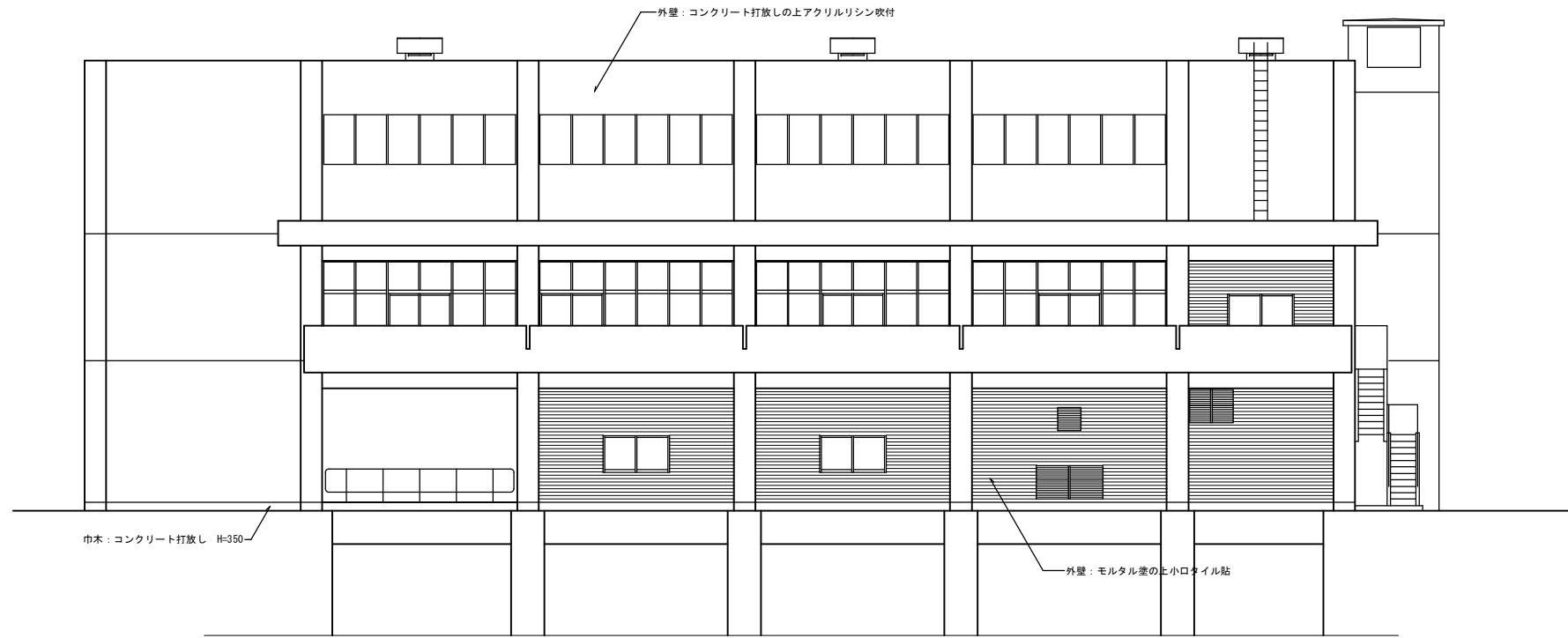
株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                          |                |
|--------------------|--------------------------|----------------|
| 年度                 | 令和 年度                    |                |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事             |                |
| 図面名称               | 改修後 3・R階平面図              |                |
| 縮尺                 | A1 S=1:100<br>A3 S=1:200 | 図面番号 A-12 / 24 |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント        |                |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                          |                |
| 令和 3年 3月 調製        |                          |                |

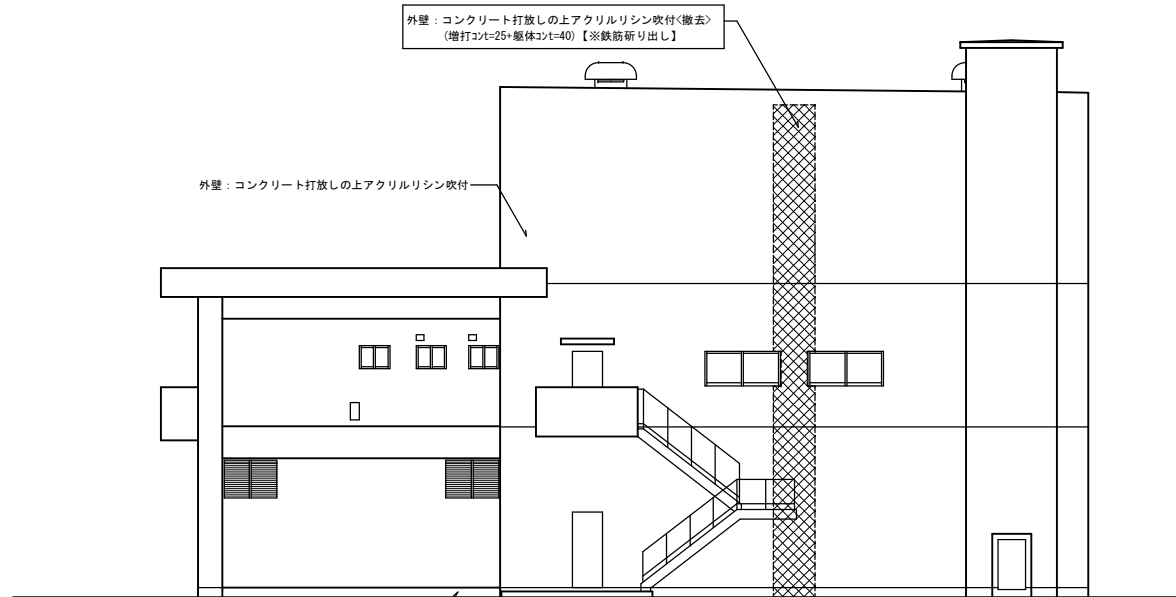


現況・撤去 西立面図 1/100

—— 解体撤去部分を示す

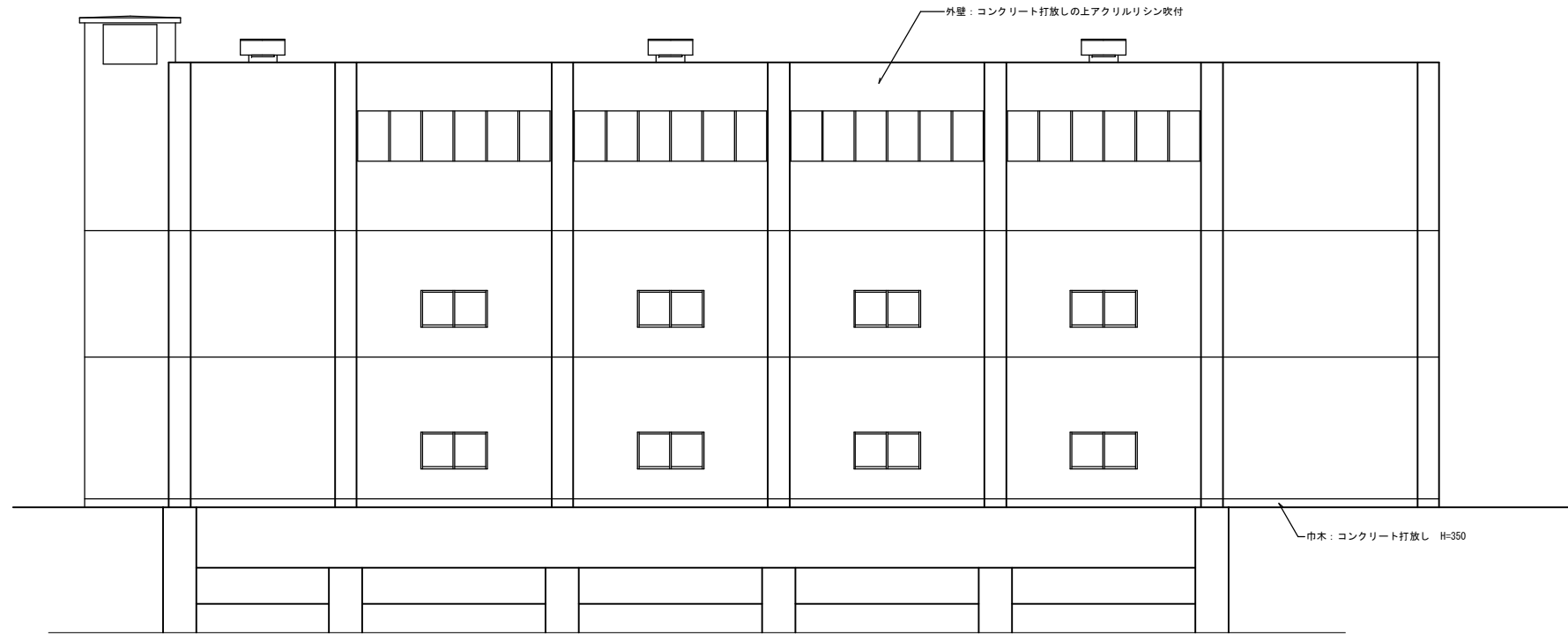


現況 南立面図 1/100



現況・撤去 東立面図 1/100

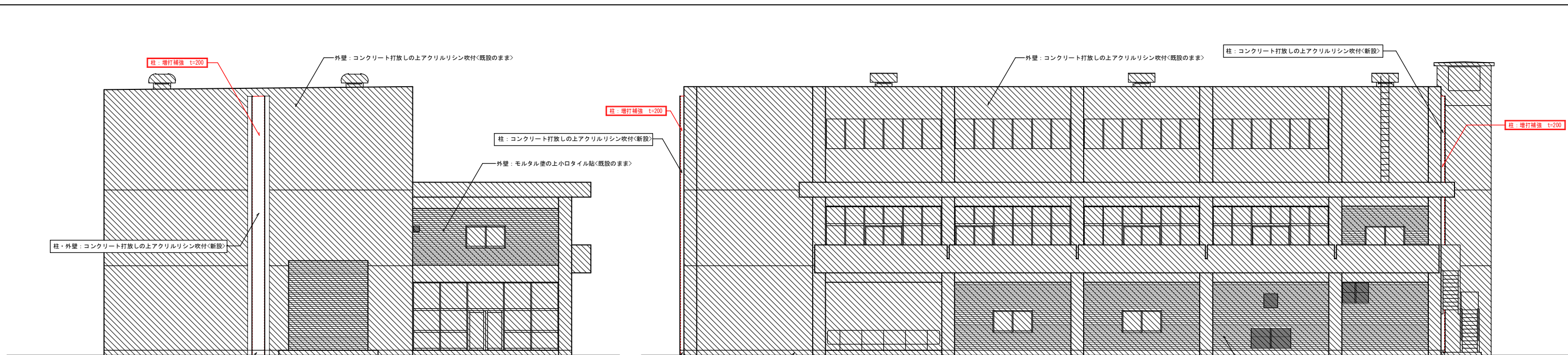
—— 解体撤去部分を示す



現況 北立面図 1/100

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                   |                |
|--------------------|-------------------|----------------|
| 年度                 | 令和 年度             |                |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事      |                |
| 図面名称               | 現況撤去 立面図          |                |
| 縮尺                 | A1 S=1:100        | 図面番号 A-13 / 24 |
|                    | A3 S=1:200        |                |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント |                |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                   |                |
| 令和 3年 3月 調製        |                   |                |

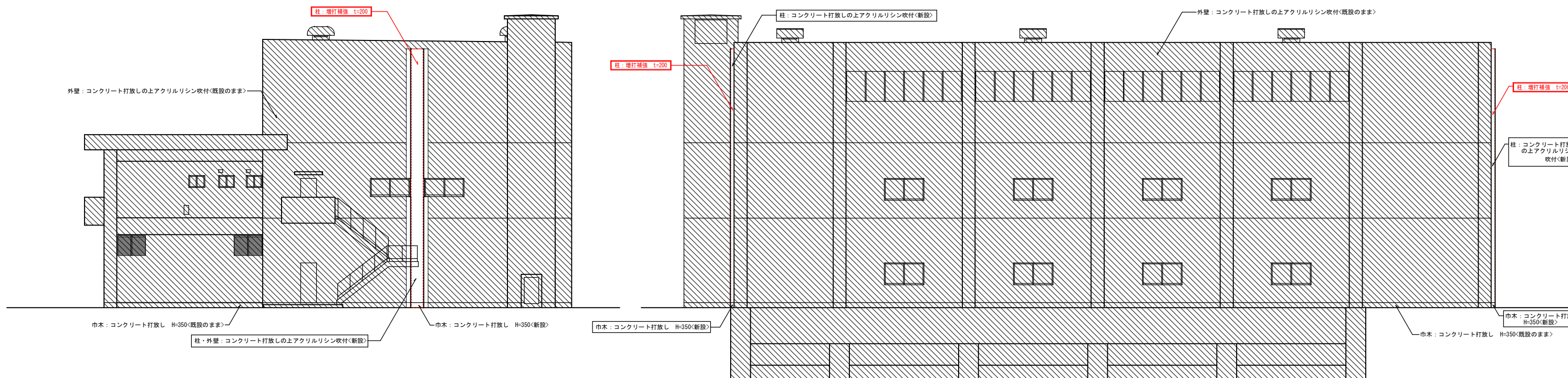


改修後 西立面図 1/100

既設のまま部分を示す

改修後 南立面図 1/100

既設のまま部分を示す



改修後 東立面図 1/100

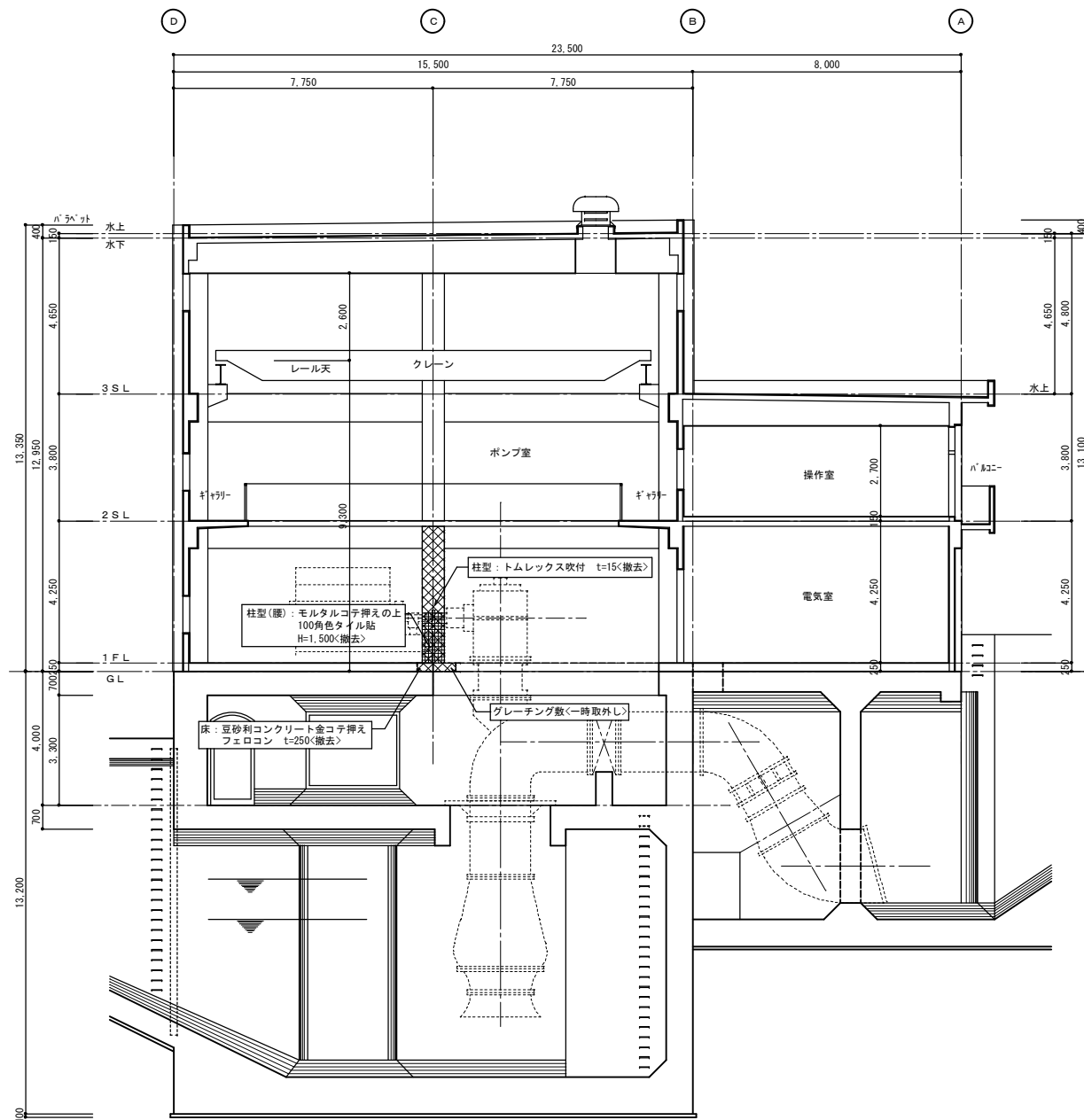
既設のまま部分を示す

改修後 北立面図 1/100

既設のまま部分を示す

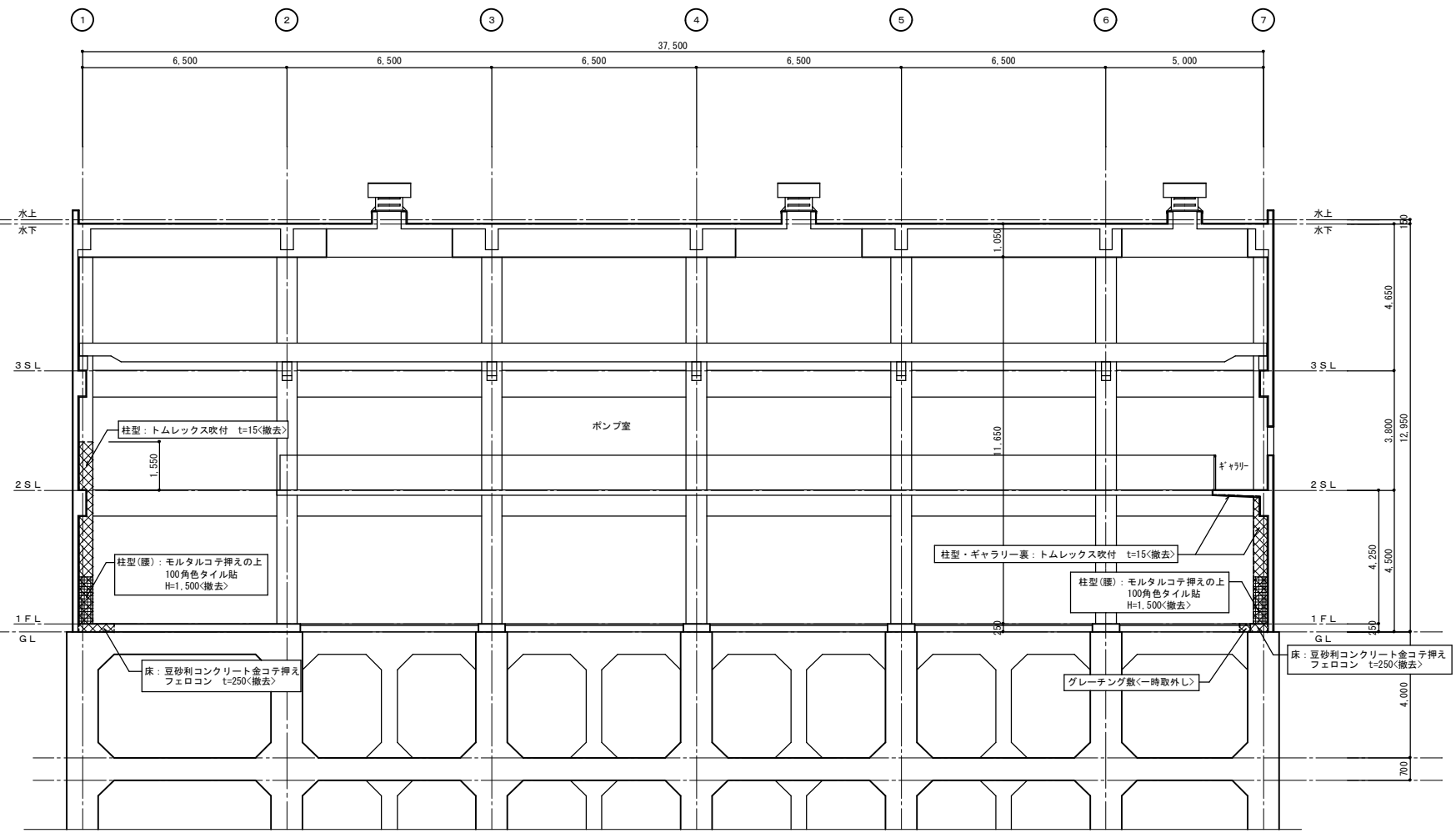
株式会社エフオーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 年度                 | 令和 年度                    |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事             |
| 図面名称               | 改修後 立面図                  |
| 縮尺                 | A1 S=1:100<br>A3 S=1:200 |
| 図面番号               | A-14 / 24                |
| 設計者                | 株式会社エフオーターマネジメント         |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                          |
| 令和 3年 3月 調製        |                          |



現況・撤去 A-A断面図 1/100

—— 解体撤去部分を示す



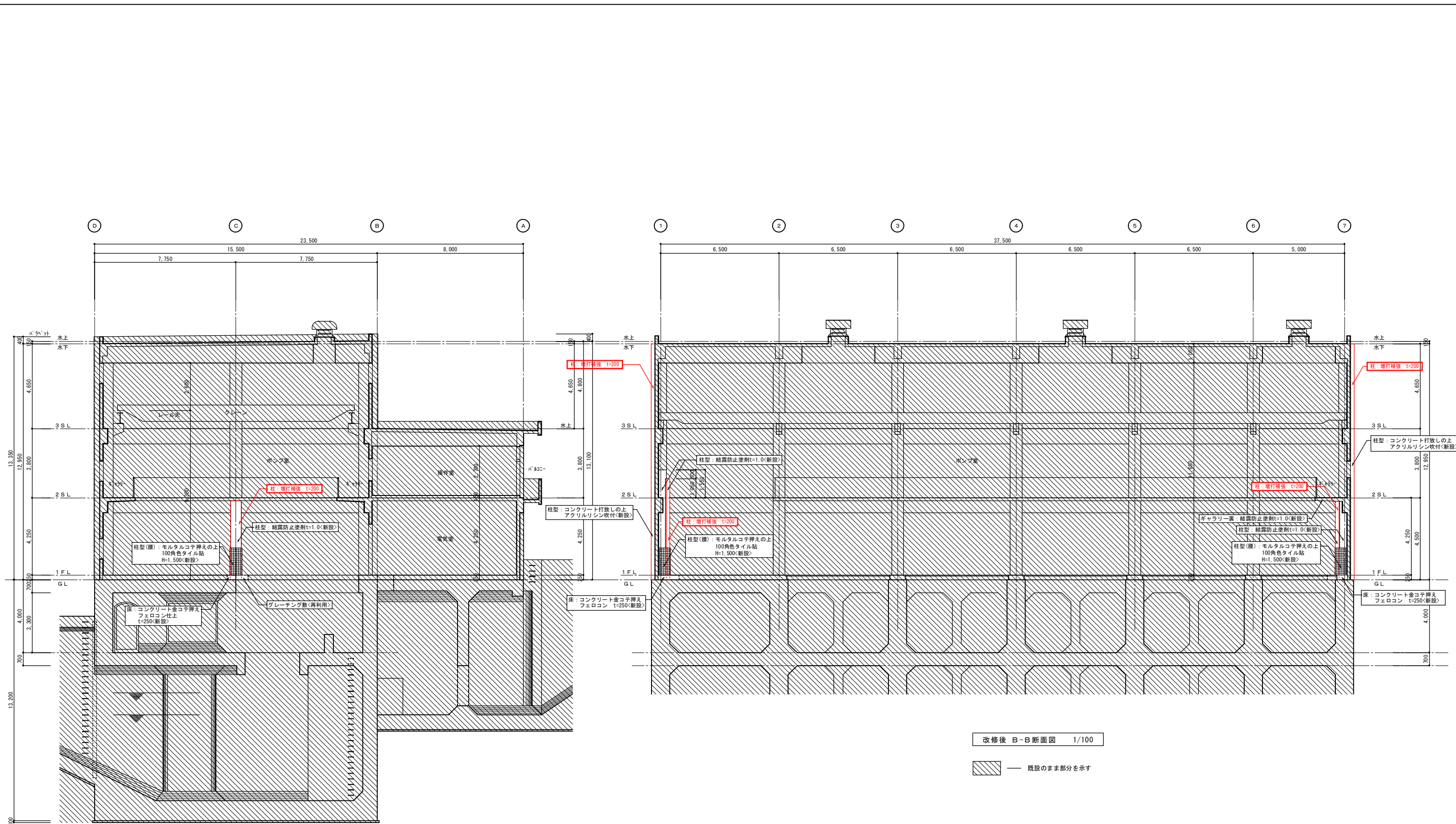
現況・撤去 B-B断面図 1/100

—— 解体撤去部分を示す

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|      |                          |      |           |
|------|--------------------------|------|-----------|
| 年度   | 令和 年度                    |      |           |
| 工事名  | 羽津ポンプ場耐震補強工事             |      |           |
| 図面名称 | 現況撤去 断面図                 |      |           |
| 縮尺   | A1 S=1:100<br>A3 S=1:200 | 図面番号 | A-15 / 24 |
| 設計者  | 株式会社エフウォーターマネジメント        |      |           |
|      | 四日市市 上下水道局 技術部 施設課       |      |           |
|      | 令和 3年 3月 調製              |      |           |





改修後 A-A 断面図 1/100

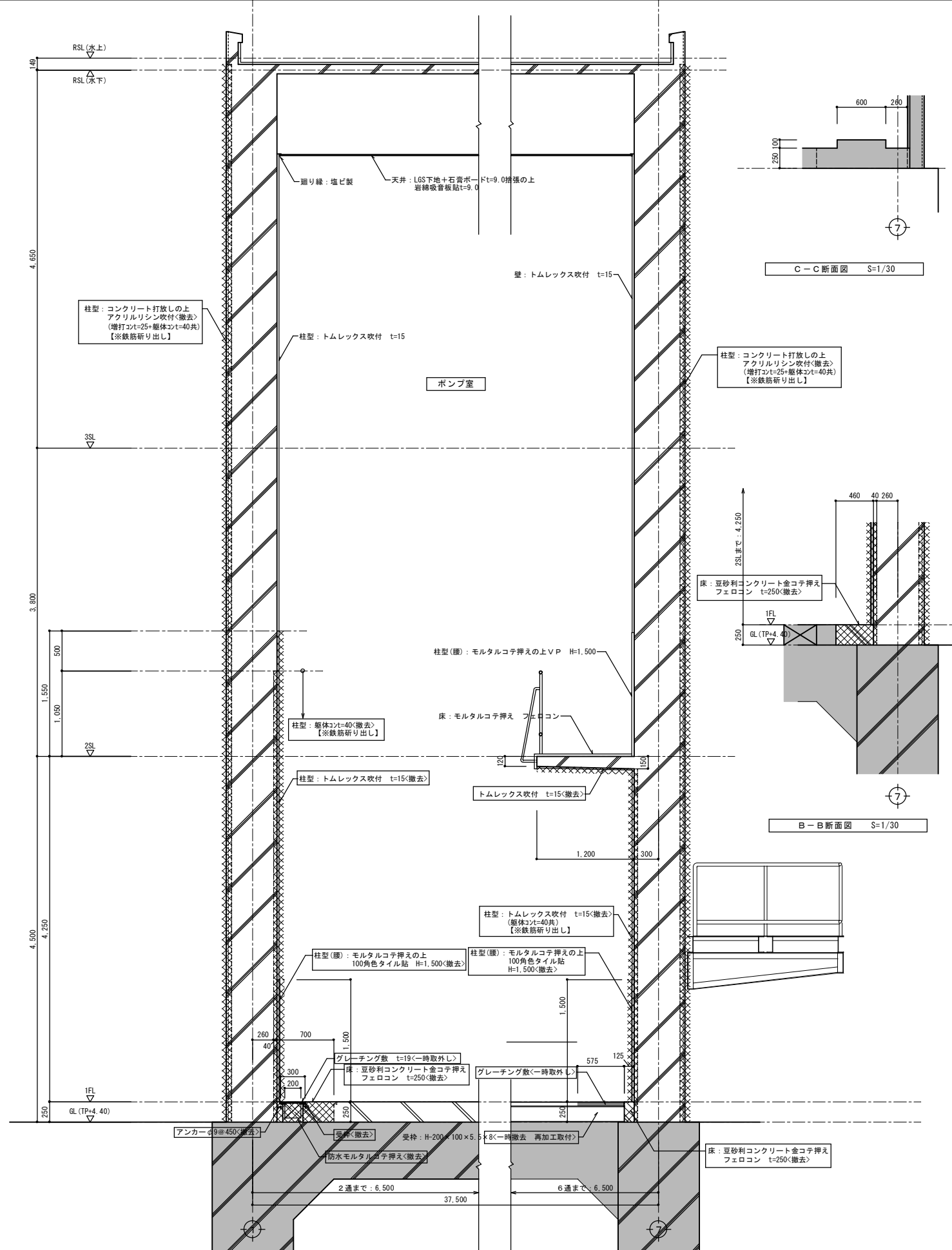
既設のまま部分を示す

改修後 B-B 断面図 1/100

既設のまま部分を示す

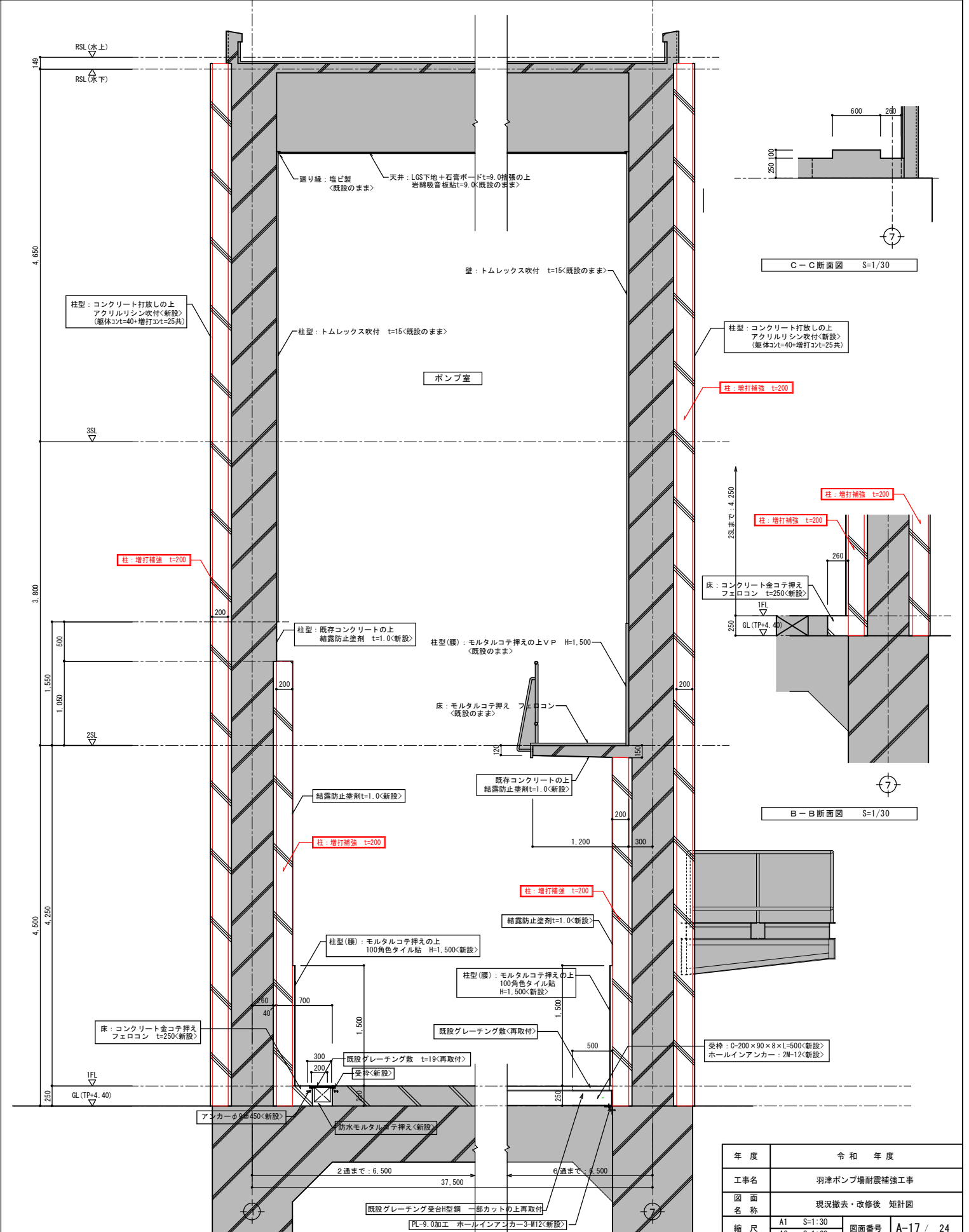
株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|      |                    |      |           |
|------|--------------------|------|-----------|
| 年度   | 令和 年度              |      |           |
| 工事名  | 羽津ポンプ場耐震補強工事       |      |           |
| 図面名称 | 改修後 断面図            |      |           |
| 縮尺   | A1 S=1:100         | 図面番号 | A-16 / 24 |
|      | A3 S=1:200         |      |           |
| 設計者  | 株式会社エフウォーターマネジメント  |      |           |
|      | 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |      |           |
|      | 令和 3年 3月 調製        |      |           |



現況・撤去 A-A 矩計図 S=1/30

解休撤去部分を示す



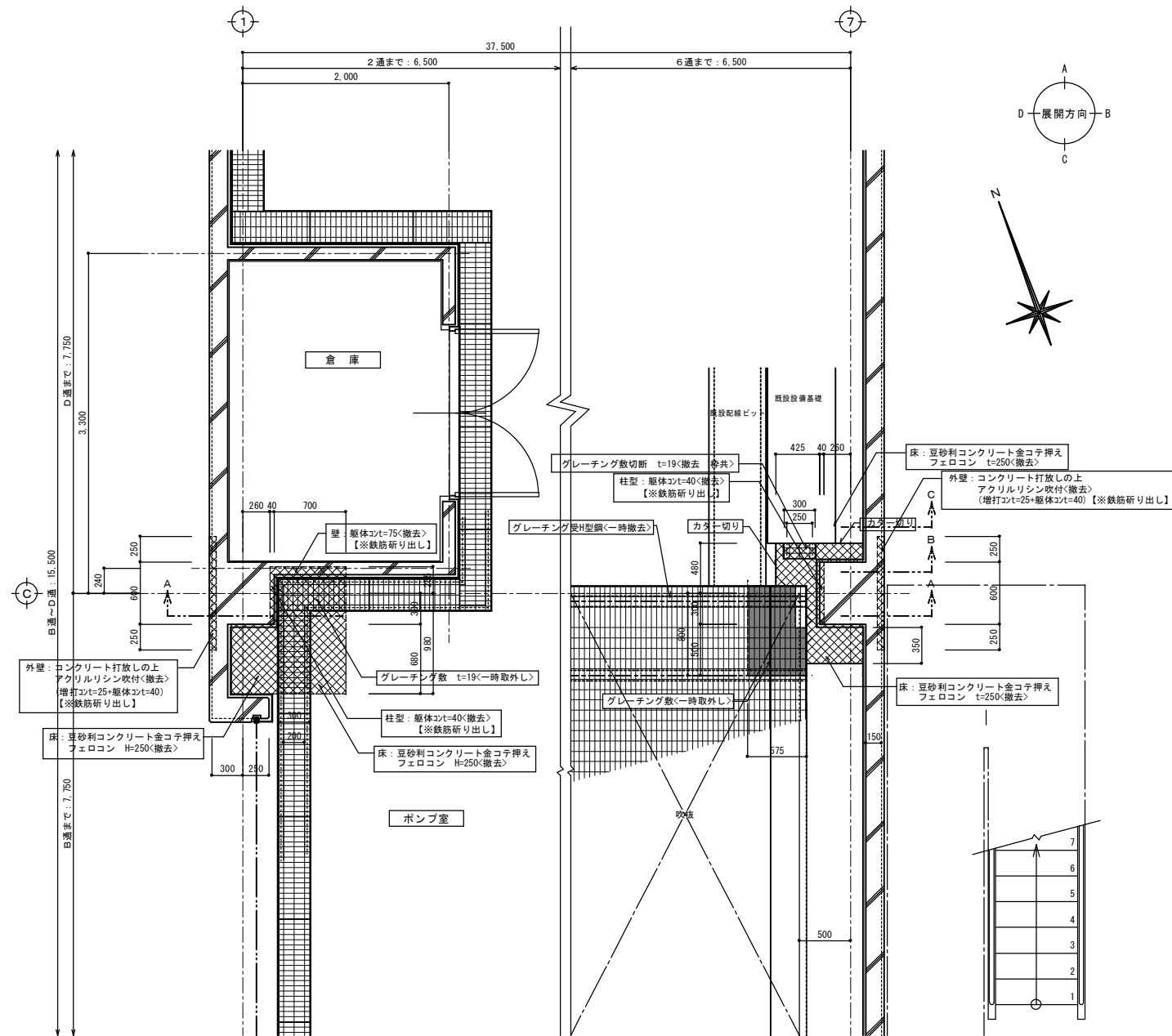
改修後 A-A 矩計図 S=1/30

注) 既設グレーチング箇所については、現地形状確認後 切替が必要な場合は、切替し再利用すること。

既設のままである部分を示す

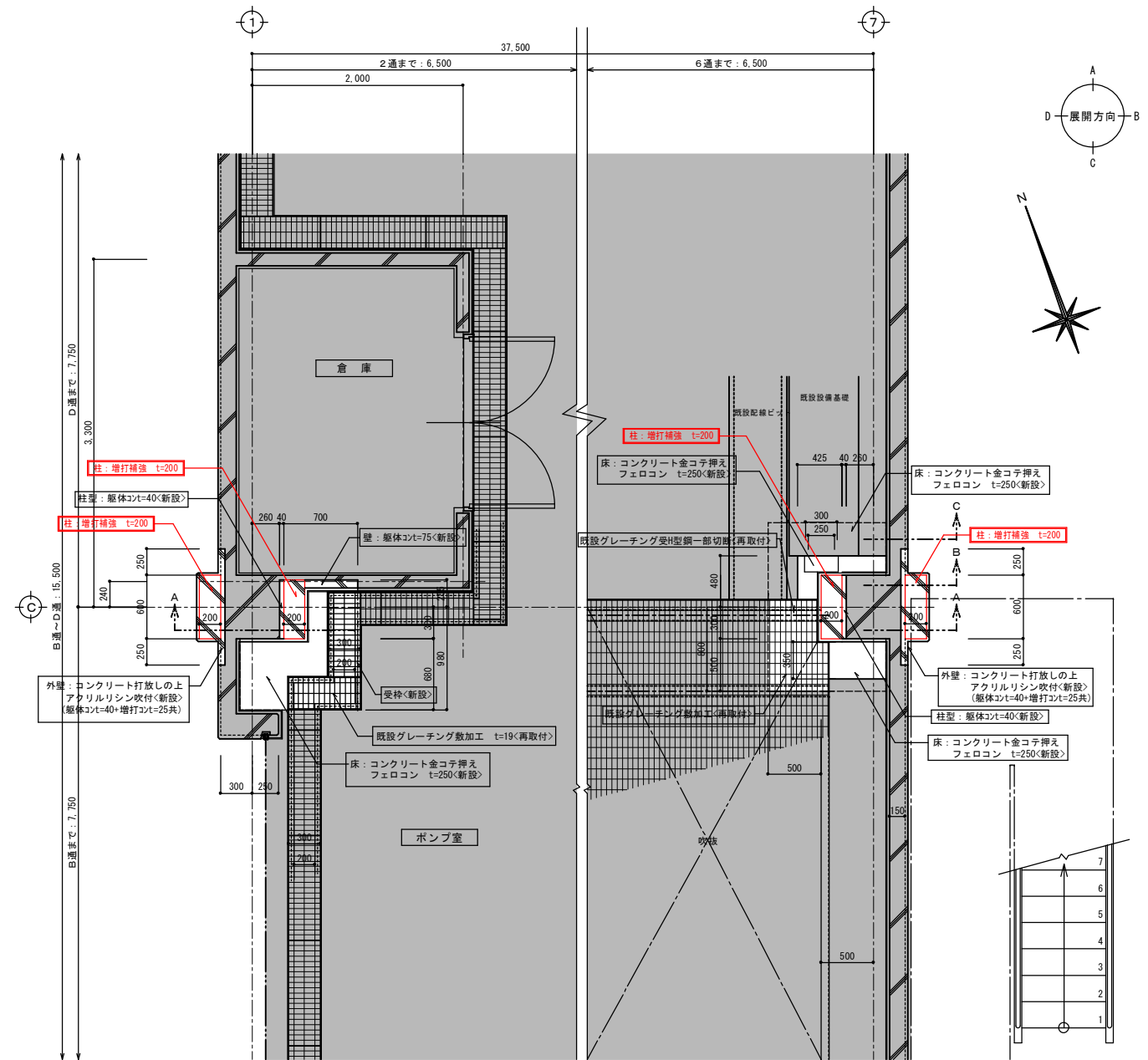
株式会社エフオウターマネジメント 一級建築士事務所  
滋賀県知事登録(ヌ)第 354 号  
一級建築士(大臣)登録第 183114 号 小幡直己

|      |                        |
|------|------------------------|
| 年度   | 令和 年度                  |
| 工事名  | 羽津ポンプ場耐震補強工事           |
| 図面名称 | 現況撤去・改修後 矩計図           |
| 縮尺   | A1 S=1:30<br>A3 S=1:60 |
| 設計者  | 株式会社エフオウターマネジメント       |
|      | 四日市市 上下水道局 技術部 施設課     |
|      | 令和 3 年 3 月 調製          |



現況・撤去 1階平面詳細図 S=1/10

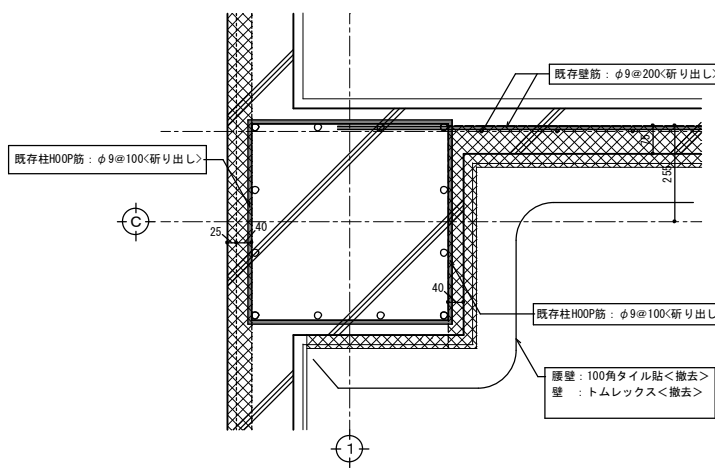
解体撤去部分を示す



改修後 1階平面詳細図 S=1/10

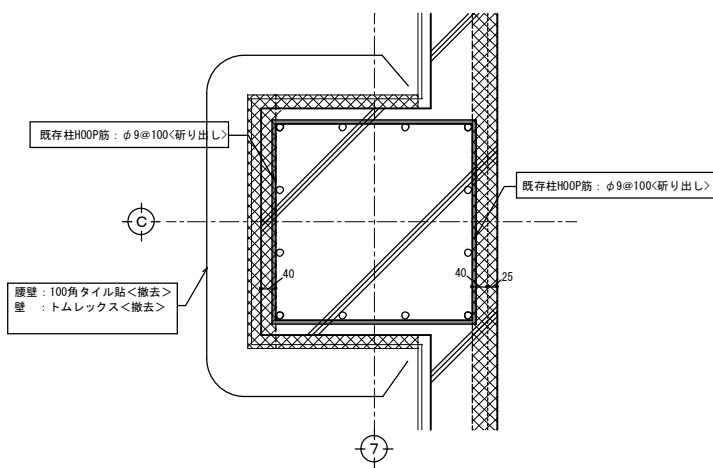
既設のまま部分を示す

注) 既設グレーチング蓋再利用部分については、現地形状確認後切断が必要な場合は、切断し再利用すること。



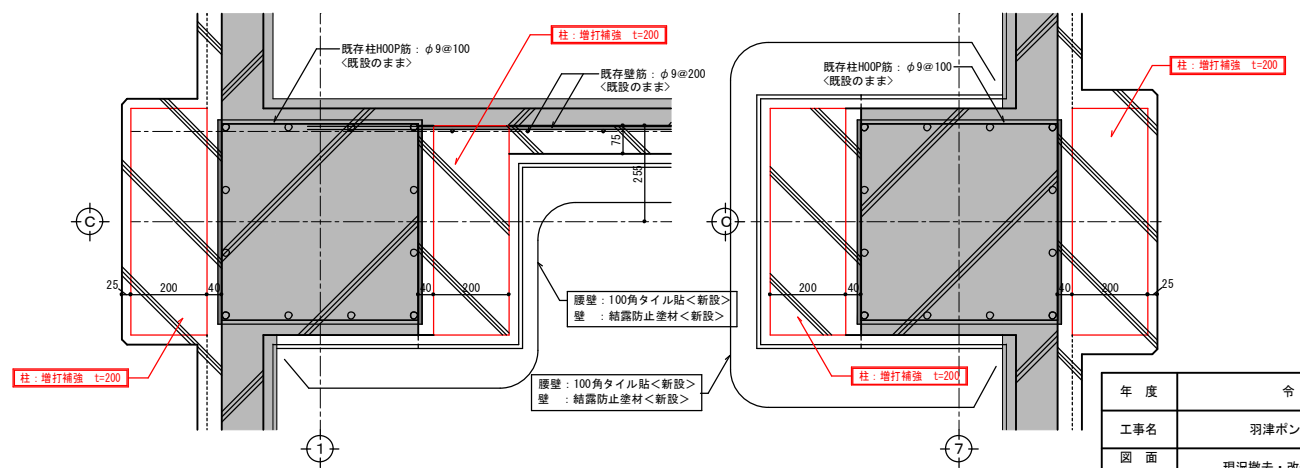
現況・撤去C-1通柱 部分平面詳細図 S=1/10

解体撤去部分を示す



現況・撤去C-7通柱 部分平面詳細図 S=1/10

解体撤去部分を示す



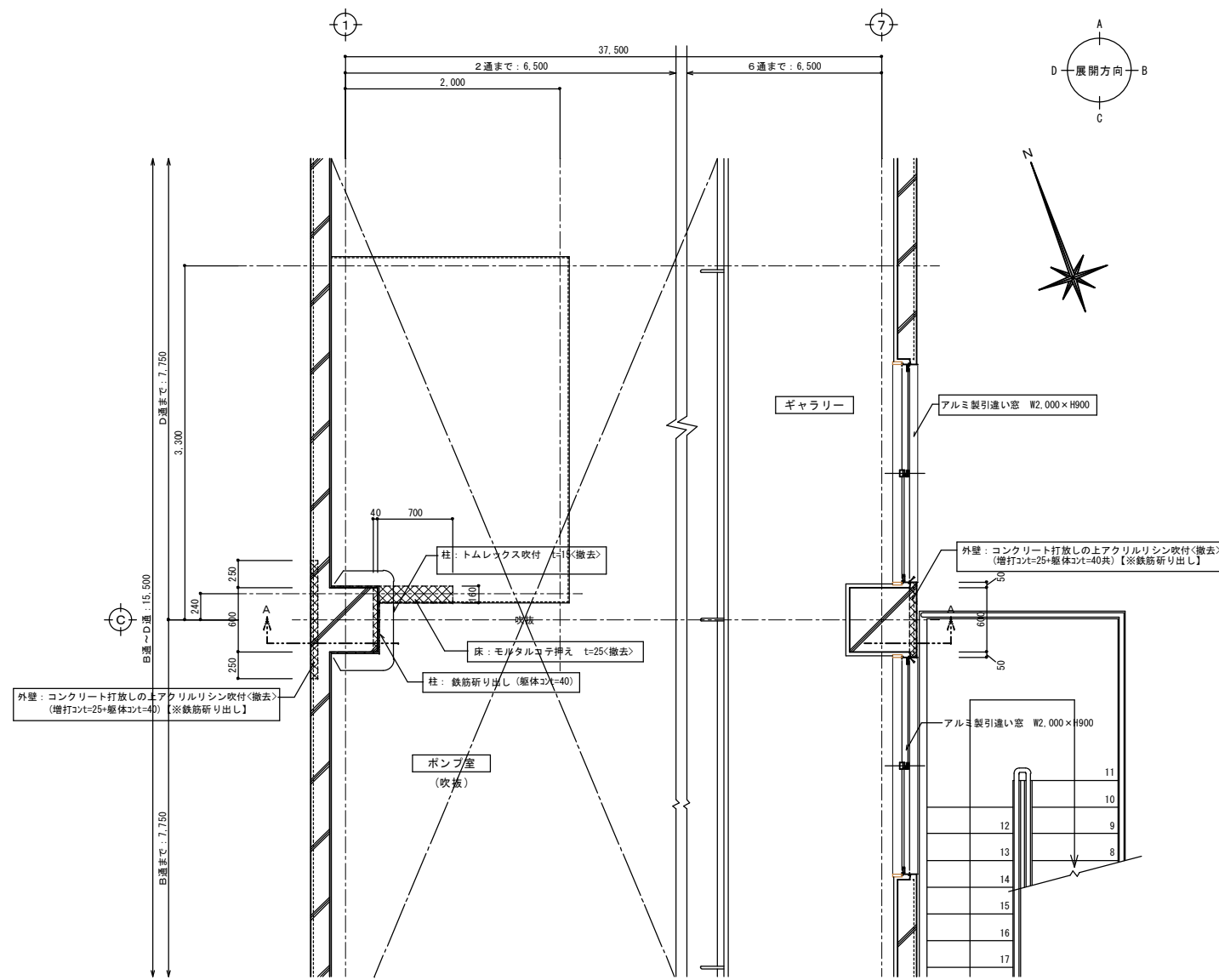
改修後 C-1通柱 部分平面詳細図 S=1/10

既設のまま部分を示す

改修後 C-7通柱 部分平面詳細図 S=1/10

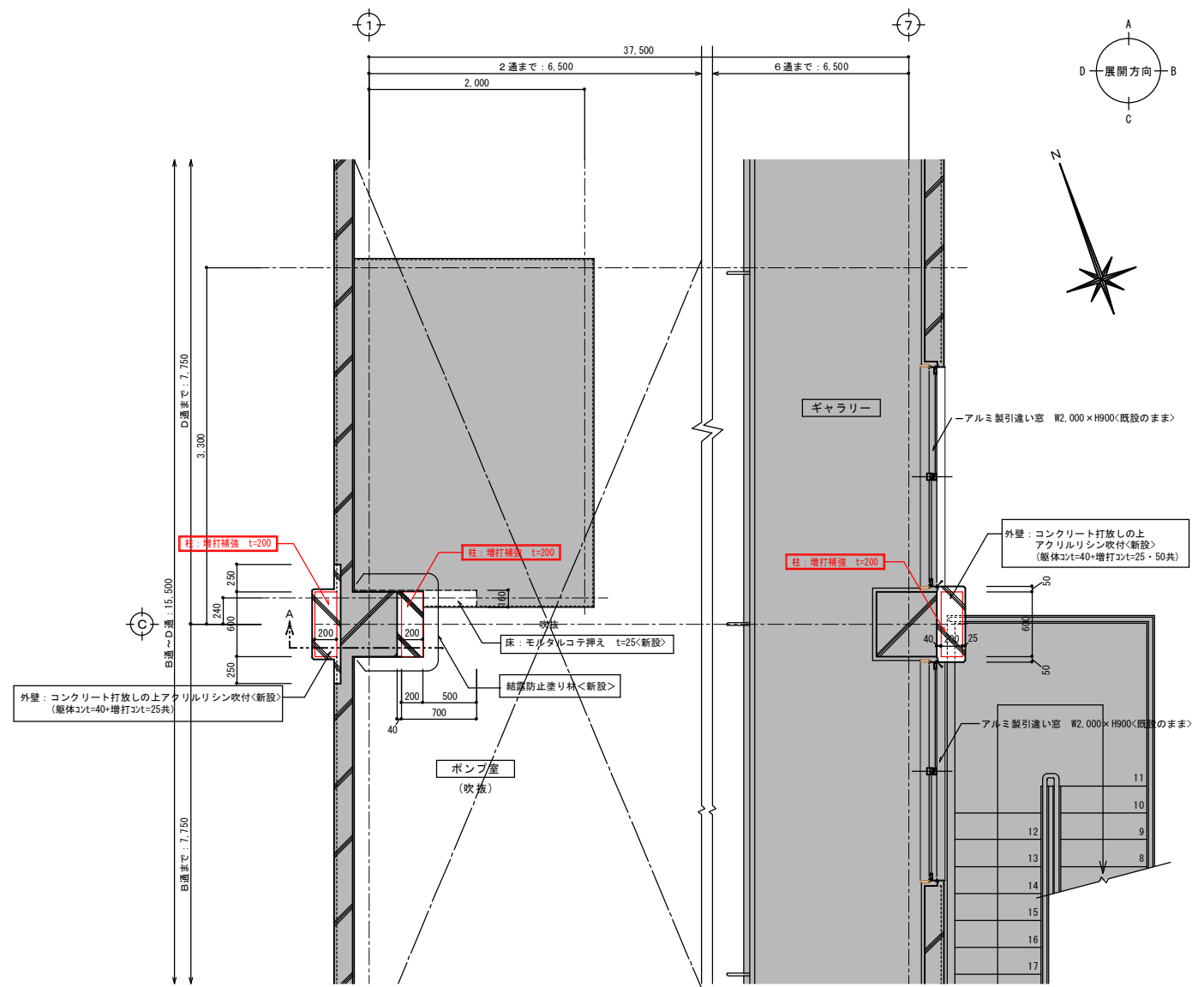
株式会社エフオーターマネジメント 一級建築士事務所  
滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 年度   | 令和 年度                                 |
| 工事名  | 羽津ポンプ場耐震補強工事                          |
| 図面名称 | 現況撤去・改修後 1階平面詳細図                      |
| 縮尺   | A1 S=1:30 図面番号 A-18 / 24<br>A3 S=1:60 |
| 設計者  | 株式会社エフオーターマネジメント                      |
|      | 四日市市 上下水道局 技術部 施設課                    |
|      | 令和 3年 3月 調製                           |



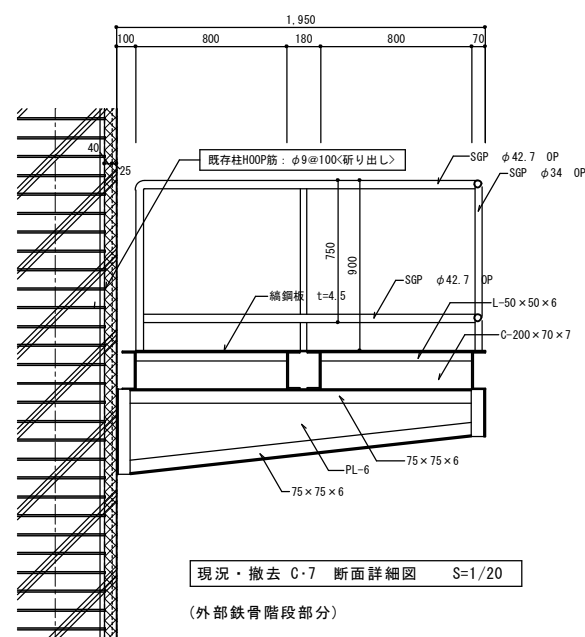
現況・撤去 2階平面図詳細図 S=1/20

解体撤去部分を示す



改修後 2階平面図詳細図 S=1/20

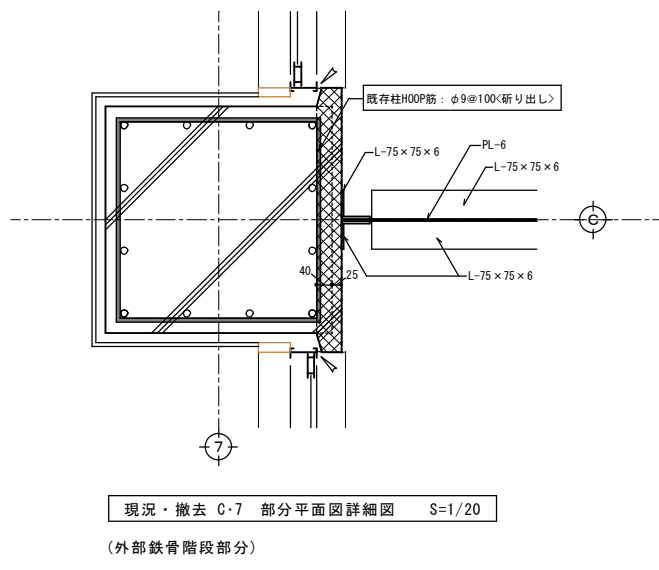
既設のまま部分を示す



現況・撤去 C-7 断面詳細図 S=1/20

(外部鉄骨階段部分)

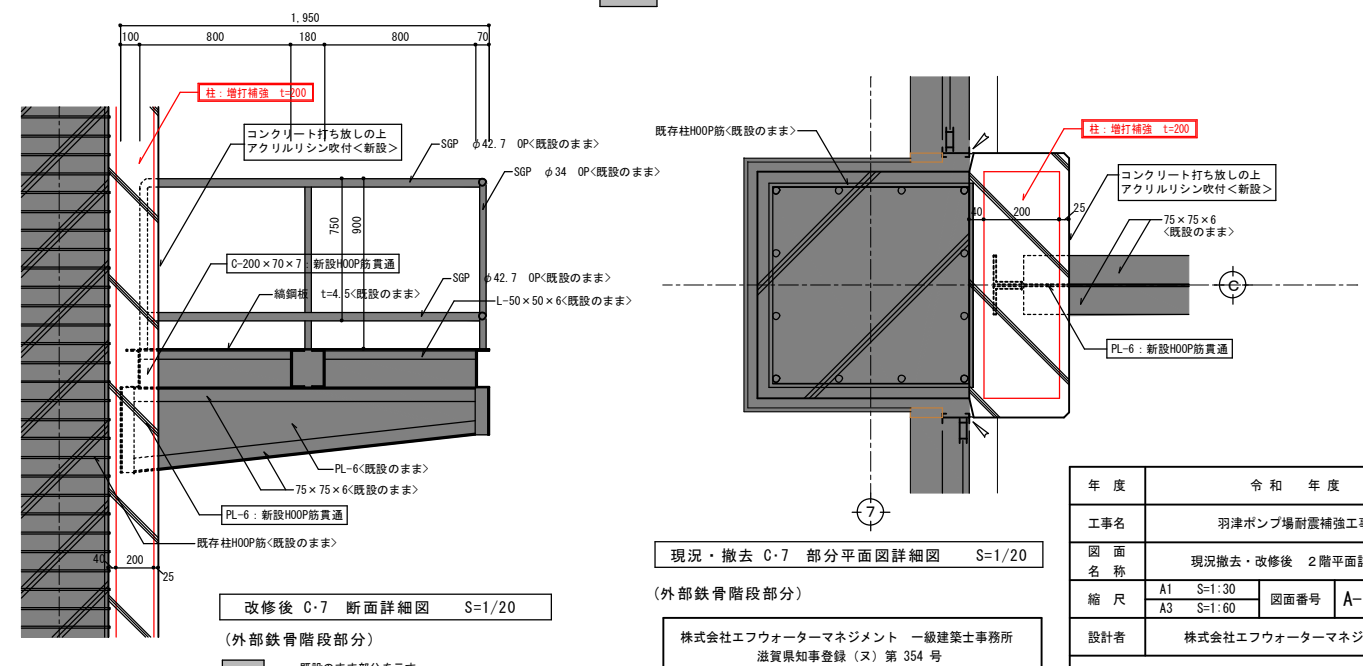
解体撤去部分を示す



現況・撤去 C-7 部分平面図詳細図 S=1/20

(外部鉄骨階段部分)

解体撤去部分を示す



改修後 C-7 断面詳細図 S=1/20

(外部鉄骨階段部分)

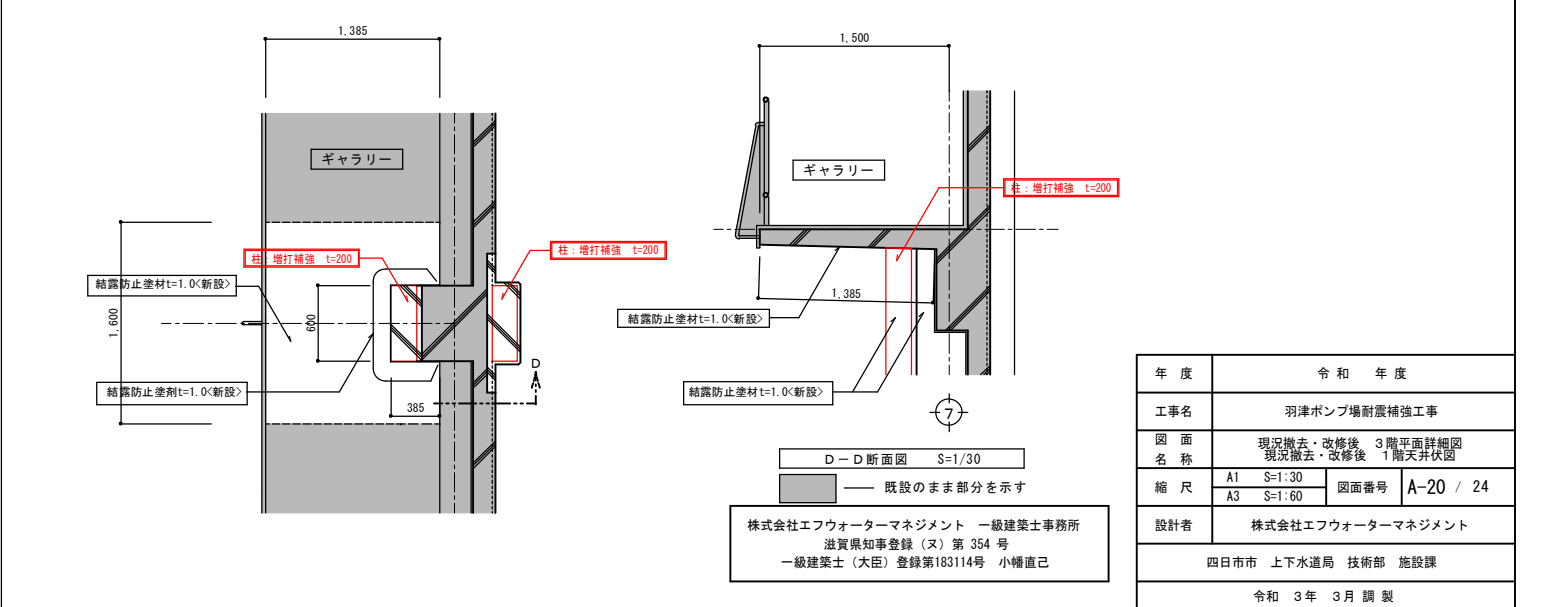
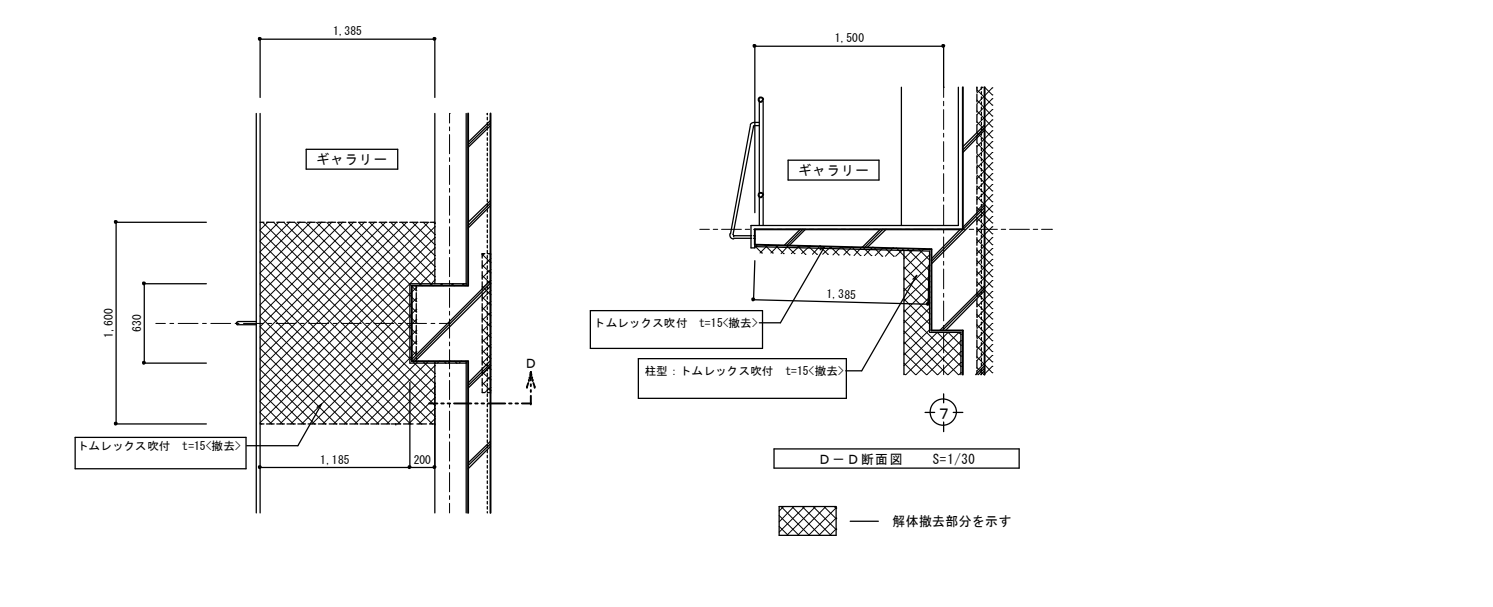
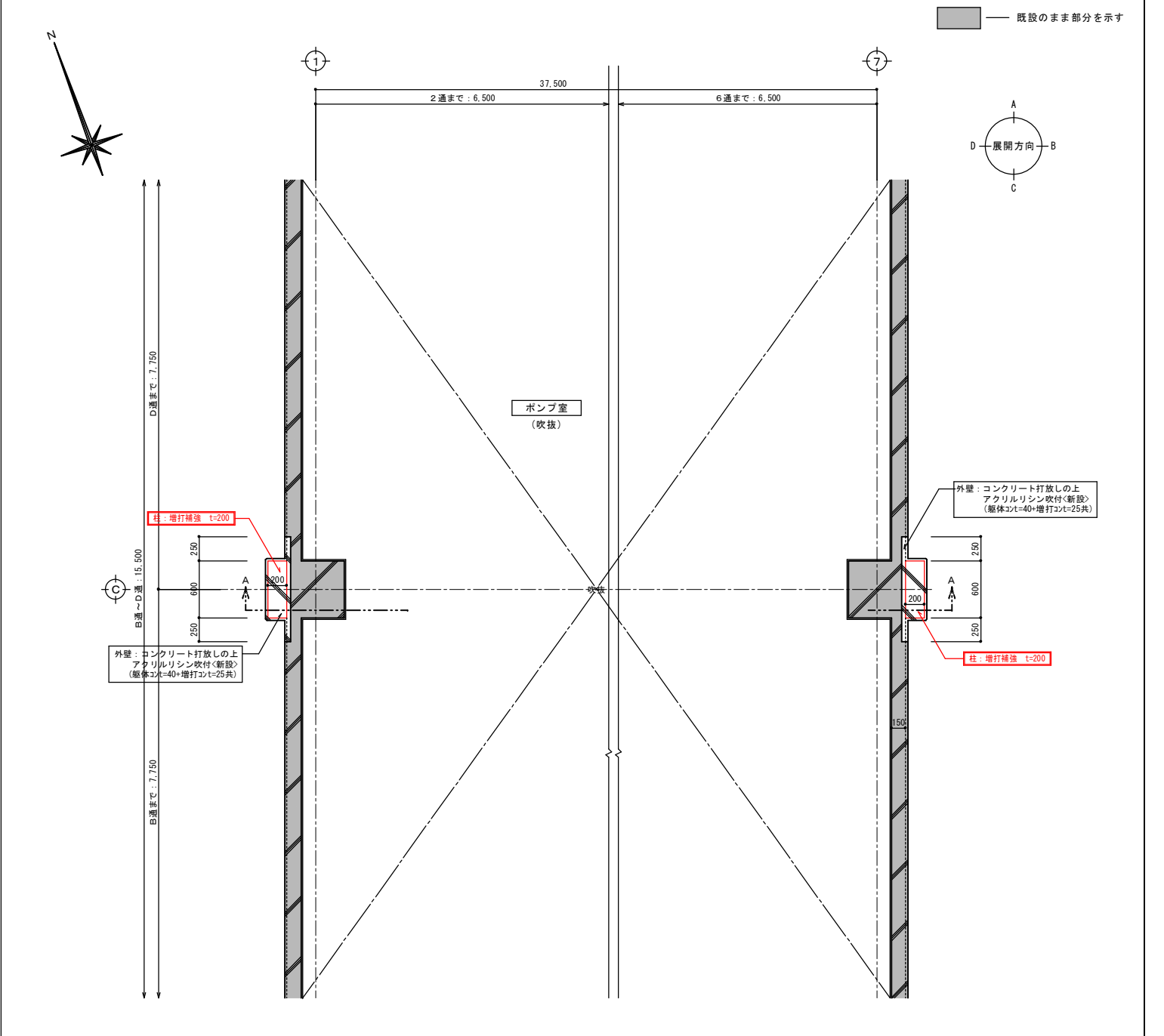
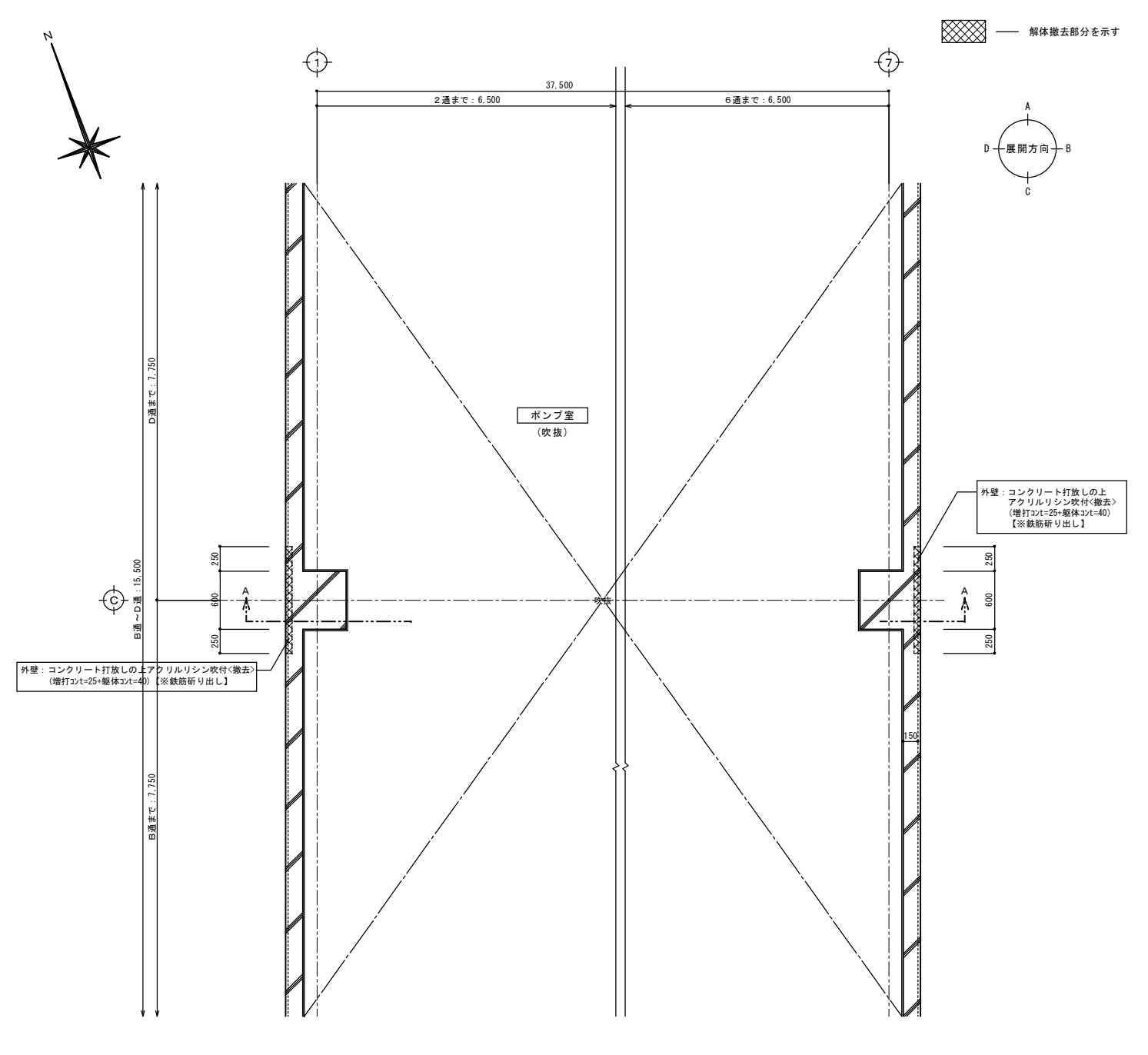
既設のまま部分を示す

現況・撤去 C-7 部分平面図詳細図 S=1/20

(外部鉄骨階段部分)

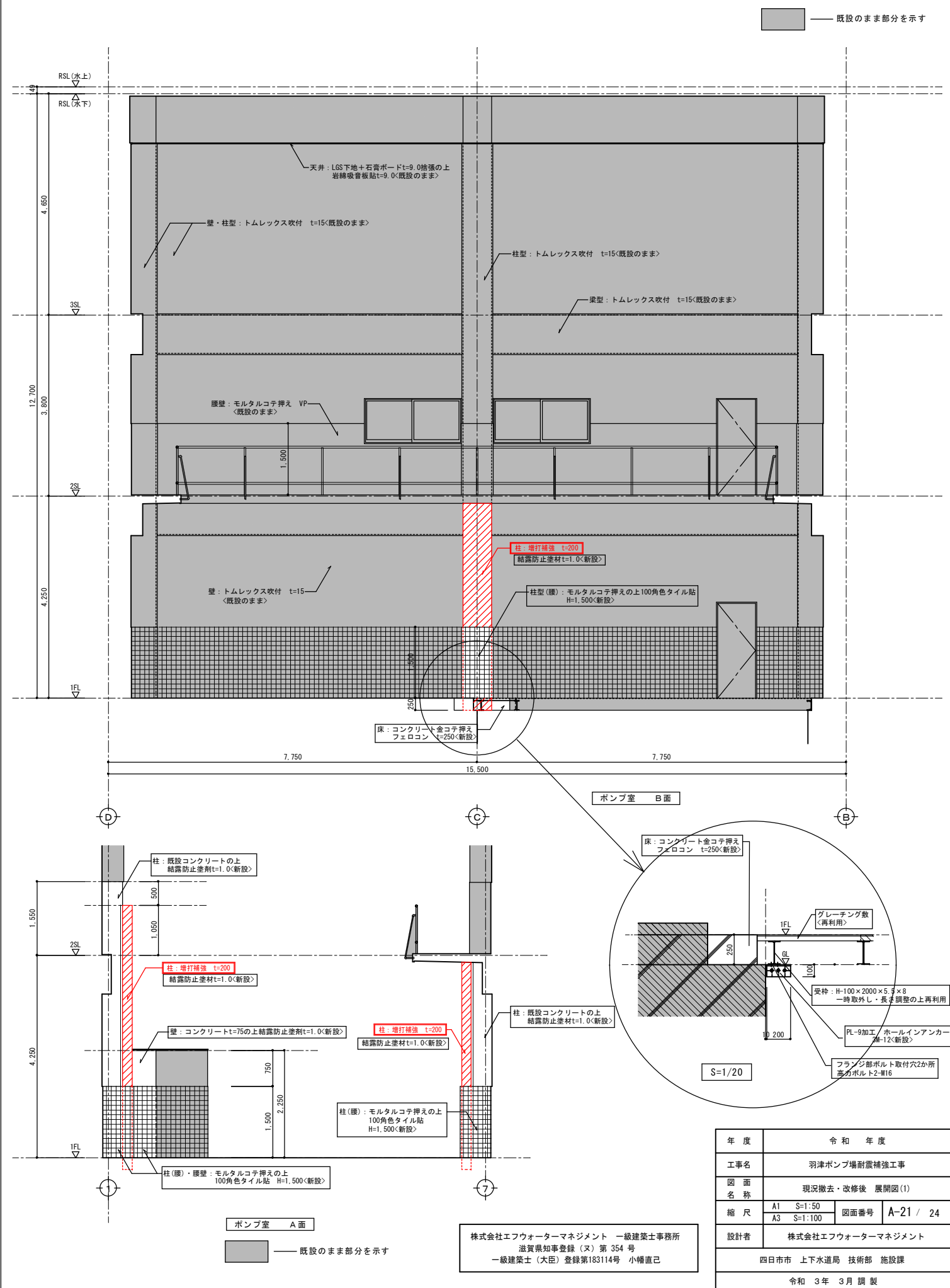
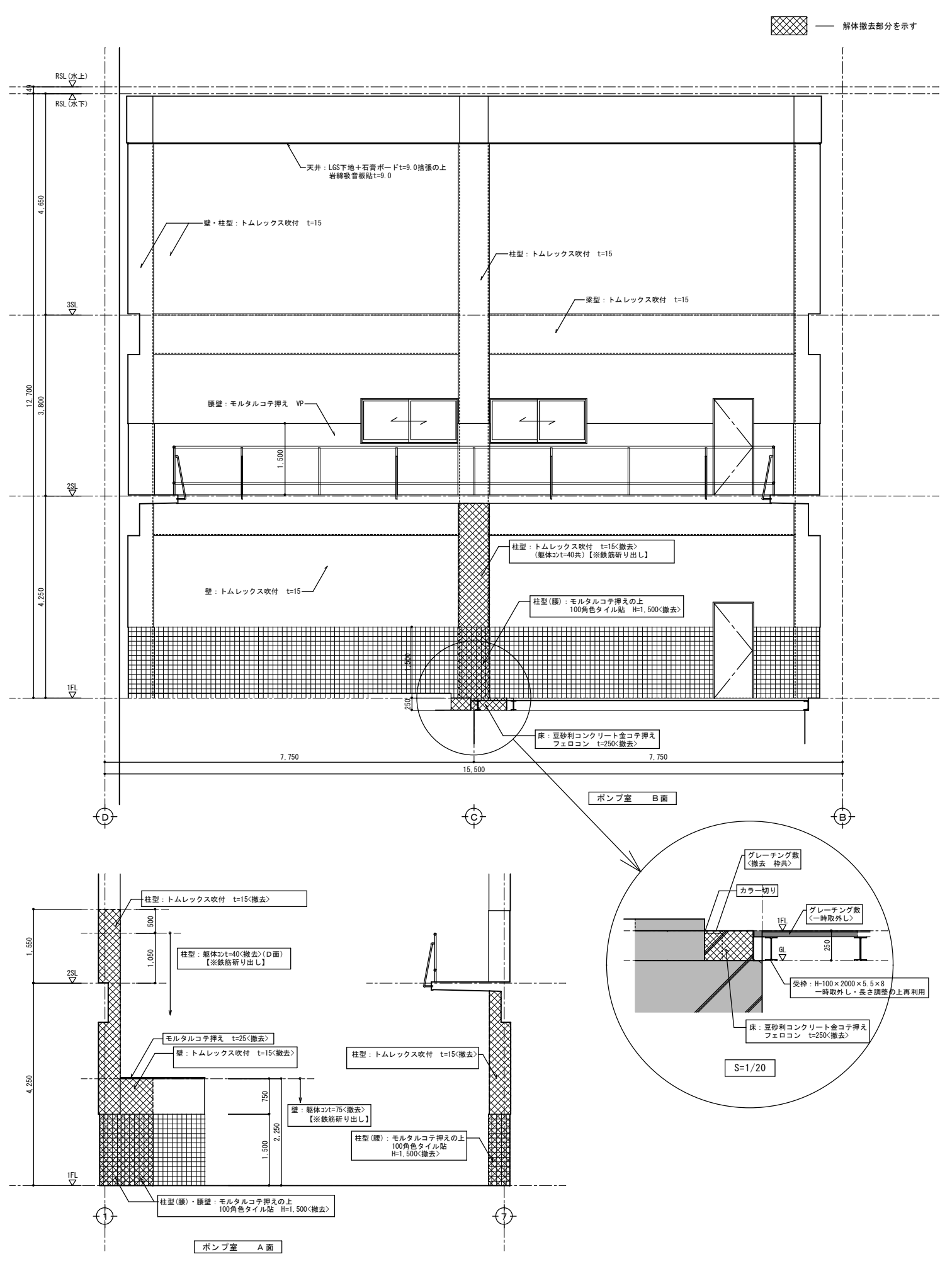
株式会社エフオーターマネジメント 一級建築士事務所  
滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|      |                        |                |
|------|------------------------|----------------|
| 年度   | 令和 年度                  |                |
| 工事名  | 羽津ポンプ場耐震補強工事           |                |
| 図面名称 | 現況撤去・改修後 2階平面詳細図       |                |
| 縮尺   | A1 S=1:30<br>A3 S=1:60 | 図面番号 A-19 / 24 |
| 設計者  | 株式会社エフオーターマネジメント       |                |
|      | 四日市市 上下水道局 技術部 施設課     |                |
|      | 令和 3年 3月 調製            |                |



|      |                                     |                |
|------|-------------------------------------|----------------|
| 年度   | 令和 年度                               |                |
| 工事名  | 羽津ポンプ場耐震補強工事                        |                |
| 図面名称 | 現況撤去・改修後 3階平面詳細図<br>現況撤去・改修後 1階天井伏図 |                |
| 縮尺   | A1 S=1:30<br>A3 S=1:60              | 図面番号 A-20 / 24 |
| 設計者  | 株式会社エフオーターマネジメント                    |                |
|      | 四日市市 上下水道局 技術部 施設課                  |                |
|      | 令和 3年 3月 調製                         |                |

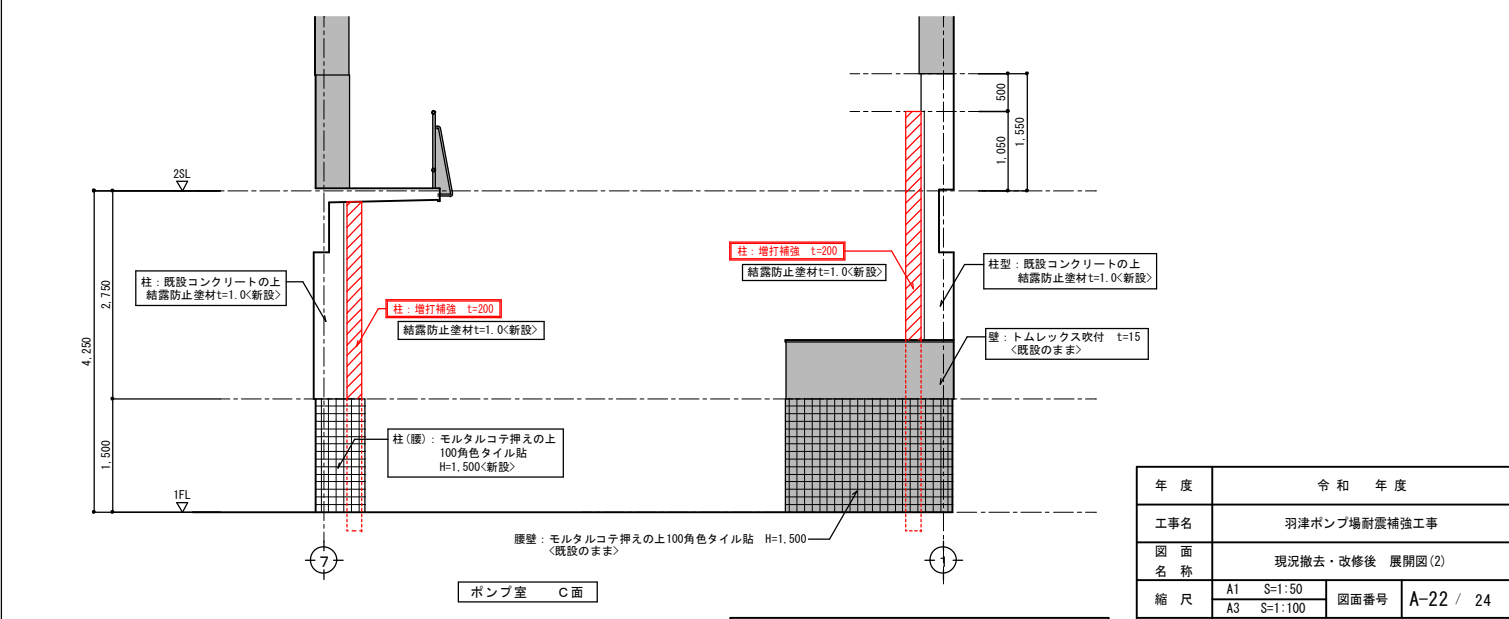
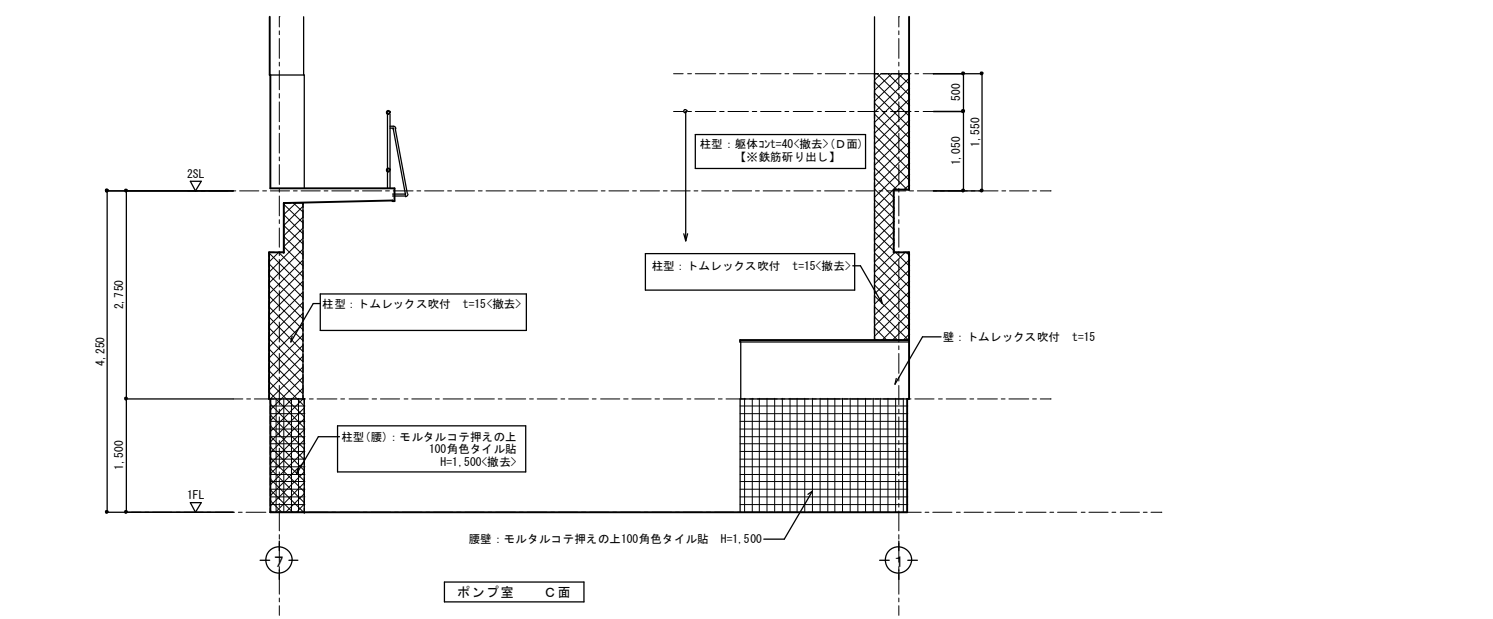
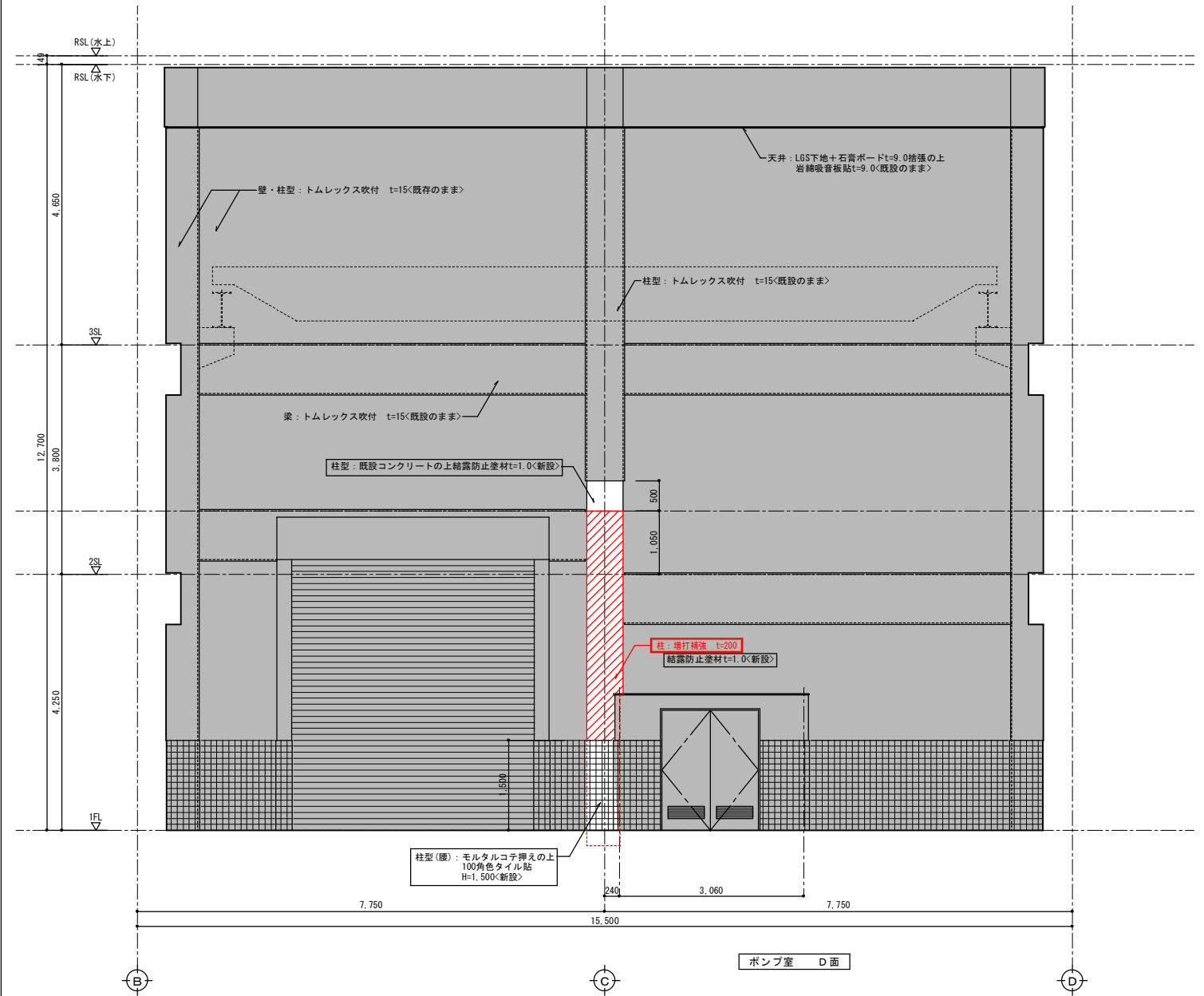
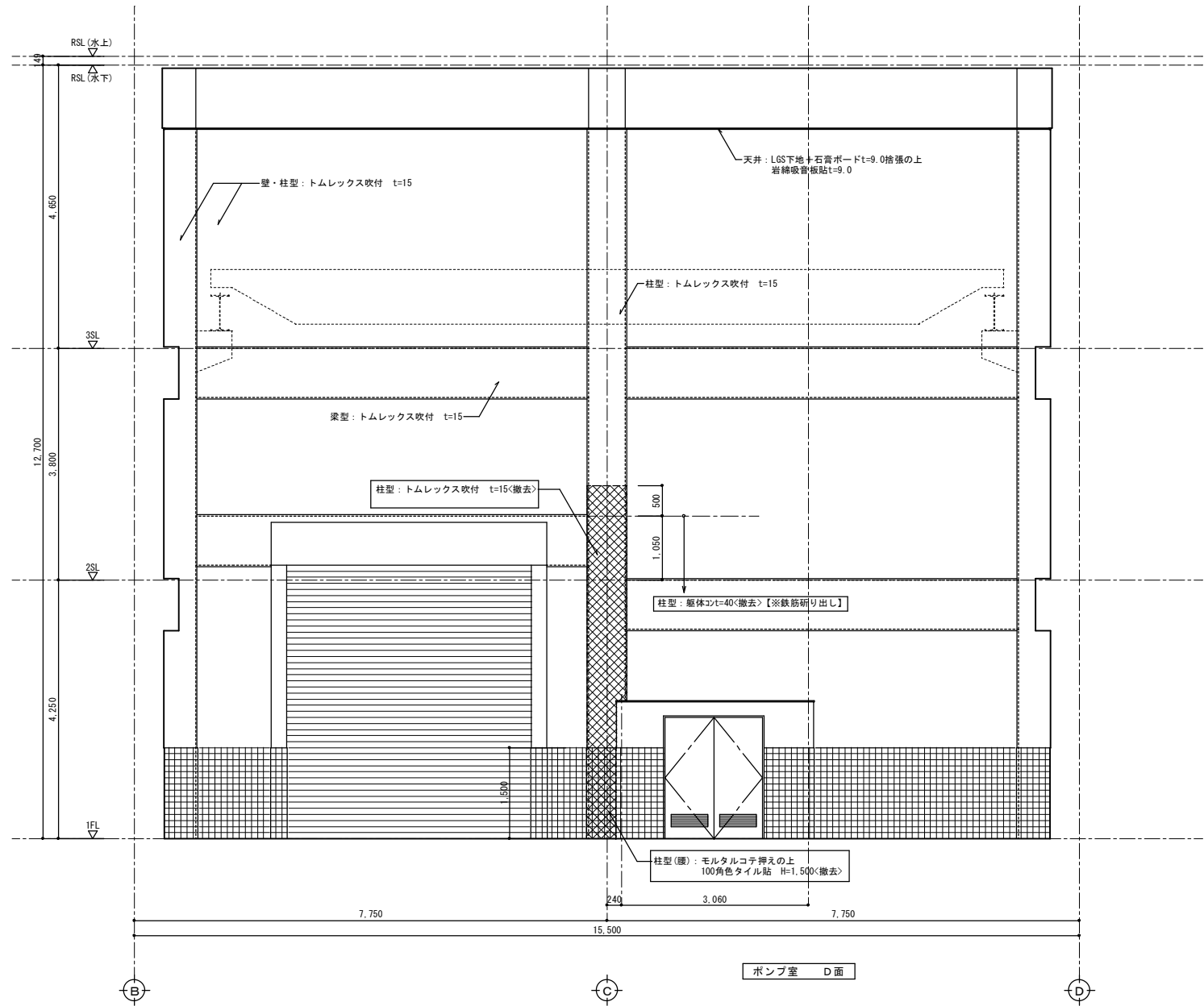
株式会社エフオーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己



|      |                         |
|------|-------------------------|
| 年度   | 令和 年度                   |
| 工事名  | 羽津ポンプ場耐震補強工事            |
| 図面名称 | 現況撤去・改修後 展開図(1)         |
| 縮尺   | A1 S=1:50<br>A3 S=1:100 |
| 設計者  | 株式会社エフオーターマネジメント        |
|      | 四日市市 上下水道局 技術部 施設課      |
|      | 令和 3年 3月 調製             |

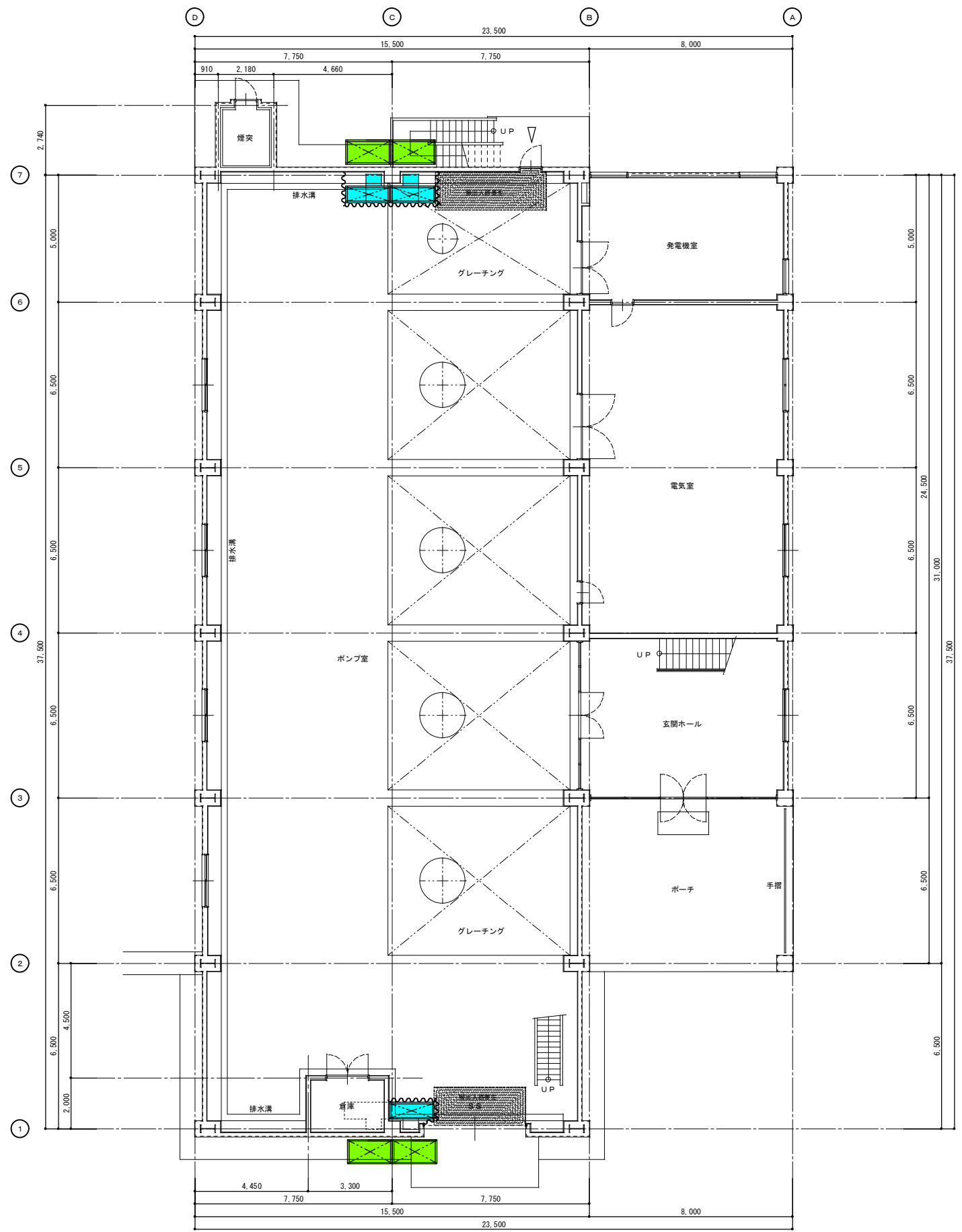
解体撤去部分を示す

既設のまま部分を示す

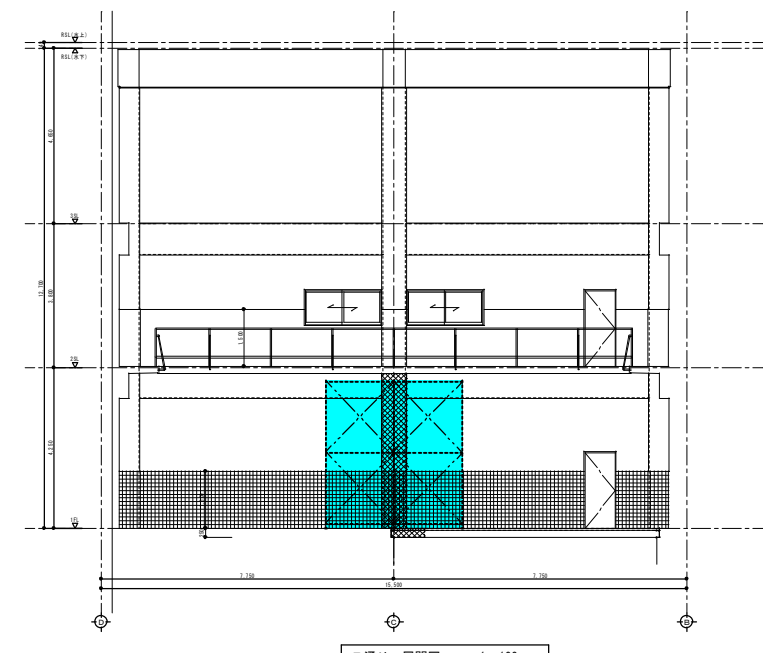


株式会社エフオーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

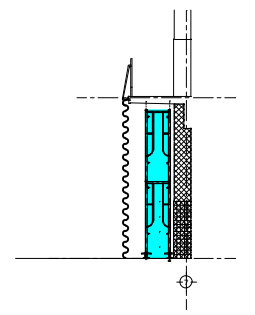
|                    |                         |                |
|--------------------|-------------------------|----------------|
| 年度                 | 令和 年度                   |                |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事            |                |
| 図面名称               | 現況撤去・改修後 展開図(2)         |                |
| 縮尺                 | A1 S=1:50<br>A3 S=1:100 | 図面番号 A-22 / 24 |
| 設計者                | 株式会社エフオーターマネジメント        |                |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                         |                |
| 令和 3年 3月 調製        |                         |                |



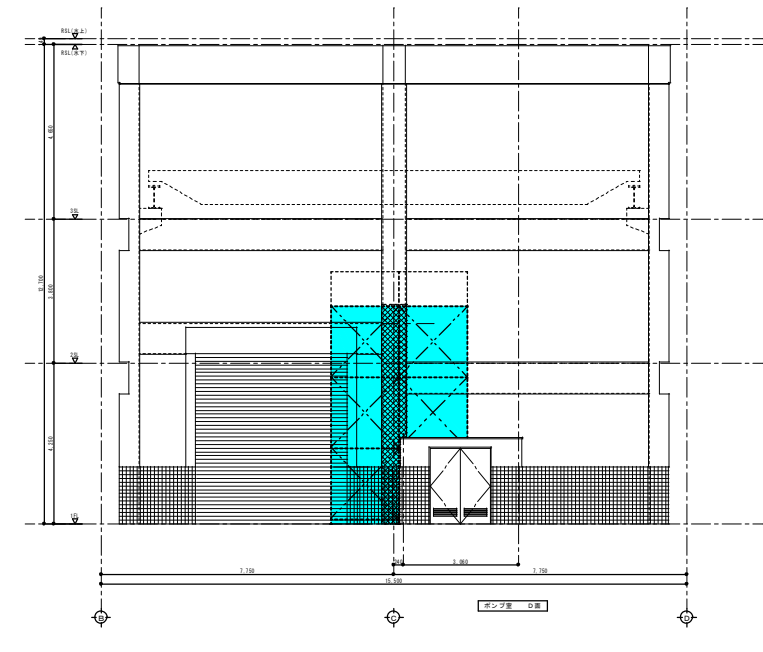
仮設計画 1階平面図 1/100



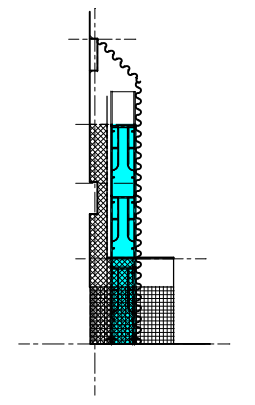
7通り 展開図 1:100



7通り 断面図 1:100





1通り 展開図 1:100



1通り 断面図 1:100

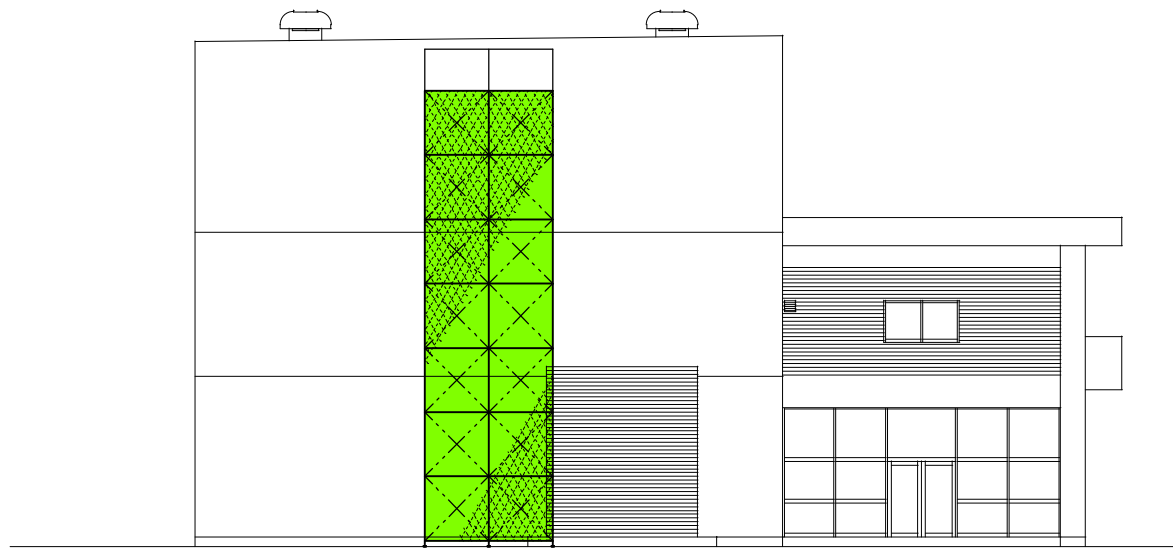
凡例

-  外部枠組本足場(手摺先行方式)建枠900
  -  内部枠組本足場(手摺先行方式)建枠600
- ※ポンプ室は、粉塵防止の為養生シート(ポリエステル製)縦横ジョイント部及びスラブ、床、壁の接する部分は粘着テープにて貼り合わせ養生を行う

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                   |      |           |
|--------------------|-------------------|------|-----------|
| 年度                 | 令和 年度             |      |           |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事      |      |           |
| 図面名称               | 仮設計画平面図・断面図(参考図)  |      |           |
| 縮尺                 | A1 S=1/100        | 図面番号 | A-23 / 24 |
|                    | A3 S=1/200        |      |           |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント |      |           |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                   |      |           |
| 令和 3年 3月 調製        |                   |      |           |

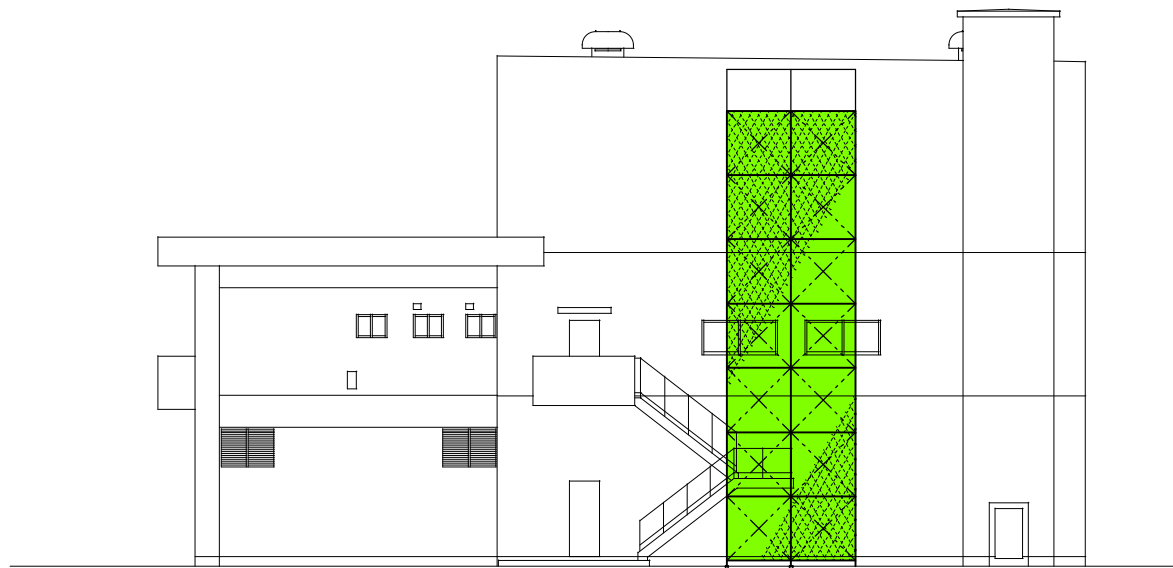




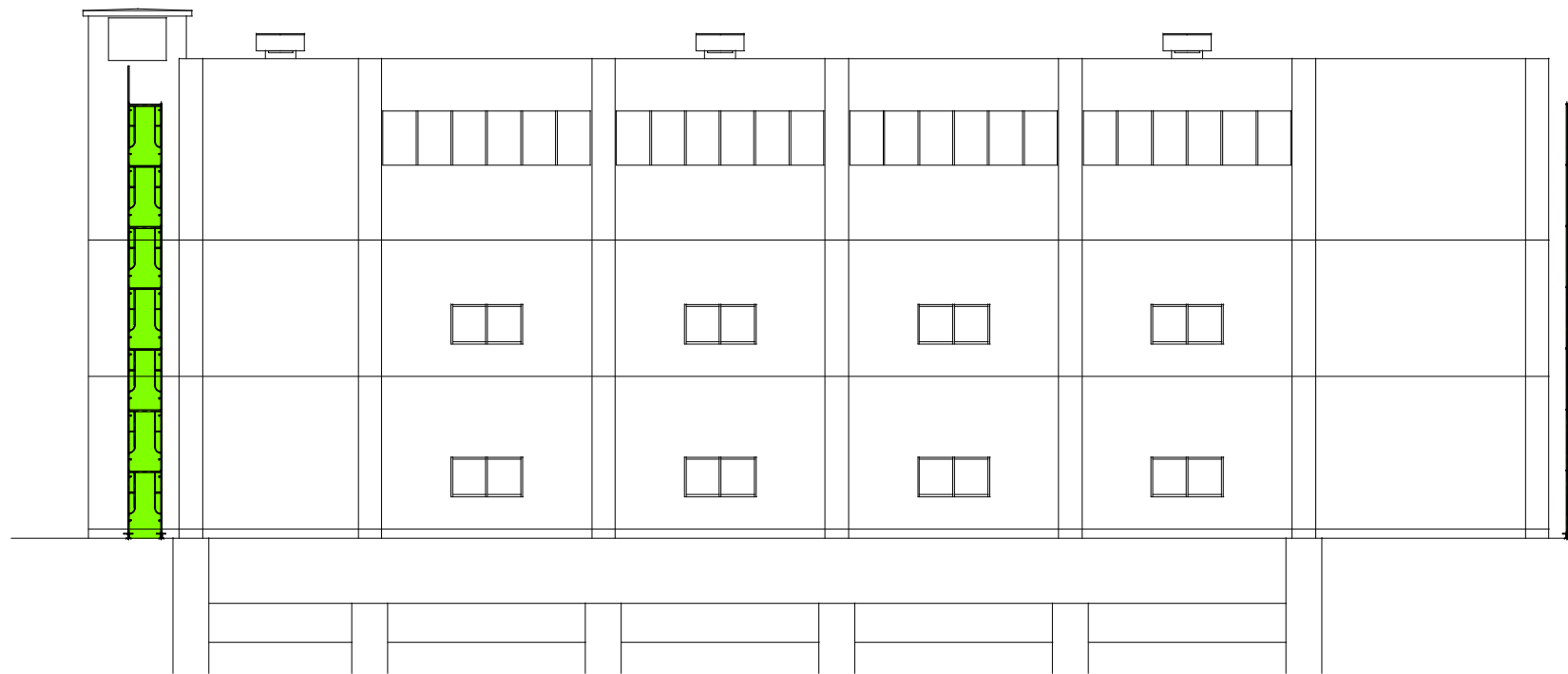
仮設計画 西立面図 1/100



仮設計画 南立面図 1/100





仮設計画 東立面図 1/100



仮設計画 北立面図 1/100

凡 例

-  外部枠組本足場(手摺先行方式)建枠900
-  内部枠組本足場(手摺先行方式)建枠600  
 ※ポンプ室は、粉塵防止の為養生シート(ポリエステル製)縦横ジョイント部及びスラブ、床、壁の接する部分は粘着テープにて貼り合わせ養生を行う

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

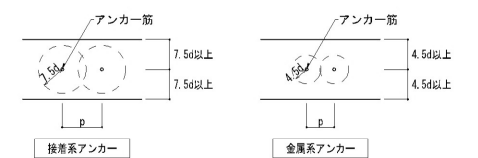
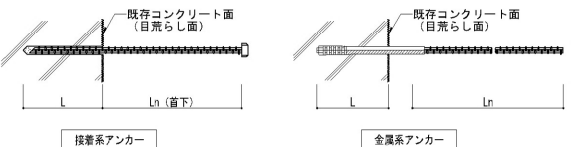
|                    |                   |      |           |
|--------------------|-------------------|------|-----------|
| 年度                 | 令和 年度             |      |           |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事      |      |           |
| 図面名称               | 仮設計画立面図(参考図)      |      |           |
| 縮尺                 | A1 S=1:100        | 図面番号 | A-24 / 24 |
|                    | A3 S=1:200        |      |           |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント |      |           |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                   |      |           |
| 令和 3年 3月 調製        |                   |      |           |

§1 一般事項

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 1-1<br>適用範囲           | 既存建物(鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造)の耐震補強に関する鉄筋工事、コンクリート工事及び鉄骨工事に適用する。   |
| 1-2<br>図面寸法           | 現況図面は参考図面とし、現地再調査のうえ現地寸法に合わせる。こと。<br>本仕様書に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。  |
| 1-3<br>使用材料           | 使用材料は原則としてJIS規格品又は大臣認定品とする。   |
| 1-4<br>施工順序           | 既存設備の配置等実測した後、工事計画書及び施工図を作成し、工事監理者の承認を得ること。   |
| 1-5<br>耐火被覆           | 鋼板補強、炭素繊維補強を行った部分は別途仕様書により耐火被覆を行う。  |
| 1-6<br>補修             | 折り部の断面欠損、耐震壁増設部のすきま、鉄筋の露出、あと施工アンカー打設不良箇所及びクラック等があれば樹脂モルタル等にて補修する。   |
| 1-7<br>打設面の処理         | 耐震壁を増設する部分等に接する既設部分は目荒らし(深さ5mm程度を目安とする)を行い、研り粉、粉塵などはワイヤブラシ又は水洗いにより完全に除去する。  |
| 1-8<br>コンクリート打設時の注意事項 | 既設部分と接する箇所はコンクリート打設前に十分な水濯を行う。<br>コンクリート打設にはバイブレーターの使用、又はタタキにより密実にコンクリートを締め固める。<br>床下の耐震壁等は梁下200~300程度までコンクリートを打設し、壁頂部は無収縮モルタル圧入とする。  |
| 1-9<br>参考図書           | 以下の参考図書は現場に常備すると共に十分理解し適用すること。<br>(財)日本建築防災協会<br>改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針解説<br>改訂版 既存鉄筋鉄骨コンクリート造建築物の耐震改修設計指針解説<br>改訂版 既存鉄骨造建築物の耐震改修設計施工マニュアル<br>(財)建築保全センター<br>建築改修工事標準仕様書<br>建築改修工事監理指針 |
| 1-10<br>その他           | 各種工程における検査等の費用は工事者の負担とする。<br>鉄骨ブレース接合工法の場合は、(財)日本建築防災協会技術評価書補防災発第1279号に基づく『鉄骨ブレース接合工法設計施工指針』による。  |

§2 使用材料 (選択項目は○印による。)

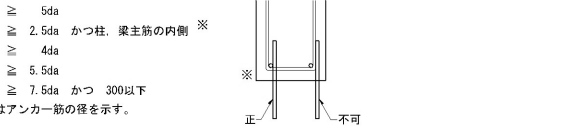
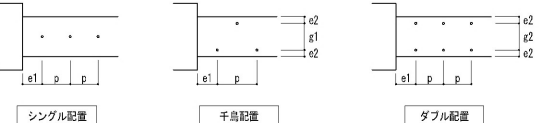
| 2-1<br>コンクリート   | 設計基準強度 ○ Fc 21 N/mm <sup>2</sup> ・ Fc N/mm <sup>2</sup><br>セメント ○ 普通ポルトランドセメント<br>粗骨材 ○ 砂利 ・ 砕石 最大径(mm) ○ 20 ・ 25<br>湿和剤 ○ A E減水剤 ・ 高性能A E減水剤 ・ 膨張材<br>スラブ厚(cm) ○ 18 cm<br>水セメント比(%) ○ 65 %以下<br>単位水量(kg/m <sup>3</sup> ) ○ 185 kg/m <sup>3</sup> 以下<br>圧縮強度試験(各工程につき) J A S S 5 「品質管理・検査」に準じる。試験は公的機関によって行う。  |    |        |       |    |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |
|-----------------|--|----|--------|-------|----|-----|----|---|---------|----|----|-------|--|---|-----|----|----|-----|--|---|-----|----|----|-----|--|---|-----|----|--------|-----|--|---|-----|----|--------|-----|--|
| 2-2<br>無収縮モルタル  | 無収縮モルタルは原則としてプレミックスタイプを使用する。<br>設計基準強度 Fc 30 N/mm <sup>2</sup> (既存躯体同等程度)以上とする。<br>圧縮強度試験(各工程につき) J I S 1 1 0 8 とし、公的機関によって行う。   |    |        |       |    |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |
| 2-3<br>鉄筋       | D 16 以下 SD295A<br>D 19 以上 SD345  |    |        |       |    |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |
| 2-4<br>スパイラル筋   | ・ SS400 ・ SR235 ・ SD295A<br><table border="1"> <tr> <th>適用</th> <th>壁厚</th> <th>径</th> <th>外径</th> <th>ピッチ</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>120~150</td> <td>6φ</td> <td>D6</td> <td>60~80</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>180</td> <td>6φ</td> <td>D6</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>200</td> <td>6φ</td> <td>D6</td> <td>120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>250</td> <td>6φ</td> <td>D6 D10</td> <td>150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>300</td> <td>6φ</td> <td>D6 D10</td> <td>200</td> <td></td> </tr> </table> | 適用 | 壁厚     | 径     | 外径 | ピッチ | 備考 | ・ | 120~150 | 6φ | D6 | 60~80 |  | ・ | 180 | 6φ | D6 | 100 |  | ・ | 200 | 6φ | D6 | 120 |  | ・ | 250 | 6φ | D6 D10 | 150 |  | ・ | 300 | 6φ | D6 D10 | 200 |  |
| 適用              | 壁厚   | 径  | 外径     | ピッチ   | 備考 |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |
| ・               | 120~150  | 6φ | D6     | 60~80 |    |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |
| ・               | 180  | 6φ | D6     | 100   |    |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |
| ・               | 200  | 6φ | D6     | 120   |    |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |
| ・               | 250  | 6φ | D6 D10 | 150   |    |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |
| ・               | 300  | 6φ | D6 D10 | 200   |    |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |
| 2-5<br>あと施工アンカー | あと施工アンカーの施工は工事内容に相応した施工管理技術者及び十分な経験と技能を有する技術者により実施する。<br>アンカーの設置に先立って鉄筋検査を行い、既存鉄筋が干渉しない位置で穴開けを行う、また孔内のコンクリート粉塵を圧搾空気などにより、完全に除去した後に取り付ける。<br>・ 接着系アンカー カプセル型の有機系又は無機系のものとしメーカーによりアンカー筋の母材強度が保証されたもの。本体はSD295A、SD345としナット付きとする。<br>・ 金属系アンカー 拡張部打込み型のものとしメーカーによりアンカー筋の母材強度が保証されたもの。本体はJISG3101、3123、3445、4805の規格品とする。<br>接合部はSD295A、SD345とする。<br>定着作業の終了したアンカー筋は24時間以上衝撃等与えない様に養生する。   |    |        |       |    |     |    |   |         |    |    |       |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |    |     |  |   |     |    |        |     |  |   |     |    |        |     |  |



| 接着系アンカー筋径 | Ln (20d) | L (8d) (アンカー埋込み長さ) | ピッチ | ※設計用引張強度(参考) kN/本 |       |       |
|-----------|----------|--------------------|-----|-------------------|-------|-------|
|           |          |                    |     | Fc=15             | Fc=18 | Fc=21 |
| ・ D13     | 260      | 110以上              | 100 | 17                | 19    | 20    |
|           |          |                    | 150 | 24                | 26    | 28    |
| ・ D16     | 320      | 130以上              | 150 | 31                | 34    | 36    |
|           |          |                    | 200 | 38                | 42    | 45    |
| ・ D19     | 380      | 160以上              | 150 | 37                | 41    | 44    |
|           |          |                    | 200 | 47                | 52    | 56    |
| ・ D22     | 440      | 180以上              | 200 | 56                | 62    | 67    |
|           |          |                    | 250 | 67                | 74    | 80    |

| 金属系アンカー径 | 径φ       | Ln (30d) | L (5d) (アンカー埋込み長さ) | ピッチ   | ※設計用引張強度(参考) kN/本 |       |       |
|----------|----------|----------|--------------------|-------|-------------------|-------|-------|
|          |          |          |                    |       | Fc=15             | Fc=18 | Fc=21 |
| ・ 13φ    | D10      | 390      | 65以上               | 100   | 9                 | 10    | 11    |
| ・ 16φ    | D10, D13 | 480      | 80以上               | 150以上 | 10                | 11    | 12    |
| ・ 19φ    | D13      | 570      | 95以上               | 150   | 20                | 22    | 23    |
| ・ 22φ    | D16      | 660      | 110以上              | 200以上 | 21                | 23    | 25    |

※ コーン状破壊による引抜き耐力とする。



アンカー固着力試験  
アンカーの固着力の検査は、全数を打音検査する。またあと施工アンカー協会(JCAA)の試験方法により1日に施工されたものの各径毎を1ロットとしこの中から3本以上引張試験を行う。引張試験は非破壊試験により、設計引張強度の2/3程度以上の荷重に対してアンカーが抜け出す等の過大な変形が生じなければ合格とする。検査のうち1本でも不合格のものがある場合は、全数の20%以上を再試験し、さらにその中に不合格のものがあれば全数を試験する。不合格となったものは新たに施工し直すことを原則とする。打音検査は上記引張試験に合格となったアンカーを叩いて、音及び感觸をつかみこれと比較して検査する。

接着系アンカーの埋込み長さの測定(超音波パルス反射法による)  
○ する ・ しない  
する場合原則全数測定とする。減じる場合は特記する。

| 規格名称      | 鋼材名       | 柱         | ダイア | 大梁 | アレス | 小梁 | 他 |
|-----------|-----------|-----------|-----|----|-----|----|---|
| 一般構造用圧延鋼材 | ・ SS400   | ・         |     |    |     |    |   |
| 溶接構造用圧延鋼材 | ・ SM400A  | ・ SM490A  |     |    |     |    |   |
| 建築構造用圧延鋼材 | ・ SN400A  |           |     |    |     |    |   |
|           | ・ SN400B  | ・ SN490B  |     |    |     |    |   |
|           | ・ SN400C  | ・ SN490C  |     |    |     |    |   |
| 一般構造用角形鋼管 | ・ STKR400 | ・ STKR490 |     |    |     |    |   |
| 冷間成型角形鋼管  | ・ BGR295  |           |     |    |     |    |   |
|           | ・ BCP235  | ・ BCP325  |     |    |     |    |   |
| 熱間成型角形鋼管  | ・ SHG400B | ・ SHG400C |     |    |     |    |   |
| 一般構造用炭素鋼管 | ・ STK400  | ・ STK490  |     |    |     |    |   |
| 一般構造用軽量鋼  | ・ SSC400  | ・         |     |    |     |    |   |

炭素繊維補強の工法は国土交通省告示、又は日本建築センターの認定工法、日本建築防災協会の技術評価を受けた工法とする。  
高強度炭素繊維  
引張強度 ・ 3400N/mm<sup>2</sup>以上 ・ 2700N/mm<sup>2</sup>以上  
繊維重量 ・ 200g/m<sup>2</sup> ・ 300g/m<sup>2</sup>  
材料巾 ・ 250 ・  
巻数 ・ 1層 ・ 層

3-1  
標準仕様

3-2  
改修箇所  
○印で示す

§3 鉄骨造補強

(社)日本鋼構造協会・(財)日本建築防災協会編による既存鉄骨造建築物の耐震改修施工マニュアル(改訂版)及び(社)日本建築学会JASS6による。

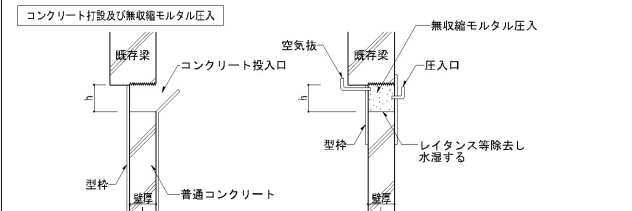
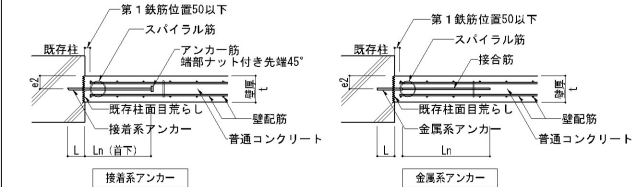
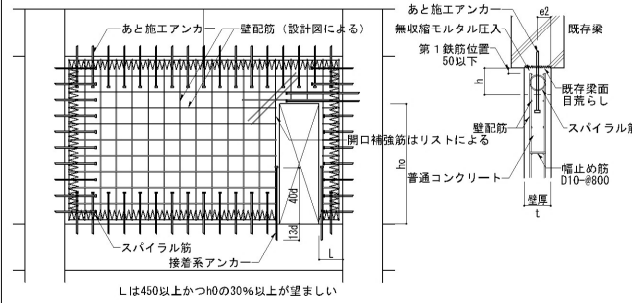
- 1) 梁橋全体の改修
  - 1-1 軸組構面の改修
    - 筋かいの新設
    - 耐震壁柱の新設
    - 耐震フレームの設置
    - 柱・梁接合部の方杖補強
  - 1-2 水平構面の改修
    - 水平筋かいの新設
    - 火打ちの新設
- 2) 部材断面の改修
  - 2-1 柱の耐力増大
    - コンクリートによる補強
    - 日字形断面柱の補強
    - カバープレート、形鋼による補強
  - 2-2 梁の耐力増大
    - 梁フランジ溶接部の補強
    - 梁ウェブの補強
    - 梁フランジの補強
  - 2-3 トラス梁の耐力増大
    - 部材断面の増大
    - トラス構面の内座屈の補剛
    - トラス構面の外座屈の補剛
    - トラス増強仕口補強
  - 2-4 筋かいの耐力増大
    - 引張筋かいの部材交換
    - ボルト接合部の補強
    - 圧縮筋かいの部材交換
    - ガセットプレートの補強
- 3) 柱脚の改修
  - 3-1 鋼板巻きによる補強
  - 隅角部柱脚の補強
  - 中央部柱脚の補強
  - 3-2 RC梁巻による補強
  - 接着系アンカーによる補強
  - 既存主筋と接合する補強
  - 3-3 RC柱とS梁の接合部補強
  - アンカーボルトの増設
  - アンカーボルトのはしき補強
  - 貫通ボルトによる補強
  - 4) 柱頭の改修
    - RC柱頂部のS柱・梁接合部の補強
    - RC柱頂部とS梁の接合部の補強

3-3  
現場作業要領

- 1) 前処理  
補強する部位は塗料、コンクリート、耐火被覆、その他の異物を除去する。
- 2) 高力ボルト接合  
高力ボルトは高力六角ボルトまたはトルシア形高力ボルトとする。  
孔空けは電気ドリルを原則とするが、やむをえずガス加工による場合はリーマ通しを行う。  
座端面の処理は、グラインダー掛けを原則とし、さび発生状態を標準とする。
- 3) 溶接接合  
溶接方法は被覆アーク溶接及びガスシールドアーク溶接とする。  
完全溶込溶接の端部はエンドタブを使用し、すみ肉溶接の端部は回し溶接を行う。  
溶接と高力ボルト接合が併用される場合は高力ボルト接合を先行する。
- 4) 接合部の調査  
高力ボルトの検査はJASS6 6節による。  
溶接部の検査は完全溶込溶接は全数を超音波探傷試験をする。  
すみ肉溶接および部分溶込溶接は全数目視検査とする。

§4 壁補強要領

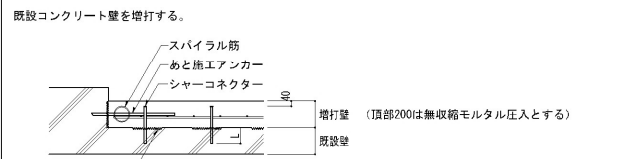
4-1 増設壁



| 壁厚      | h   |
|---------|-----|
| t ≤ 300 | 200 |
| t > 300 | 300 |

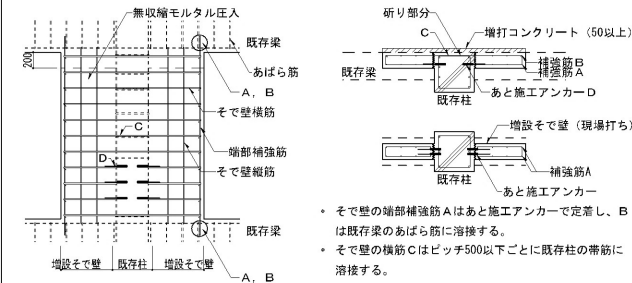
無収縮モルタル圧入要領

4-2 増打壁

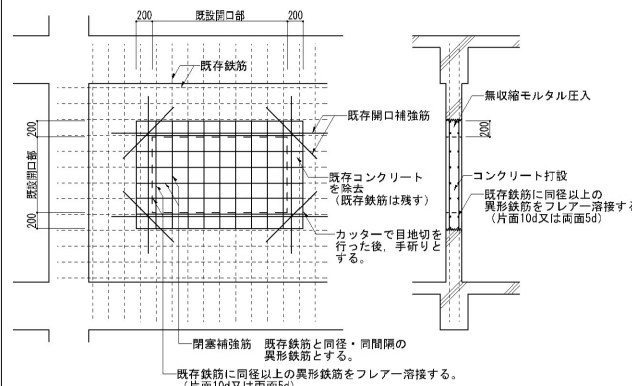


| 接合系アンカー | シャココネクター    | 定着長さL    |
|---------|-------------|----------|
| 接合系アンカー | D13-φ500クロス | 110 (80) |
| 金属系アンカー | 13φ-φ500クロス | 65       |

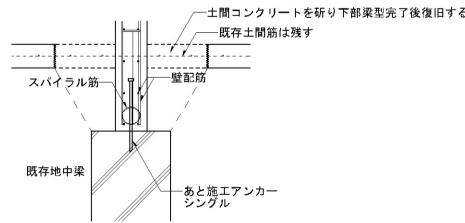
4-3 そで壁増設



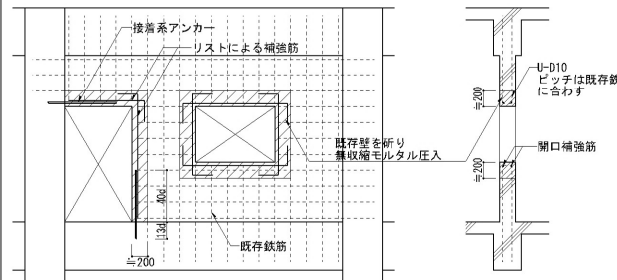
4-4 開口部の閉塞



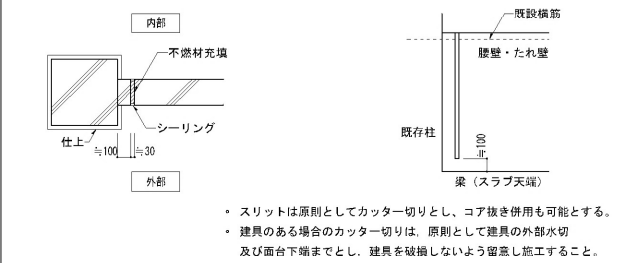
4-5 地中梁上に新設壁を設ける



4-6 既存壁開口新設(耐震壁を除く)



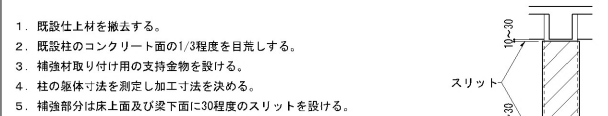
4-7 スリット増設



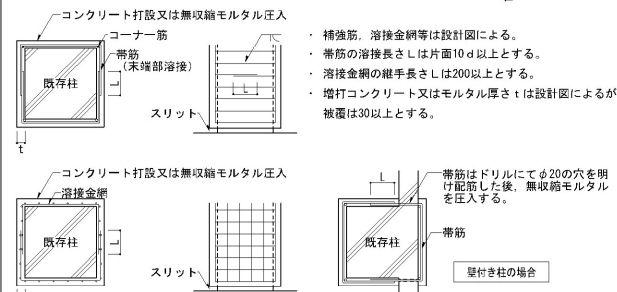
- スリットは原則としてカッター切りとし、コア抜き併用も可とする。
- 建具のある場合のカッター切りは、原則として建具の外部水切及び台面下端までとし、建具を破壊しないよう留意し施工すること。

§5 柱補強工事要領

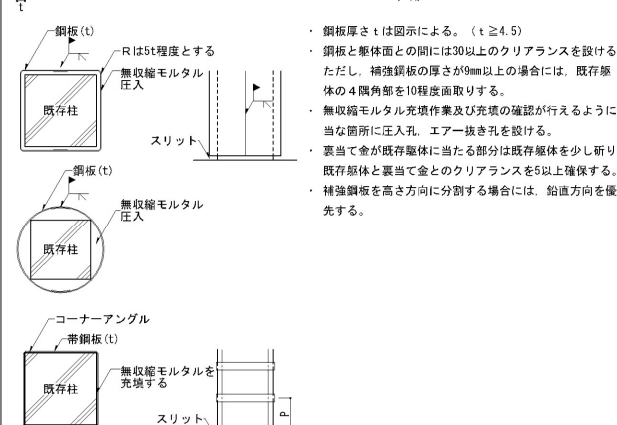
5-1 共通事項(炭素繊維補強は除く)



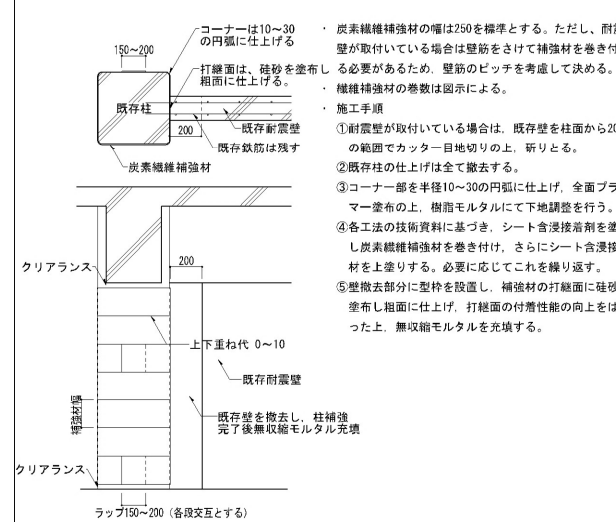
5-2 帯筋補強溶接金網補強



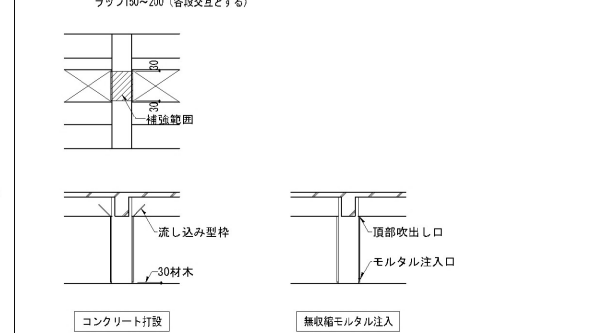
5-3 鋼板補強



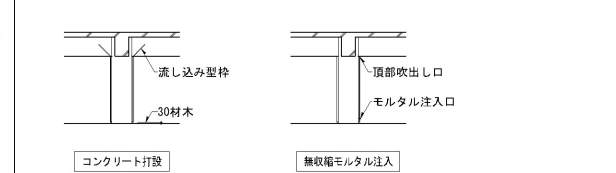
5-4 炭素繊維補強



5-5 腰壁、たれ壁補強範囲

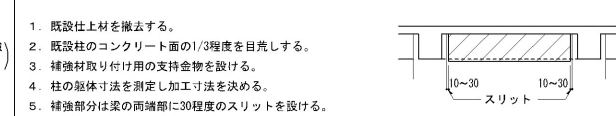


5-6 コンクリート打設無収縮モルタル注入法

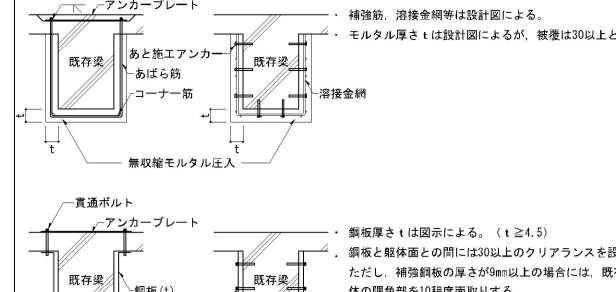


§6 梁補強工事要領

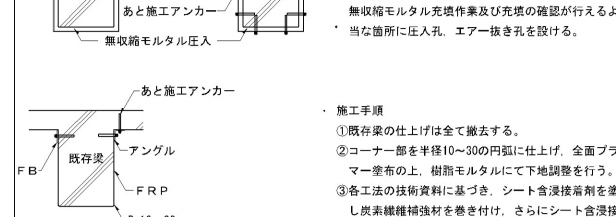
6-1 共通事項(炭素繊維補強は除く)



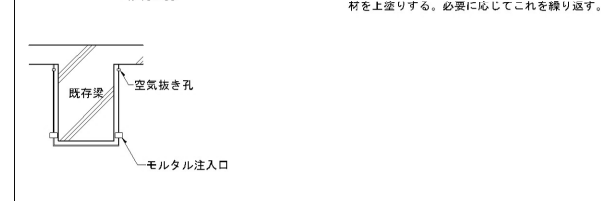
6-2 あばら筋補強溶接金網補強



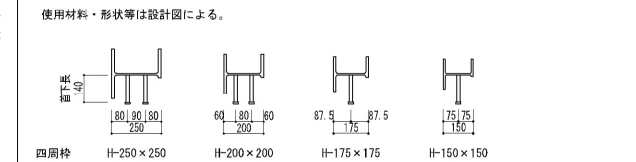
6-3 鋼板補強



6-4 炭素繊維補強

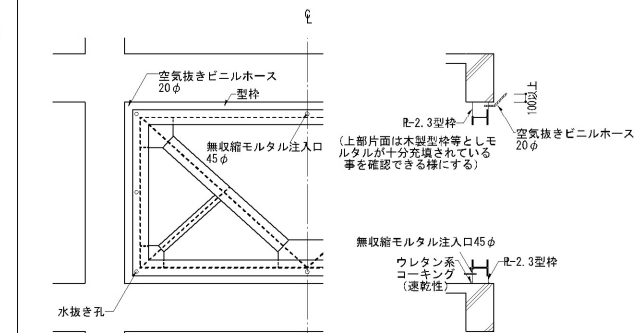


§7 鉄骨ブレース補強要領

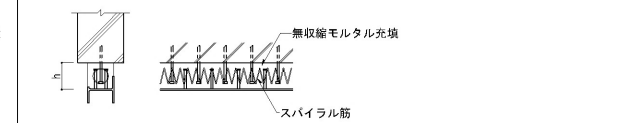


| アンカー筋  | H-250×250 | H-200×200 | H-175×175 | H-150×150 |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| アンカー筋  |           |           |           |           |
| 引付スタッド |           |           |           |           |

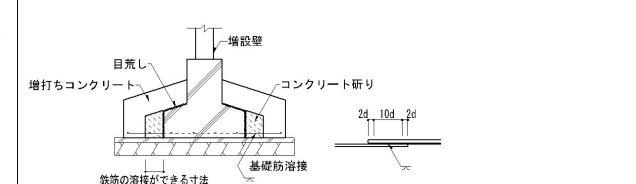
アンカー筋引付スタッド  
引付スタッドの位置はあと施工アンカー(先行して打設する)と干渉しない様な位置を決めて打設する。  
hはアンカー径、スタッド径を考慮して決定する。



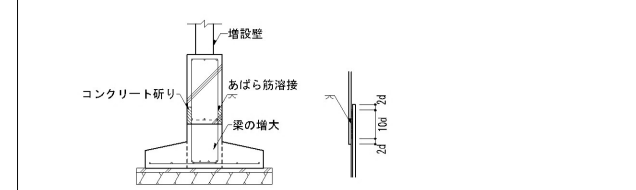
7-5 割製補強



§8 基礎の補強



8-2 基礎の増設



# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) 2019年度版

## 1-1 基本事項

### §1 一般事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。  
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2015)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

## 1-2 その他

## 2-1 鉄筋の表示記号

### §2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

| 記号    | ●   | ○   | ⊙   | ⊗   | ⊕   | ⊖   | ⊗   | ⊕   | ⊖   | ⊗   | ⊕   | ⊖   |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 呼び径 d | D10 | D13 | D16 | D19 | D22 | D25 | D29 | D32 | D35 | D38 | D41 | D45 |
| 最外径 D | 11  | 14  | 18  | 21  | 25  | 28  | 33  | 36  | 40  | 43  | 46  | 50  |

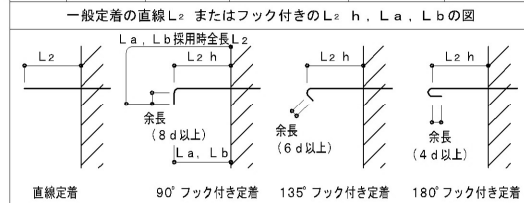
- ・フックのない場合
- ・フックのある場合
- ・本数に差がある場合
- ・機械式継手表示
- ・ガス圧接、溶接継手表示

## 2-2 鉄筋の折り曲げ

| 曲げ角度 | 図 | 鉄筋の使用箇所        | 鉄筋の種類          | 鉄筋の径による区分 | 鉄筋の折り曲げ内法直径(D) |
|------|---|----------------|----------------|-----------|----------------|
| 180° |   | 柱・梁主筋<br>基礎主筋  | SD295          | D16以下     | 3d以上           |
| 135° |   | あばら筋<br>スパイラル筋 | SD345<br>SD390 | D19~D41   | 4d以上           |
| 90°  |   | スラブ筋<br>壁筋     | SD490          | D25以下     | 5d以上           |
|      |   |                |                | D29~D41   | 6d以上           |

## 2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ「JASS5(2015)」に準拠

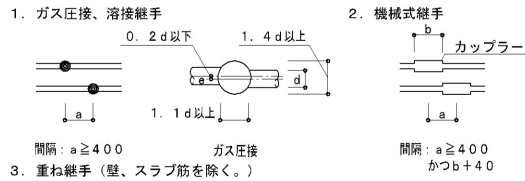
| 鉄筋の種類                          | コンクリートの設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> ) | 重ね継手の長さ              | 定着の長さ                |  |
|--------------------------------|-----------------------------------|----------------------|----------------------|--|
|                                |                                   |                      | 一般                   | 小梁・床スラブ  |
| SD295<br>SD345<br>( )はSD345を示す | 18                                | 45d(50d)             | 40d<br>30d           | 15d<br>(20d)                                       |
|                                |                                   | 21                   | 40d(45d)<br>30d      | 20d<br>15d(20d)                                    |
|                                | 24~27                             | 35d(40d)<br>25d(30d) | 30d(35d)<br>20d(25d) | 15d<br>L <sub>s</sub> =20d<br>L <sub>s</sub> h=10d |
|                                |                                   | 30~36                | 35d<br>25d           | 15d  |
| SD390<br>(-)は適用外               | 39~45                             | 30d(35d)<br>20d(25d) | 25d(30d)<br>15d(20d) | 15d<br>床スラブの場合<br>L <sub>s</sub> =10d              |
|                                |                                   | 48~60                | 30d<br>20d           | 15d<br>かつ<br>150以上                                 |
|                                | 21                                | 50d(+)<br>35d(-)     | 40d(+)<br>30d(-)     | 20d<br>(-)   |
|                                |                                   | 24~27                | 45d(55d)<br>35d(45d) | 40d(45d)<br>30d(35d)                               |
| SD490<br>(-)は適用外               | 30~36                             | 40d(50d)<br>30d(35d) | 35d(40d)<br>25d(30d) | 15d<br>(-)   |
|                                | 39~45                             | 40d(45d)<br>30d(35d) | 35d(40d)<br>25d(30d) | 15d<br>(-)   |
|                                | 48~60                             | 35d(40d)<br>25d(30d) | 30d(35d)<br>20d(25d) | 15d<br>(-)   |



1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL<sub>2</sub>は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、上記の数値に5dを加算する。

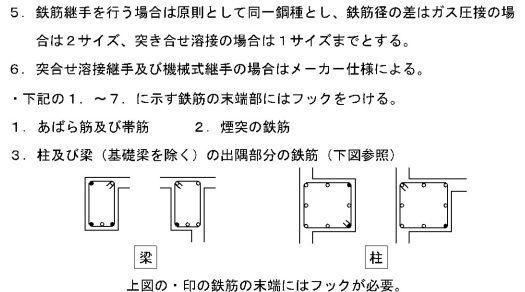
## 2-4 継手一般

3. 構造特記仕様書2-2で政令第73条とした場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは左下表L<sub>1</sub>かつ40d(軽量コンクリートを使用する場合は50d)とする。
4. 構造特記仕様書2-2でJASS5(2015)、RC規程2010とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは設計者の指示による。参考値として左下表JASS5(2015)にL<sub>1</sub>、L<sub>2</sub>を示す。



## 2-5 鉄筋のフック

4. D35以上の鉄筋は重ね継手は用いない。(ガス圧接、機械式継手等による)
5. 鉄筋継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズまでとする。
6. 突き合せ溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。
7. 下記の1.~7.に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。



## 2-6 鉄筋のあき

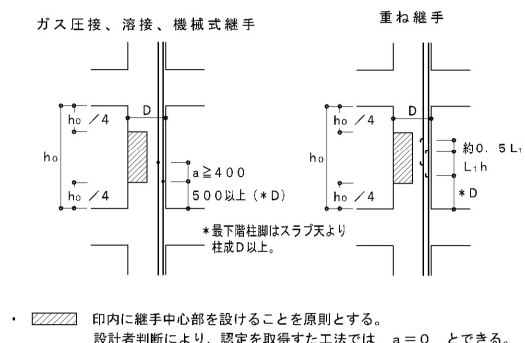
4. 片持ちスラブの上端筋の先端
  5. 最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋
  6. 杭基礎の基礎筋(偏心基礎及び杭2本打以上の場合)
  7. 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋
- 鉄筋のあきaは原則として下記による。
- 呼び名の数値dの1.5倍以上
  - 組素材の最大寸法の1.25倍以上
  - かつ25以上
  - 鉄筋径が異なる場合は大きい方による。
  - 二筋筋にあきは1.5dとする。

## 2-7 かぶり厚さ

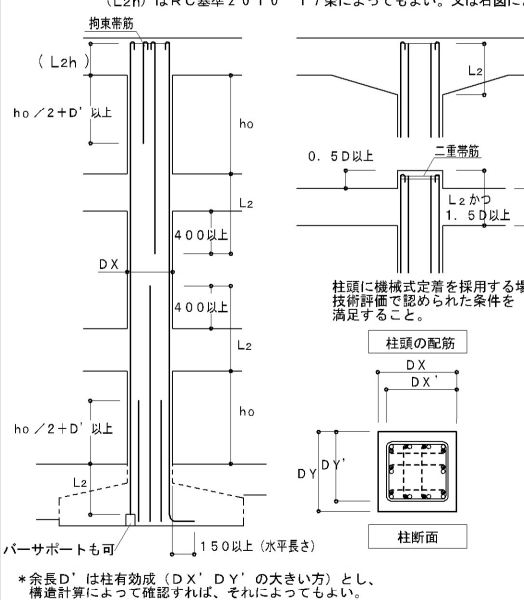
| 部位       | かぶり厚さ                 |        |        |
|----------|-----------------------|--------|--------|
|          | 仕上げあり                 | 仕上げなし  |        |
| 土に接しない部分 | 屋根スラブ<br>床スラブ<br>非耐力壁 | 30(20) | 30(20) |
|          | 柱<br>耐力壁              | 40(30) | 40(30) |
|          | 屋外                    | 40(30) | 50(40) |
|          | 擁壁                    | 50(40) | 50(40) |
| 土に接する部分  | 柱・梁・床スラブ・壁<br>布基礎の上り  | 50(40) | 50(40) |
|          | 基礎・擁壁                 | 70(60) | 70(60) |

1. ( )内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上げありとは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3. \*1 品質・施工法に応じ、工事監督者の承認で10%減の値とする事が出来る。
4. \*2 軽量コンクリートの場合は、これに10%加算する。
5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

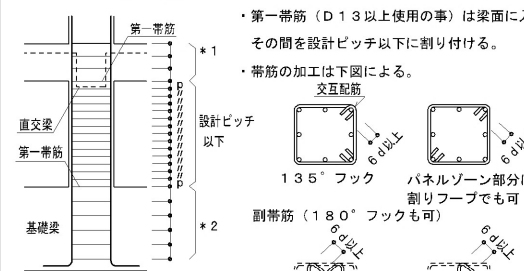
## 3-1 主筋の継手



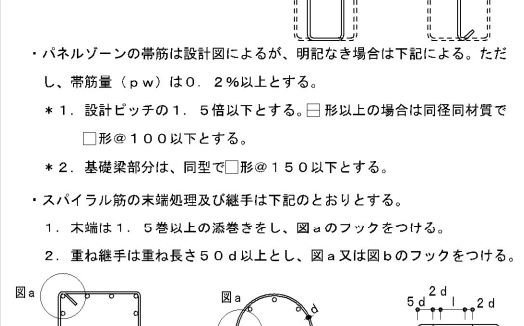
## 3-2 主筋の定着



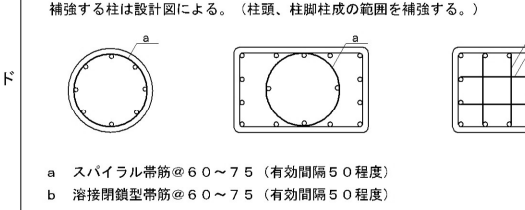
## 3-3 帯筋副帯筋



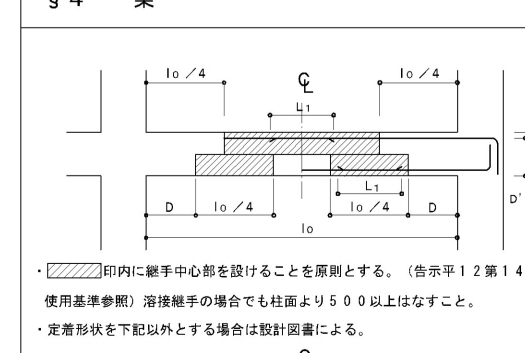
## 3-4 補助筋



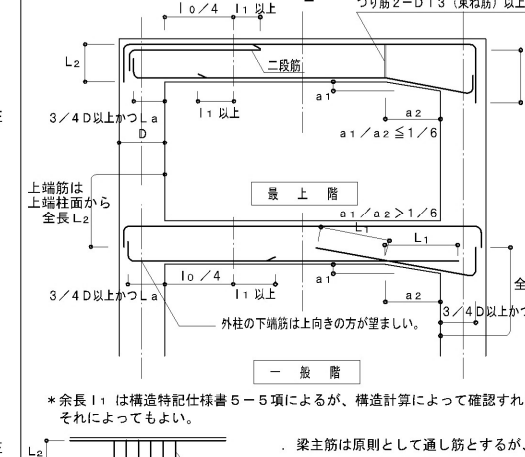
## 3-5 柱のコンファインド補強



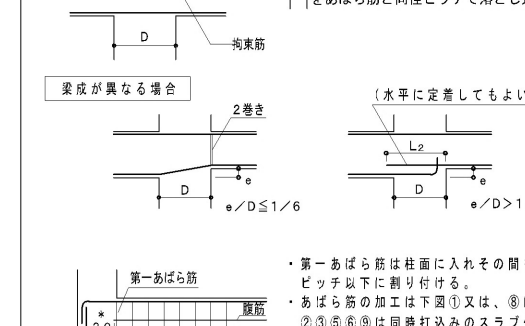
## 4-1 主筋の継手



## 4-2 主筋の定着及び余長



## 4-3 あばら筋副あばら筋

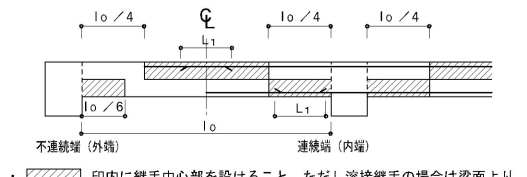


鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2) 2019年度版

4-4 補助筋



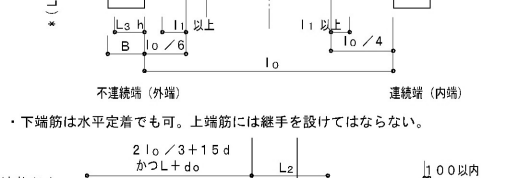
4-5 小梁及び片持梁 a) 小梁継手



定着

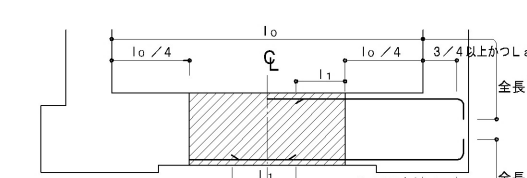


b) 片持梁継手

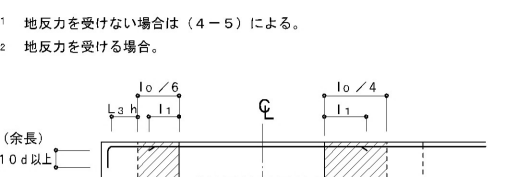


4-6 基礎梁及び基礎小梁

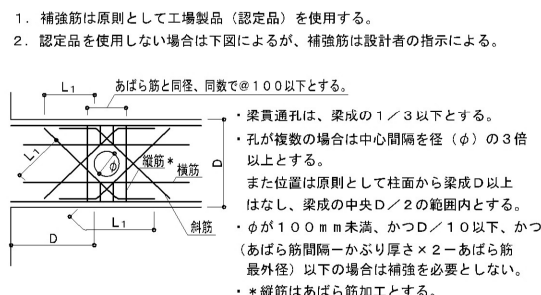
a) 基礎梁の継手及び定着



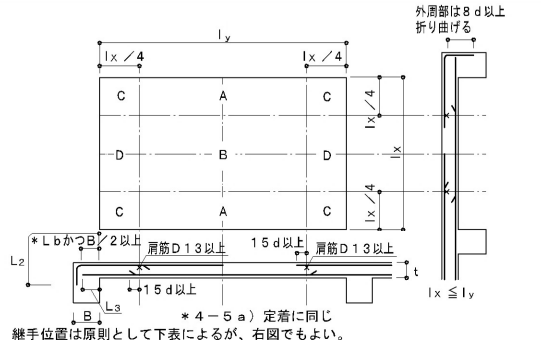
b) 基礎小梁の継手及び定着



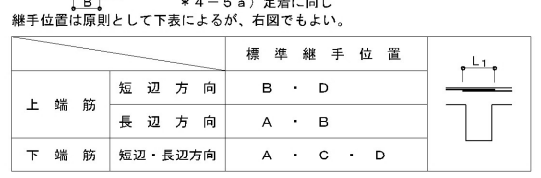
4-7 梁の貫通補強



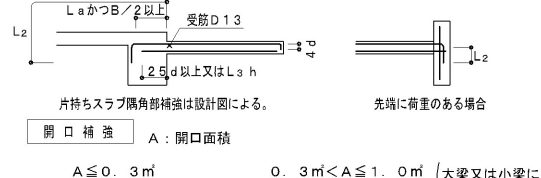
5-1 鉄筋の折り曲げ及び定着



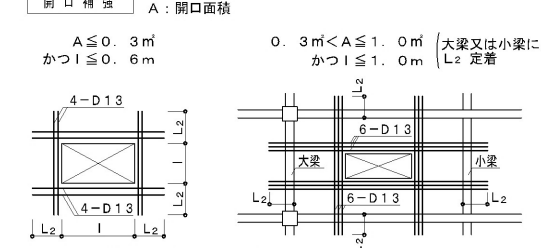
5-2 継手



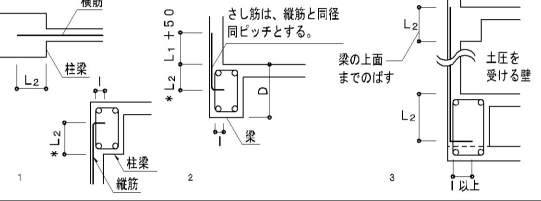
5-3 片持ちスラブ



5-4 補強筋



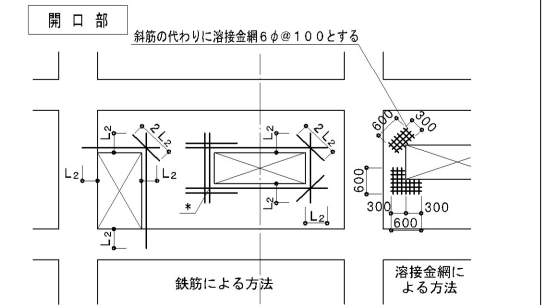
6-1 定着及び継手



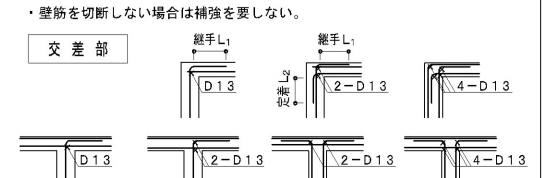
6-2 壁配筋



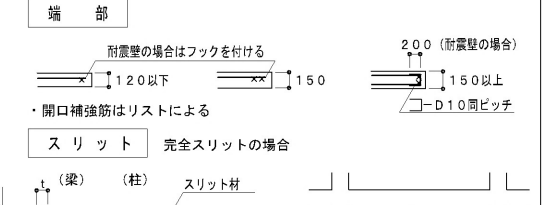
6-3 補強筋



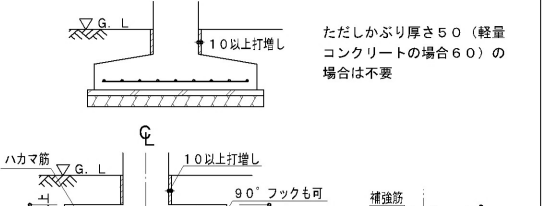
7-1 独立基礎



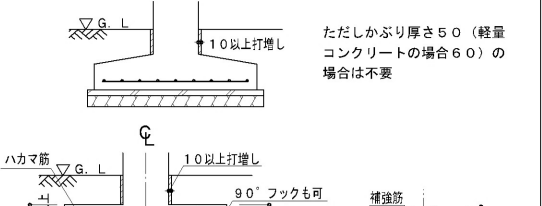
7-2 杭基礎



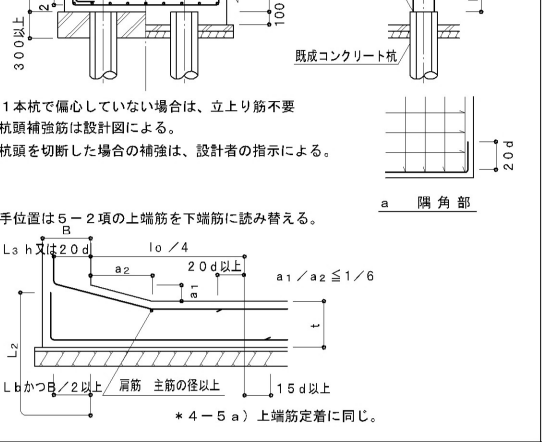
7-3 べた基礎継手及び定着



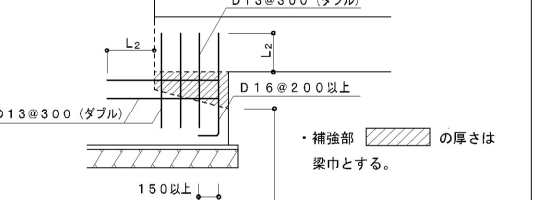
§7 基礎



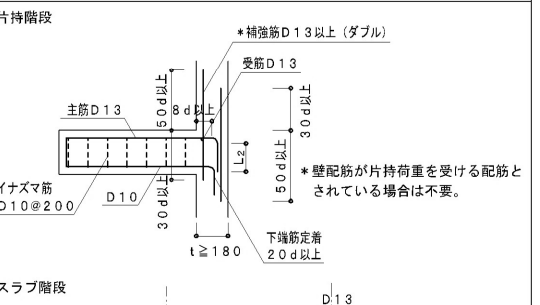
§8 その他



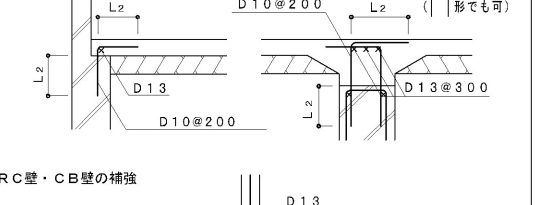
7-4 基礎と基礎梁



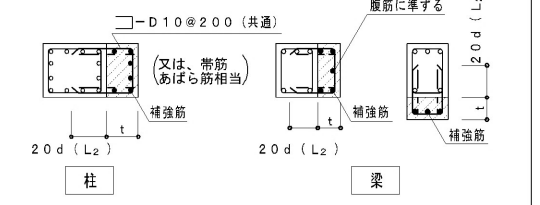
8-1 階段



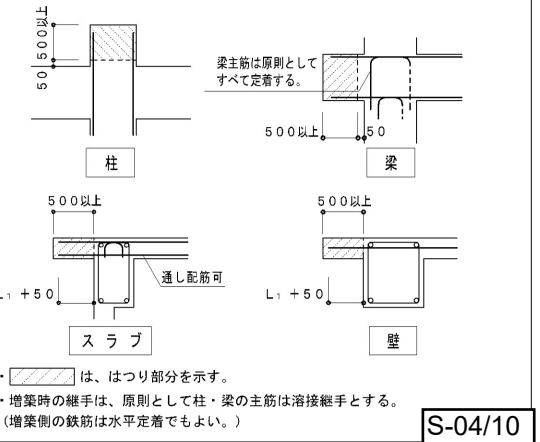
8-2 土間コンクリート

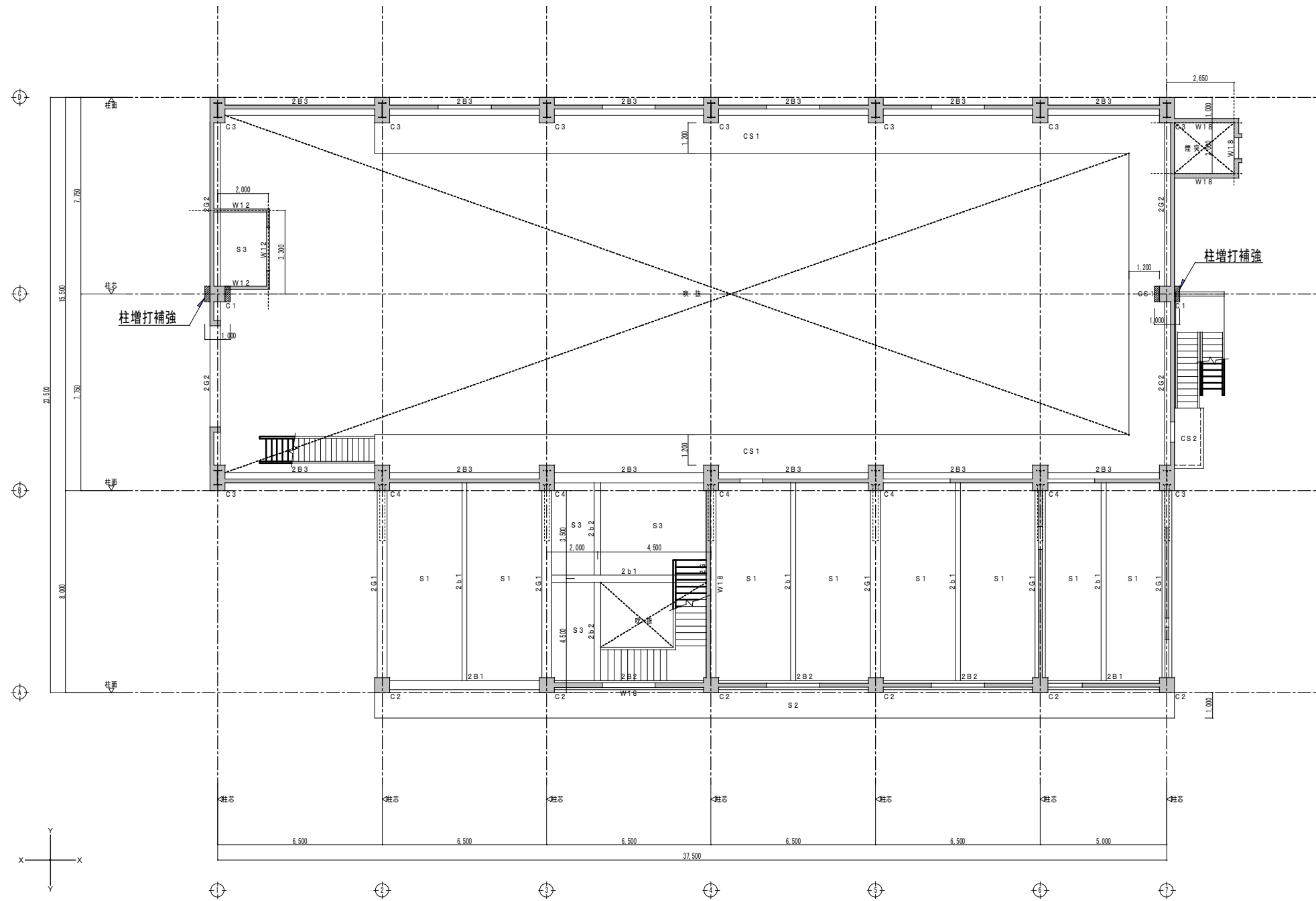


8-3 打増し補強



8-4 増築予定



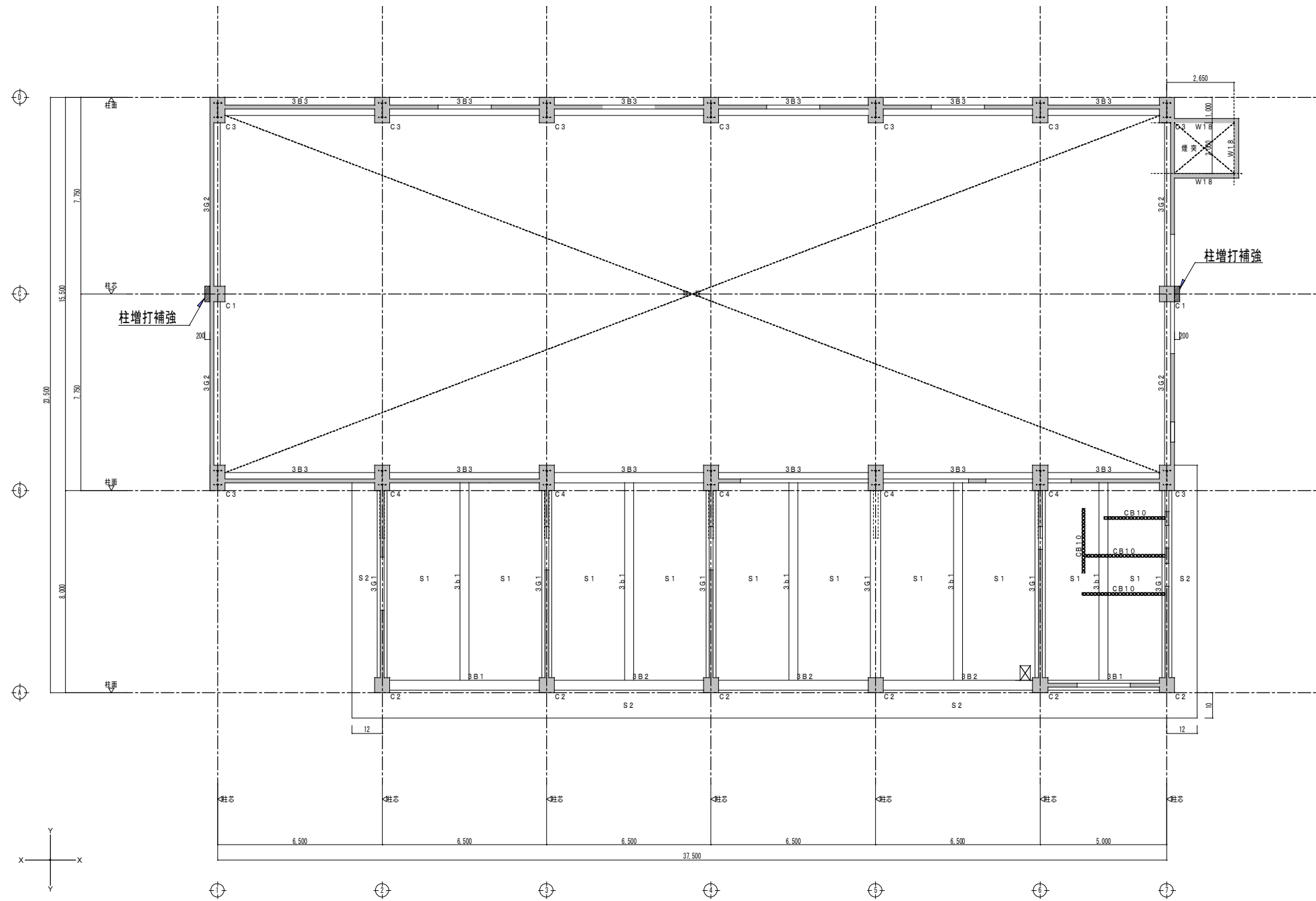


1階柱2階床梁伏図 1/100

特記無きRC壁は、W15とする。  
特記無き小梁は、均等割り付けとする。

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|      |                    |      |           |
|------|--------------------|------|-----------|
| 年度   | 令和 年度              |      |           |
| 工事名  | 羽津ポンプ場耐震補強工事       |      |           |
| 図面名称 | 補強位置図 1階柱2階床梁伏図    |      |           |
| 縮尺   | A1 S=1:100         | 図面番号 | S-05 / 10 |
|      | A3 S=1:200         |      |           |
| 設計者  | 株式会社エフウォーターマネジメント  |      |           |
|      | 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |      |           |
|      | 令和 3年 3月 調製        |      |           |

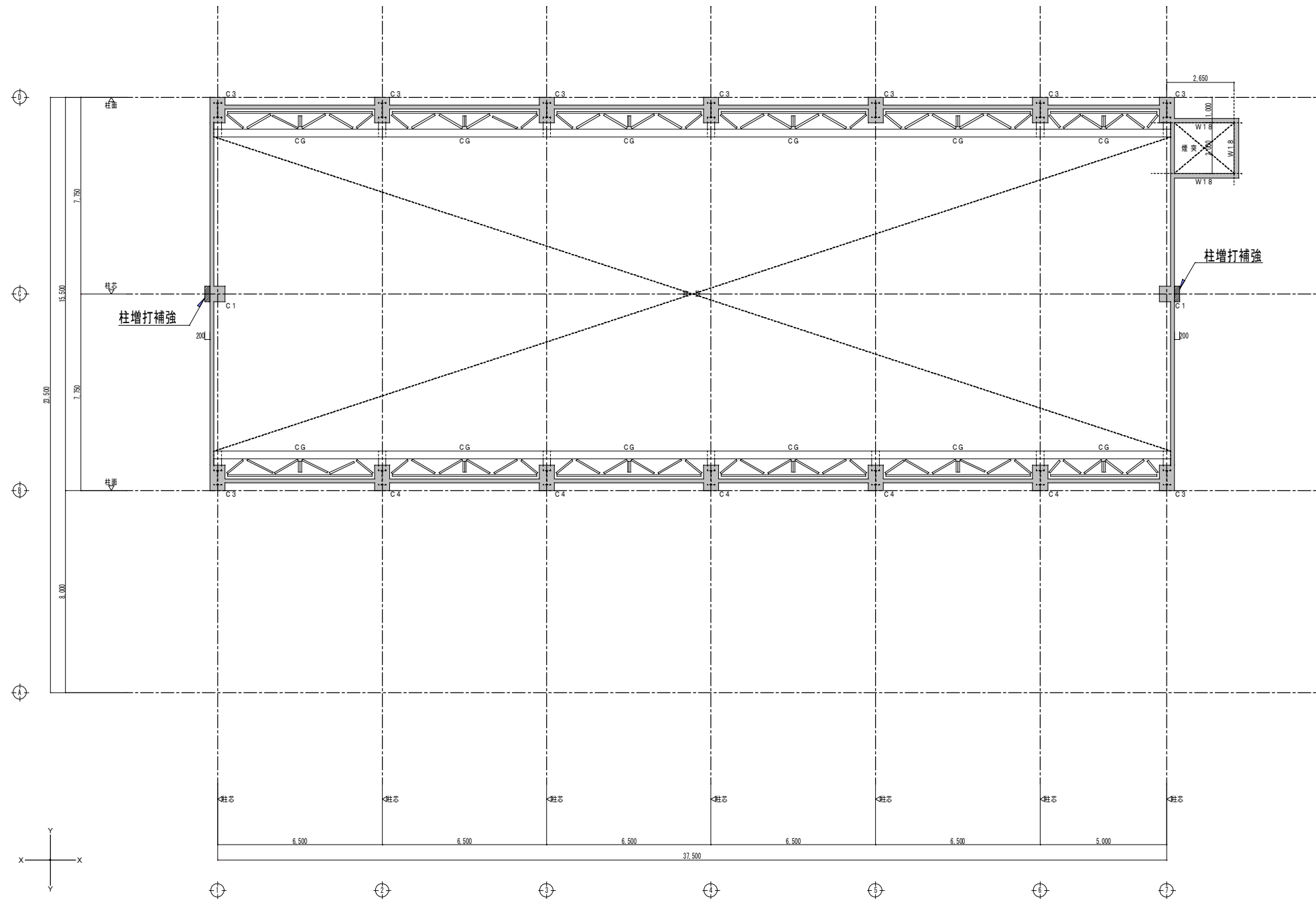


2階柱3階床梁伏図 1/100

特記無きRC壁は、W15とする。  
特記無き小梁は、均等割り付けとする。

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                   |      |           |
|--------------------|-------------------|------|-----------|
| 年度                 | 令和 年度             |      |           |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事      |      |           |
| 図面名称               | 補強位置図 2階柱3階床梁伏図   |      |           |
| 縮尺                 | A1 S=1:100        | 図面番号 | S-06 / 10 |
|                    | A3 S=1:200        |      |           |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント |      |           |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                   |      |           |
| 令和 3年 3月 調製        |                   |      |           |



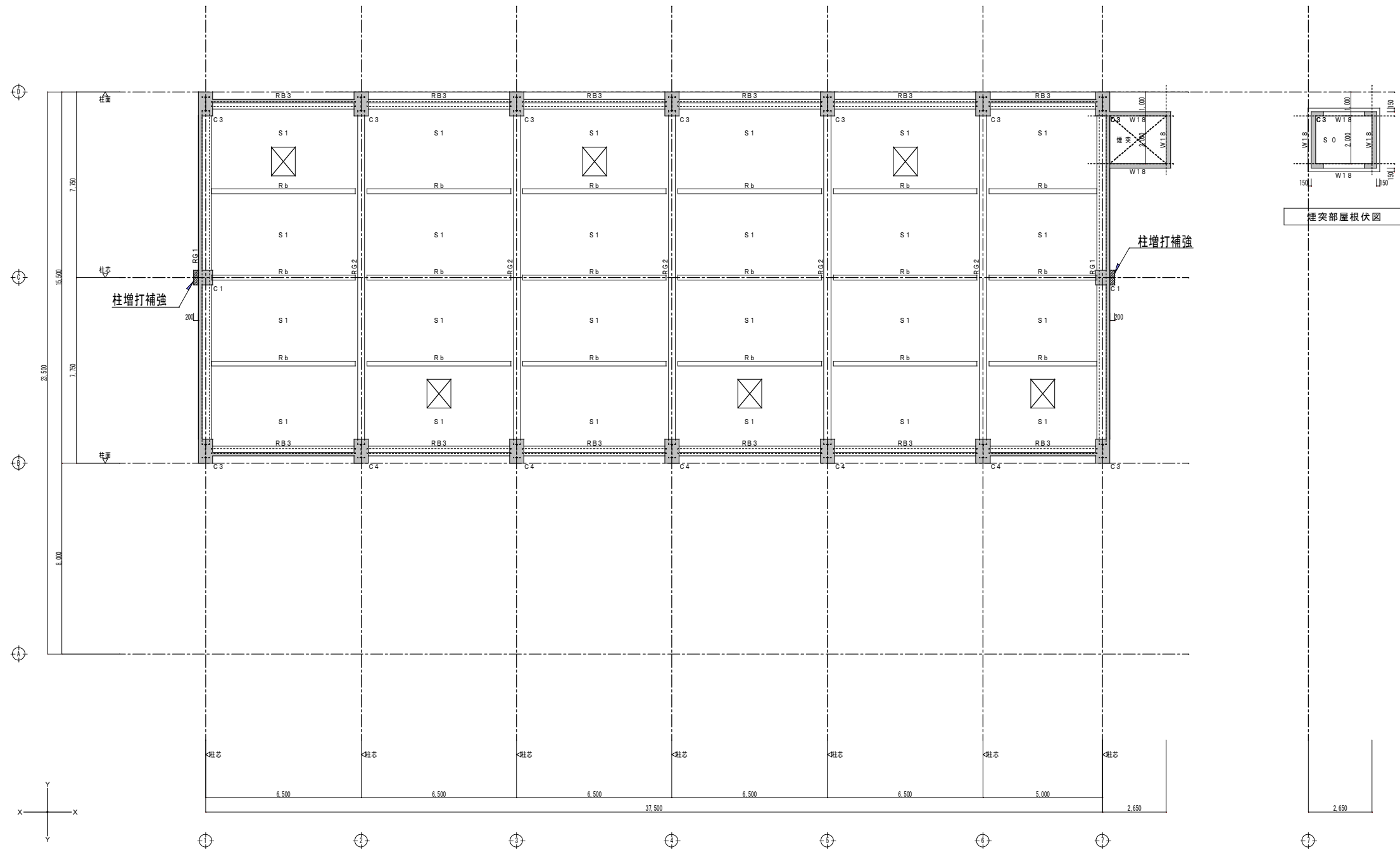
3階柱クレーンガーダー階床梁伏図 1/100

特記無きRC壁は、W1.5とする。

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(又)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                        |      |           |
|--------------------|------------------------|------|-----------|
| 年度                 | 令和 年度                  |      |           |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事           |      |           |
| 図面名称               | 補強位置図 3階柱クレーンガーダー階床梁伏図 |      |           |
| 縮尺                 | A1 S=1:100             | 図面番号 | S-07 / 10 |
|                    | A3 S=1:200             |      |           |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント      |      |           |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                        |      |           |
| 令和 3年 3月 調製        |                        |      |           |



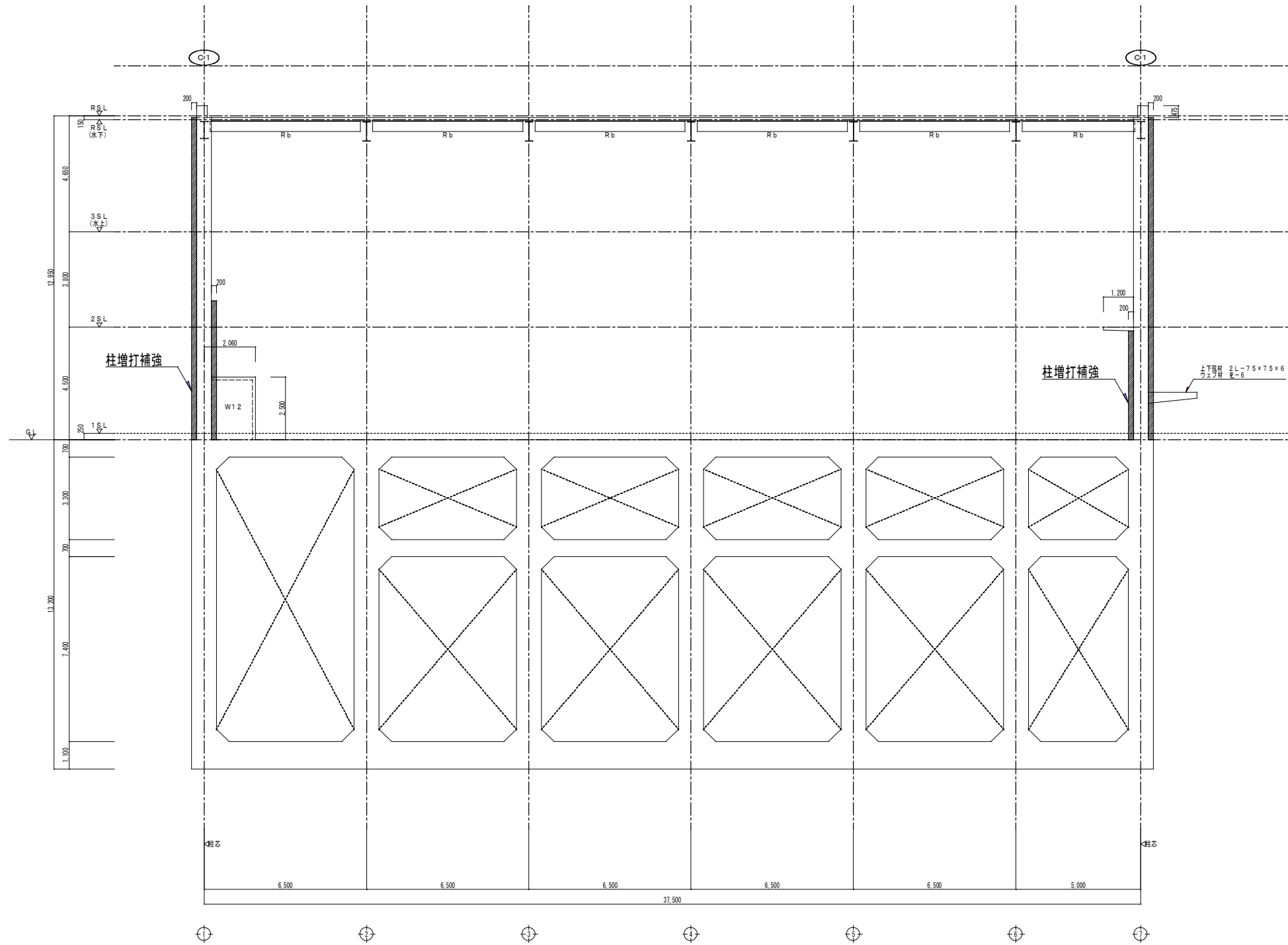


3階柱R階床梁伏図 1/100

特記無きRC壁は、W15とする。  
特記無き小梁は、均等割り付けとする。

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

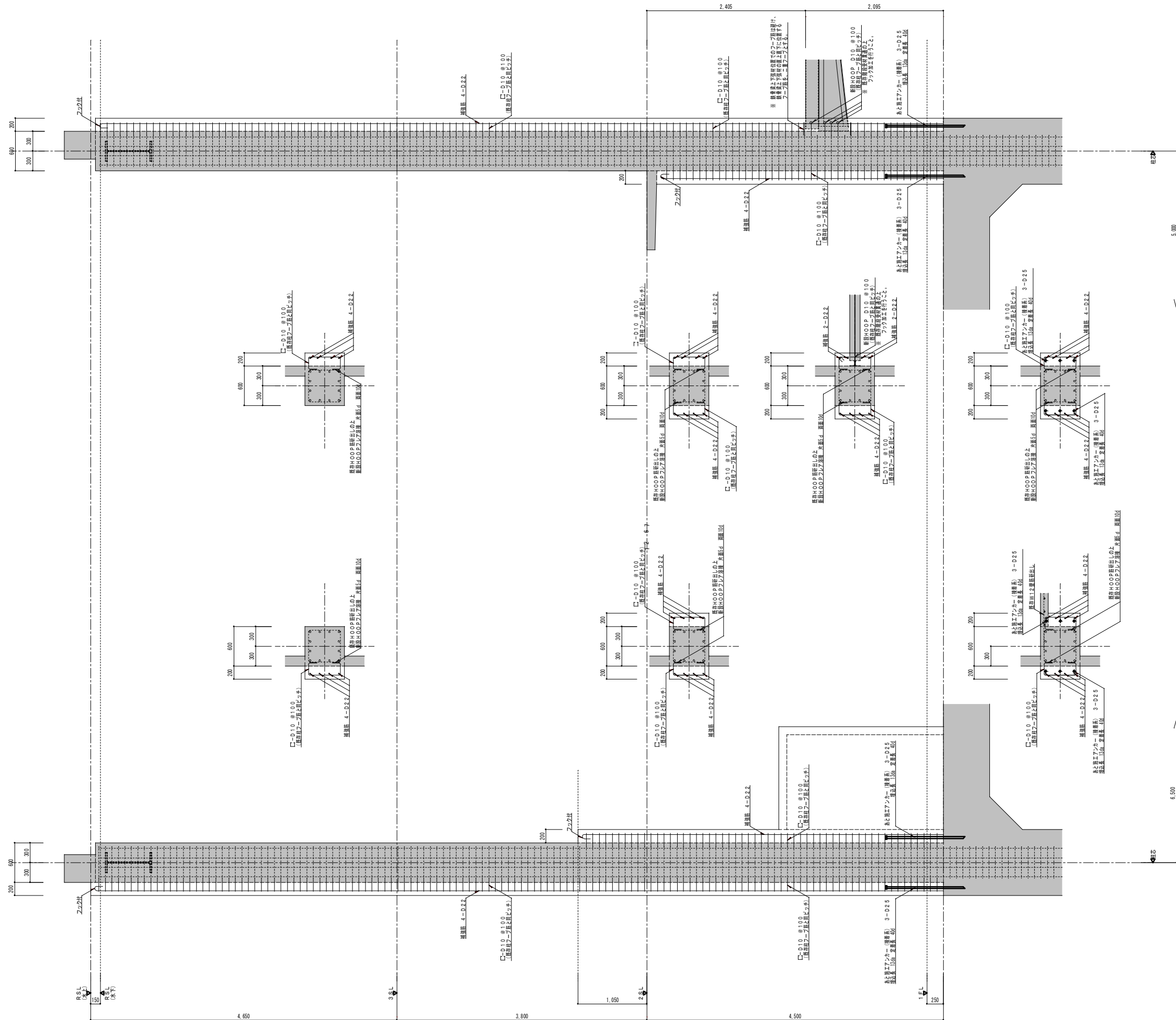
|                    |                   |      |           |
|--------------------|-------------------|------|-----------|
| 年度                 | 令和 年度             |      |           |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事      |      |           |
| 図面名称               | 補強位置図 3階柱R階床梁伏図   |      |           |
| 縮尺                 | A1 S=1:100        | 図面番号 | S-08 / 10 |
|                    | A3 S=1:200        |      |           |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント |      |           |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                   |      |           |
| 令和 3年 3月 調製        |                   |      |           |



C 通軸組図 1/100

株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(ヌ)第354号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

|                    |                   |      |           |
|--------------------|-------------------|------|-----------|
| 年度                 | 令和 年度             |      |           |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事      |      |           |
| 図面名称               | 補強位置図 C通軸組図       |      |           |
| 縮尺                 | A1 S=1:100        | 図面番号 | S-09 / 10 |
|                    | A3 S=1:200        |      |           |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント |      |           |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                   |      |           |
| 令和 3年 3月 調製        |                   |      |           |



株式会社エフウォーターマネジメント 一級建築士事務所  
 滋賀県知事登録(又)第 354 号  
 一級建築士(大臣)登録第183114号 小幡直己

C-通補強詳細図 1/30

|                    |                        |      |           |
|--------------------|------------------------|------|-----------|
| 年度                 | 令和 年度                  |      |           |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事           |      |           |
| 図面名称               | 補強詳細図 柱増打補強詳細図         |      |           |
| 縮尺                 | A1 S=1:30<br>A3 S=1:60 | 図面番号 | S-10 / 10 |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント      |      |           |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                        |      |           |
| 令和 3年 3月 調製        |                        |      |           |

羽津ポンプ場耐震補強工事 設計図

仕様書
I. 工事概要

1. 工事場所 四日市市 大字羽津 地内
2. 建物概要

Table with 6 columns: 建物名称, 構造, 階数, 建築基準法による延べ面積 (㎡), 消防法施行令別表第一, 備考

3. 工事種目 (O印の付いたものを適用する)

Table with 2 columns: 建物別及び屋外工事種目, 工事種別

4. 指定部分 O 無 ・ 有 ( 部位 : )
指定部分工期 令和 年 月 日

II. 工事仕様
1. 共通仕様
(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通大臣官庁官庁官庁官庁部制定の下記仕様書等のうち、O印の付いたものによる。

Table with 2 columns: 項目, 特記事項

1 通用区分
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
・ 風圧力
風速 (V0=34m/s)
地表粗度区分 ( ・ I ・ II ・ III ・ IV )
・ 積雪荷重
垂直積雪量 ( 0.3m )

2 環境への配慮
(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。
① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、断熱材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセドアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③ 接着剤は、可塑剤 (フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-m-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く) が添加されていない材料を使用する。
④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。
(2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは、次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。
① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
④ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
(3) 「国等による環境物品等の調達に関する法律」に基づく特定調達物品等に関する判断の基準は、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針 (平成27年2月閣議決定)」による。

項目

特記事項

3 材料・機材の品質等
(1) 本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
(2) 下表に示す材料・機材等の製造業者等は次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。
① 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
② 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
③ 安定的な供給が可能であること。
④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること。

Table with 2 columns: 機材名, 名称

5 電気工作物の種類
・ 50Hz O 60Hz
・ 事業用電気工作物
・ 一般用電気工作物
電気保安技術者
・ 要 ・ 不要

6 電気工事士
契約電力500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工を行うものとする。

7 工事用仮設物
すべて受注者の負担とする。
構内につくることが ・ できる ・ できない

9 仮設備工事
仮設備期間 ( ・ 図示 ・ )
仮電源等 ( ・ 受変電設備 ・ 発電設備 ・ 電灯設備 ・ 図示 )

10 養生
養生範囲 ( ・ 図示 ・ )
養生方法 ( ・ ・ )

11 施工調査
・ はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に定式様式で現場調査を行うこと。
・ 石綿含有分析調査 (定性分析により石綿が含有されている場合は、定量分析を実施する。)
・ 既設埋設配管等を切断または接続する箇所は、事前に詳細調査を行うこと。

12 非破壊検査等
構造部等の機械はつり箇所は、非破壊検査等による埋設物の調査を行い、監督職員に報告書を提出する。
なお、放射線透過検査による場合は特記とし、撮影枚数は、1枚以上/部位とする。

13 穿孔作業
既存躯体に穿孔する場合は金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を使用する。

14 耐震安全性の分類と耐震施工
(1) 設備機器、電気配線の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)による。(100kg以上の機器を対象とする。)

1) 設計用水平地震力
機器の重量[kN]に、設計用水平震度を乗じたものとする。
なお特記なき場合、設計用水平震度は次のとおり。

Table with 4 columns: 設置場所, 機器種別, 重要機器, 一般機器

※水槽類には、オイルタンク等を含むものとする。
上層階とは、2～6階建の場合は上層階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。
中間階とは、地階、1階を除く各階で上層階に該当しないものとする。

重要機器
・ 配電盤 ・ 発電装置 ・ 直流電源装置 ・ 交流無停電電源装置
・ 交換機 ・ 火灾報知受信機 ・ 中央監視制御装置
・ キュービクル ・ その他 ( )

2) 設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

項目

特記事項

15 建設発生土の処理
・ 埋戻し後の建設発生土は、監督職員が指示する構内の場所に敷きならしとする。
・ 構外搬出適切な処理とする。
※建設発生土を搬出する場合は、事前に書面にて処分地の報告 (位置図等)を行い、処分地の処理状況が分かる写真を提出すること。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。
分電盤、制御盤及び端子盤等の二次側以降の配管・配線は、経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更しても差し支えない。
また、機械室等の床埋設配管は図面上 戸管で記載している場合であっても、立上げ部分等の露出配管部分は金属管とし、その場合は全長に亘って接地線を設ける。

16 電線本数、管路等
17 金属製電線管の塗装・仕上げ
18 フラッシュプレート
19 電線類
EM-UTPケーブルは、用途に応じ色分けすること。

20 二重床内器具
二重床内に設置する器具の位置表示として、マーキングを直上の天井面に付けること。
また、用途に応じ色分けすること。

21 インバータ装置の規約効率
三相可変速電動機用インバータ装置の規約効率は次の数値以上とする。

Table with 2 columns: 電動機出力 (kW), 規約効率 (%)

備考 (1) 規約効率は、JET-TR245「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。
(2) 規約効率は、JIS C 4212「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V、IP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

22 高効率誘導電動機の配線用遮断器等の選定
高効率誘導電動機回路保護用の配線用遮断器等の選定は下記による。

Table with 2 columns: 電動機, 器具容量、コンデンサ回路の配線

200V三相誘導電動機回路の器具容量等

Table with 4 columns: 電動機, 器具容量、コンデンサ回路の配線

400V三相誘導電動機回路の器具容量等

Table with 4 columns: 電動機, 器具容量、コンデンサ回路の配線

項目

特記事項

Table with 4 columns: 接地の種類, 記号, 接地抵抗値, 接地極 (参考)

Table with 4 columns: 接地の種類, 記号, 接地抵抗値, 接地極 (参考)

24 天井仕上げ工事
図面において、室名に ( ) を付したものは直天井を示し、それ以外は二重天井の部屋を示す。

25 取付高さ
壁付、壁掛けの機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として下表による。

Table with 3 columns: 名称, 測点, 取付高さ [mm]

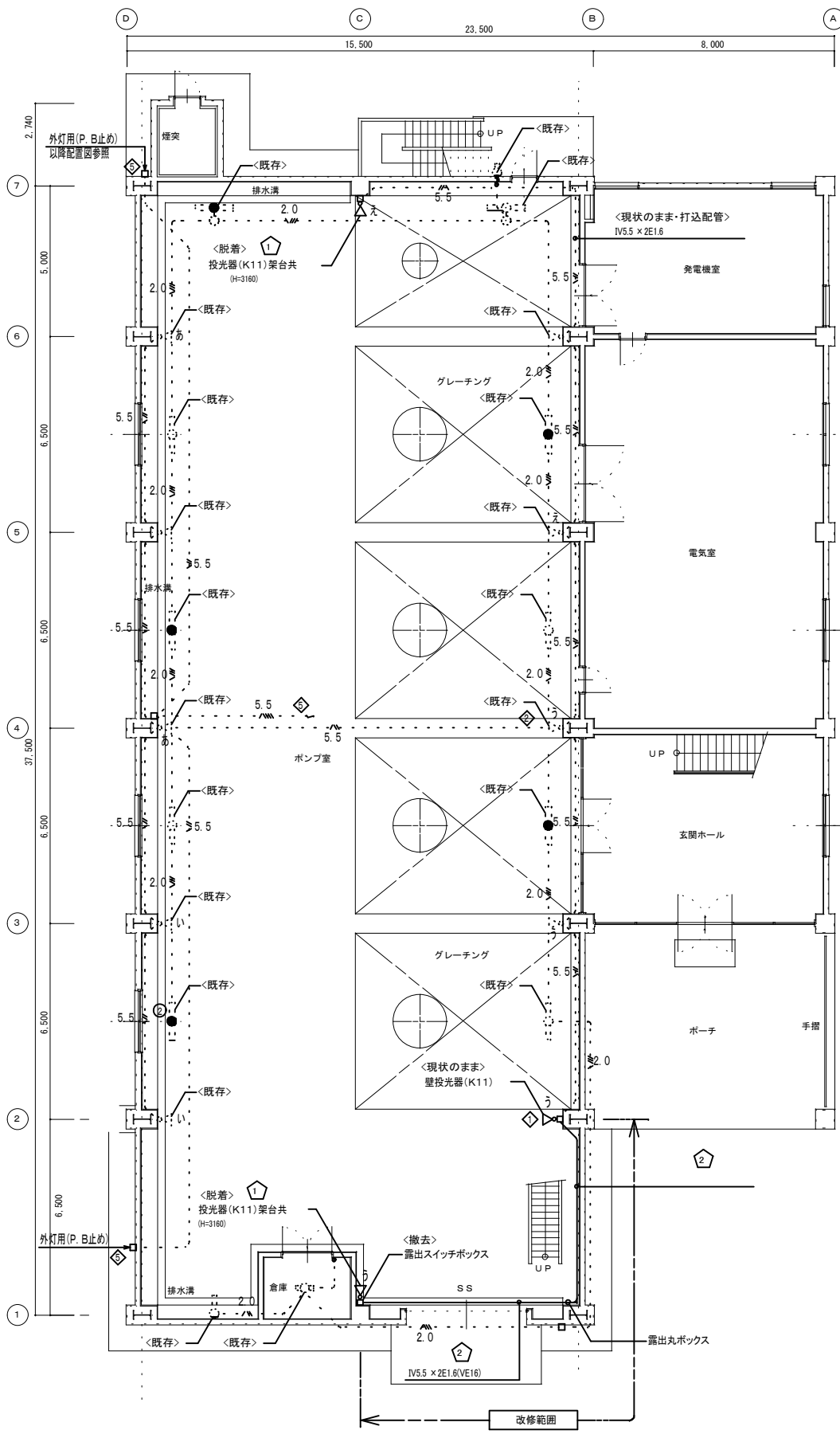
(参考) 天井面を基準とする取付高は、天井高さが2,500mmから3,000mmの場合に適用する。天井高さが3,000mm以上の場合及び機器の使用に支障が生じる場合は、監督職員と協議する。

26 他工事又は他工種との取合い
工事区分表による。ただし、これにより難しい場合は、監督職員と協議する。

27 資源有効利用促進
※本工事が資源の有効な利用の促進に関する法律 (平成三年法律第四十八号)の規定により再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合 (下記内容該当工事)は、受注者は、工事の施工前に発注者に再生資源利用促進計画を提出し、その内容を説明しなければならず、工事の完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならない。
・ 建設副産物を搬出する際の計画
1. 土砂500㎥以上
2. コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材の合計が200t以上
・ 再生資材を利用する際の計画
1. 土砂500㎥以上
2. 砕石500t以上
3. 加熱アスファルト200t以上

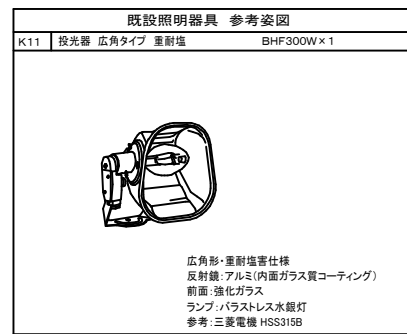
| 項目  | 特記事項   | 項目   | 特記事項   | 〇 アスベスト含有物の取扱い   |
|---|--|--|--|--|
| <p>28 工事用電力、水等</p> <p>29 産業廃棄物税</p> <p>30 工事の保険</p> <p>31 建設共済等</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>本工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は、受注者の負担とする。</li> <li>市支給とする。ただし、構内既存施設より利用可能な範囲に限る。</li> <li>本工事は産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が本工事により生じた産業廃棄物税が課税対象となった場合には、翌年度に産業廃棄物税納税証明書等を添付して、本工事により生じた産業廃棄物税相当分を請求する事ができる。</li> <li>建設工事保険（管理財物担保特約に加入）（保険証券の写しを提出）</li> <li>請負業者賠償責任保険（保険証券の写しを提出）</li> <li>加入期間は工事期間を原則とする。（必要に応じて延長するものとする。）</li> <li>下記の制度について加入すること。</li> <li>法定外労災補償制度（加入証明書を提出）</li> <li>建設業退職金共済制度に加入し、掛金収納書を提出する。</li> <li>共済証紙購入額</li> <li>請負額（消費税含む）の0.5/1000以上</li> <li>ただし、建設業退職金共済については請負額が500万円以上の場合とする。</li> <li>※1 他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする。</li> <li>※2 契約変更により工事価格が上昇した場合は不足分を追加購入すること。</li> </ul>   | <p>46 位置ボックス</p> <p>47 最上階の埋込配管</p> <p>48 既設との取合い</p> <p>49 自家発電設備の配管工事等</p> <p>50 地中配線の埋設深さ等</p> <p>51 施工条件</p> | <p>位置ボックスで金属製を使用する場合、電力用には接地を施す。</p> <p>最上階の天井スラブへの埋込配管は、原則として避けるものとする。</p> <p>本工事施工に伴う既設設備の軽微な加工改造は、本工事とする。</p> <p>原動機、発電機と付属各機器間の燃料油、冷却水などの配管、制御用配線等は、監督職員の承諾を受けて図面と多少相違してもさしつかえない。</p> <p>埋設深さは原則0.6m以上とし、それにより難しい場合は監督員と協議し決定すること。</p> <p>地中配管に埋設標識シート(2倍)を ・ 設ける ・ 設けない</p> <p>電気設備の改修等のため、在来設備を一時停止させる必要のある場合は、予めその時期、停止の範囲及び工法等を施設管理者などの関係者と打ち合わせ、場合によっては停電計画書等を提出し、承諾を得たうえで作業を行うものとし、施設の運営に支障を来さないよう特に注意する。</p> <p>・ 施工可能日 ・ 土、日曜日、祝日施工有り ・ 指定なし</p> <p>・ その他（ ）</p> <p>・ 施工可能時間帯 ・ 指定有り（ 時～ 時 ） ・ 指定なし</p> <p>・ 高さ5mを超える箇所での作業を有する場合の墜落制止用器具は7mハ型を使用すること。</p> <p>・ 週休二日制工事 試行工事</p> <p>対象外工事（※受注者希望型）</p> <p>四日市市週休 2 日制工事試行要領に従うこととし、「月2回土日完全週休 2日制試行工事（受注者希望型）」に係る特記仕様書を適用する。</p> <p>【令和4年10月を適用（四日市市HP 入札情報参照）</p> <p>尚、発注者の指示又は承諾により週休2日制に係る休日に施工する場合は、休工日を振り替えることができる。</p> | <p>〇 一般事項</p> <p>2 アスベスト含有建材の処理工事</p> <p>3 アスベストの含有調査</p> <p>4 アスベスト含有吹付け材の除去</p>  |
| <p>32 工事実績情報の登録</p> <p>33 施工体制台帳の提出</p> <p>34 資材購入及び下請業者の選定に際しての留意事項</p> <p>35 監督職員事務所</p> <p>36 完成時の提出図書</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>工事請負代金額500万円以上の工事は、工事実績情報（CORINS）の登録手続を行うこと。</li> <li>公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律により、施工体制台帳の写しを提出のこと。</li> <li>下請契約締結後、速やかに提出すること。変更時も同様とする。</li> <li>なお、警備業者についても記載すべき下請負人の範囲に含むものとする。</li> <li>資材購入及び工事の一部を下請業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、できる限り市内業者を優先させること。</li> </ul>   | <p>52 地中配線の埋設標識</p> <p>53 照明設備の照度測定</p> <p>54 施工図等の取扱い</p>   | <p>〇 対象外工事</p> <p>地中配線における埋設標識の材質及びその個数は、図面に記載のない場合は次による。</p> <p>・ 鉄製（ 箇所） ・ コンクリート製（ 箇所）</p> <p>一般照明及び非常照明の照度測定を行う。照度測定箇所は、監督職員の指示による。</p> <p>施工図等の著作権に関わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。</p>   | <p>〇 アスベスト含有吹付け材の除去</p> <p>6 アスベスト含有保温材等の除去</p> <p>7 アスベスト含有成形板の除去</p> <p>8 アスベスト含有配管接続部シール材の除去</p> <p>9 特記事項</p>  |
| <p>37 発生材の処理</p> <p>38 工事記録</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>設計者 〇 設けない</li> <li>監督職員の指示により下記のものを提出する。</li> <li>工事完成図（竣工図（修正済みの設計図）+施工図）</li> <li>完成図 CADデータ PDFデータ（CD-R）（1）枚</li> <li>完成図（A4版に製本したもの）2部</li> <li>完成図（原図サイズで機械設備図と併せて二つ折り製本したもの）（3）部</li> <li>保安に関する資料等（1）部</li> <li>工事写真（紙、CD-R）</li> <li>引渡しを要するもの 〇 引渡しを要するもの以外</li> <li>構外搬出適切処理とする。</li> <li>廃棄物管理系（マニュアル）確認表を作成し、監督員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。</li> <li>特別管理産業廃棄物</li> <li>PCB使用機器は、関係法令に従い適切に処置する。（PCB使用機器 ）</li> <li>再使用又は再資源化を図るもの</li> <li>工事記録は以下を行うこと。</li> <li>工事写真</li> <li>工程写真 埋設部、いんべい部、施工工程、材料等</li> <li>完成写真</li> <li>※撮影用具にデジタルカメラを用い、サービスサイズ程度の大きさをA4用紙に印刷し、提出する。</li> <li>※次の図書を参考とする。</li> <li>国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真の撮り方 建築設備編」</li> <li>工事日報、納品伝票</li> <li>工事日報、納品伝票等の写しは監督員が提出を求めた場合に提出すること。</li> </ul> | <p>52 地中配線の埋設標識</p> <p>53 照明設備の照度測定</p> <p>54 施工図等の取扱い</p>   | <p>5 アスベスト含有仕上塗材の除去</p> <p>6 アスベスト含有保温材等の除去</p> <p>7 アスベスト含有成形板の除去</p> <p>8 アスベスト含有配管接続部シール材の除去</p> <p>9 特記事項</p>  | <p>〇 アスベスト含有物の取扱い</p> <p>労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針（建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針）を遵守すること。</p> <p>〇アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。</p> <p>〇石綿障害予防規程及び大気汚染防止法の各規定に基づく官公署等への届出等を行うこと。</p> <p>〇石綿含有事前調査結果の都道府県知事及び労働基準監督署への報告を行うこと。</p> <p>・アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。</p> <p>・アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を書面にて行うこと。</p> |
| <p>39 銅製電線管</p> <p>40 呼び線</p> <p>41 再使用機器</p> <p>42 タンブラスイッチ</p> <p>43 配線器具等</p> <p>44 機器仕様</p> <p>45 合成樹脂管配線</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>特記なき銅製電線管（19.25...75）の表示は全て薄鋼電線管とする。</li> <li>但し、屋内箇所においては、表示されているものと同一外形のおなじし電線管（E19.E25...E75）を使用してもよい。</li> <li>長さ1m以上の入線しない電線管には、1.2mm以上のビニル被覆鉄線を挿入する。</li> <li>取り外し再使用機器は、清掃及び絶縁測定のおえ、取り付ける。</li> <li>ただし、絶縁劣化等使用に耐えない場合は、監督職員に報告する。</li> <li>タンブラスイッチは、図面に特記なき場合、ネーム付とする。</li> <li>配線器具（スイッチ他）の現場納り等による仕様、数量については監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。</li> <li>使用機器の製造者選定による若干の仕様の相違は、監督職員の承諾を得れば、可とする。</li> <li>合成樹脂管可とう電線管及び付属品は、P-F管（単層管）の波付管以上を使用する。</li> </ul>   | <p>52 地中配線の埋設標識</p> <p>53 照明設備の照度測定</p> <p>54 施工図等の取扱い</p>   | <p>〇 アスベスト含有物の取扱い</p> <p>労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針（建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針）を遵守すること。</p> <p>〇アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。</p> <p>〇石綿障害予防規程及び大気汚染防止法の各規定に基づく官公署等への届出等を行うこと。</p> <p>〇石綿含有事前調査結果の都道府県知事及び労働基準監督署への報告を行うこと。</p> <p>・アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。</p> <p>・アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を書面にて行うこと。</p>   | <p>〇 アスベスト含有物の取扱い</p> <p>労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針（建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針）を遵守すること。</p> <p>〇アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。</p> <p>〇石綿障害予防規程及び大気汚染防止法の各規定に基づく官公署等への届出等を行うこと。</p> <p>〇石綿含有事前調査結果の都道府県知事及び労働基準監督署への報告を行うこと。</p> <p>・アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。</p> <p>・アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を書面にて行うこと。</p> |
|   |  |  |  | <p>〇 アスベスト含有物の取扱い</p> <p>労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針（建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針）を遵守すること。</p> <p>〇アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。</p> <p>〇石綿障害予防規程及び大気汚染防止法の各規定に基づく官公署等への届出等を行うこと。</p> <p>〇石綿含有事前調査結果の都道府県知事及び労働基準監督署への報告を行うこと。</p> <p>・アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。</p> <p>・アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を書面にて行うこと。</p> |

|                |          |    |                |      |     |                            |           |
|----------------|----------|----|----------------|------|-----|----------------------------|-----------|
| 図名             | 特記仕様書    | 縮尺 | 1:1/10<br>(A2) | 設計番号 | 工事名 | 図面番号                       |           |
|                | 建築電気設備 2 |    |                |      |     |                            | 作図 令和5年7月 |
| 四日市市都市整備部営繕工務課 |          |    |                |      |     | 1級建築士 登録第 号<br>四日市市諏訪町1番5号 | 2 / 3     |
|                |          |    |                |      |     | 令和5年4月版                    |           |



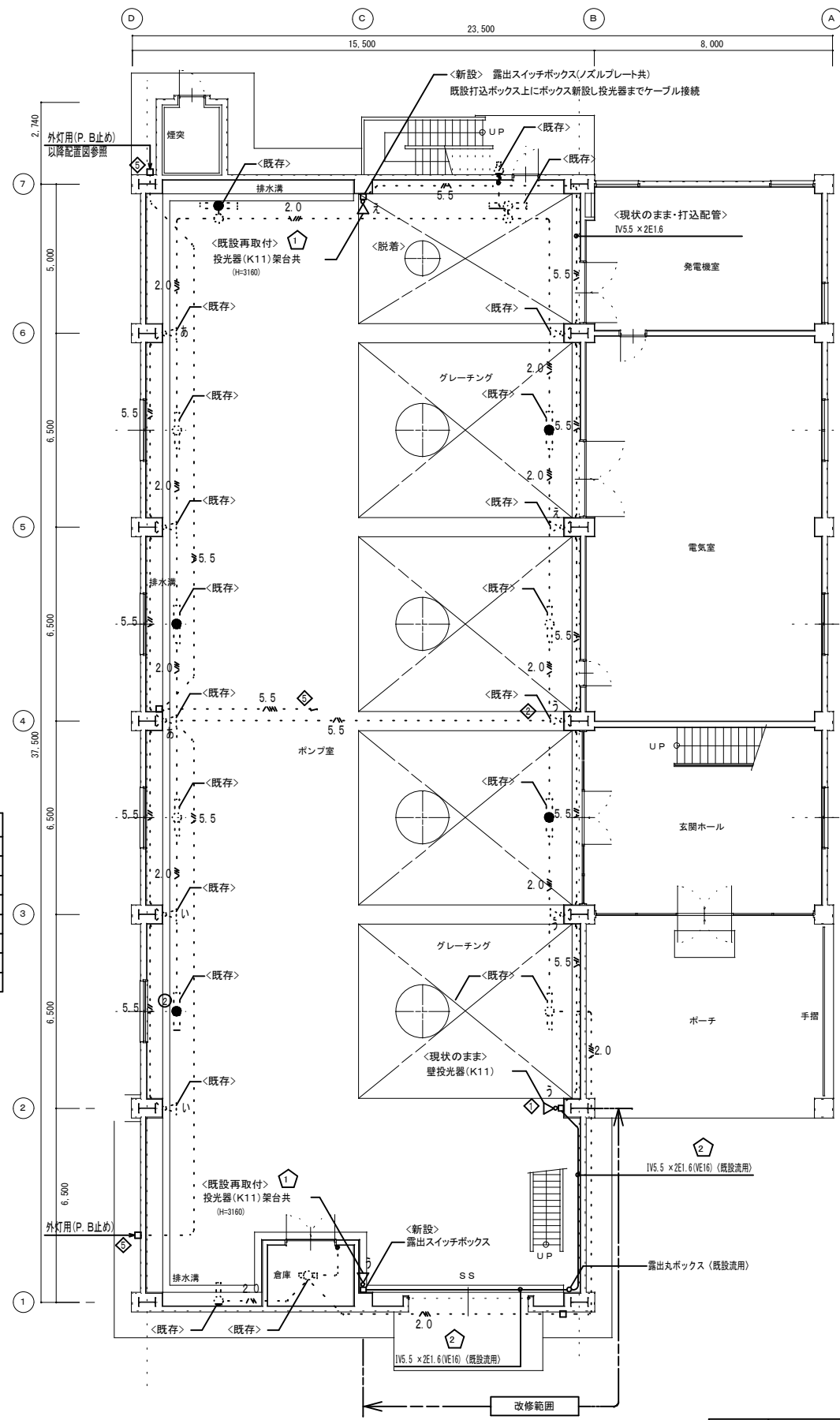
(現況・撤去) 1階平面図 S=1:100

| 記号  | 名称         | 凡例              | 規格 | 適用      |
|-----|------------|-----------------|----|---------|
| ○   | 投光器(架台共)   | H F300W         |    | <脱着再使用> |
| ○   | 蛍光灯        | FL20W-1 壁付      |    | <現状のまま> |
| ○   | 蛍光灯        | FL40W-1 逆富士型    |    | <現状のまま> |
| ○   | 蛍光灯(電池内臓)  | FL40W-1 逆富士型    |    | <現状のまま> |
| ○   | 埋込スイッチ     | IP15A x1 新金プレート |    | <現状のまま> |
| ○   | 露出丸ボックス    | 樹脂製             |    | <現状のまま> |
| ○   | 露出スイッチボックス | 樹脂製             |    | <新設更新>  |
| --- |            | 既存配線配管を示す       |    | <既存>    |



| 改修内容 (電灯設備) |                                 |        |
|-------------|---------------------------------|--------|
| 改修記号        | 改修内容                            | 備考     |
| ①           | 柱増打補強のため既存投光器2台の脱着を行う。          | 投光器再使用 |
| ②           | 壁取付架台(50×50山形鋼 300角)の脱着も含む。     | 架台再使用  |
|             | 既存投光器は清掃チェックの上再使用とする。           |        |
| ③           | ①通り柱増打補強のため図示改修範囲の電線・ケーブルは既設流用。 |        |
| ④           | 電線管については、柱増打箇所のみ撤去新設、他は既設流用。    |        |

| ポンプ室  |       |
|-------|-------|
| 既存・脱着 | K11 2 |



(改修後) 1階平面図 S=1:100

|                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 年度                 | 令和 年度                    |
| 工事名                | 羽津ポンプ場耐震補強工事             |
| 図面名称               | 建築電気設備 電灯設備<br>1階 平面図    |
| 縮尺                 | A1 S=1:100<br>A3 S=1:200 |
| 設計者                | 株式会社エフウォーターマネジメント        |
| 四日市市 上下水道局 技術部 施設課 |                          |
| 令和 年 月 調製          |                          |